

鑛山名	府縣名 又ハ國名	歴氣		機		鑿岩機又ハ截炭機		備考	
		名	稱	馬力	臺數	馬力	臺數		
三菱美唄	石狩					シイメンス電氣ドリル E四二二三香	〇五	一〇	増設
三菱芦別	同					インガイソルランド BUR四三〇香		五	同
登川	同	インガイソルランド 横置單氣筒		四〇		アイドピットハンマー P三八八A	三〇	三	同
幌春	同	インガイソルランド XC B二型		二五〇		サイパンCLE二香	三〇	一	同
幾春	同	インガイソルランド 單氣筒		八〇		C H 八香	一五	一	同
						フロットマン コイレシユナイダー		一	同
						同 ラゲアル		一	同
						インガイソルランド R一ニ香		五	同
						シイメンス四二三香		二	同
						サイパンCLE二	三〇	一	同
						フロットマンG C B	一五	二	同

鑛山名	府縣名 又ハ國名	歴氣		機		鑿岩機又ハ截炭機		備考	
		名	稱	馬力	臺數	馬力	臺數		
三井美唄	同	サイパンWG六香		九〇		インガイソルランド BAR三三香		二〇	新設
三井砂川	同	シカゴニューマチンク N S B		一〇〇		同 三九香		五	同
		インガイソルランド 往復動型		一七五		インガイソルランド R三九香	三〇	七	同
						三池製作所シイメンス型	〇六	一五	同
						サイパンCLE	三〇	二	同
						サイパンCLE	三〇	二	同
						三池製作所ハツエル型	一一	二	増設
						三池製作所電氣ドリル	〇八	一	同
						昭和万能コイルドリル	〇七五	一	同
						泉式電動		一	同
						シイメンス電氣ドリル	〇七五	二	新設
						アンバーウオームアル		五	同
						シイメンス電氣ドリル	〇七五	二	増設
						インガイソルランド BAR三三香		六	同
						同 R三九香		一	同

第二大谷	福岡	五〇	一	一六〇
龜山	同	六〇	一	一五
昭和三	同	五〇	二	一四
大谷	同		一	一三
入山	同		二	一二
粕屋	同	七五	一	一一
五	同	五〇	一	一〇
六	同		二	〇七

大沢特機製作所泉式電機ドリル	一五	一	一六〇
デ ン パ	〇五	一	一四
泉式電氣オーガ		一	一三
デンバークウオー九五番		二	一二
デ ン パ		二	一一
アトラスBOB一〇番		一	一〇
同 八 番		一	〇九
フロットマン		二	〇八
サ リ パ		三	〇七
ムィドンコイルピツク		二	〇六
フロットマンコイルピツク		二	〇五
アトラスコイルピツク		一	〇四
デンバークウオー九五番		一	〇三
インガールランド		一	〇二
インガールランド		一	〇一
ケルツグPBH5NA番		一	〇〇
フロットマンCA七番		一	九九
コイルピツク		一	九八
シーメンスE四二三番		一	九七
電氣オーガ		一	九六

大辻	同	二〇	一	一六〇
大君	同	二〇	一	一五
高松	同	二〇	二	一四
高	同		一	一三
中高	同		二	一二
中	同		一	一一
尾	同		二	一〇
鶴	同		一	〇九
同	同		二	〇八

泉式六〇〇番電氣オーガ	〇七	一	一六〇
同 五〇〇番電氣オーガ	〇七	一	一五
昭和式新式電氣オーガ	〇七	一	一四
泉式コイルドリル	〇七	一	一三
ユニバーサル炭炭機	二〇	一	一二
泉式コイルドリル	〇五	一	一一
昭和万能式コイルドリル	〇五	一	一〇
インガールランド		二	〇九
インガールランド		一	〇八
メーバーアノドカルソン	二〇	一	〇七
同CLE二型炭炭機	二〇	一	〇六
同C型炭炭機	二〇	一	〇五
昭和式コイルドリル	〇五	一	〇四
福岡西部電機工業所電機	〇五	一	〇三
昭和式電氣オーガ	〇五	一	〇二
同	〇五	一	〇一
同	〇五	一	〇〇
同	〇五	一	九九
同	〇五	一	九八
同	〇五	一	九七
同	〇五	一	九六

明 治 福 岡	古 河 目 尾 同	新 入 同	大 之 浦 同	稻 築 同	上 山 同	總 田 同
ペンシルバニヤ インガーツルランド インガーツルランド E R 一型			ペンシルバニヤ インガーツルランド インガーツルランド			三菱長崎造船所サリバン型

三 六〇 六〇 三〇 六〇 二〇〇 五〇

東京特機製作所泉式 電氣オーガー フロットマンCA七番 ピツクハンマー アンバーウオー九五番	泉式電氣オーガー 足尾式 一 一 番	同 二〇 番	インガーツルランド ストーパー MIDP三八A型 コイルピツク MIDP三八A型載炭機 コリネ社製LA一〇型 載炭機 フロットマンVZ七〇型 ラデアアルカツター	フロットマンAZ一型ハ イスビドハンマー フロットマンGC型 コイルカツター サリバンCOLE二型 チエインコイルカツター メーパイクールソソピツク クイアクパカクター	クナツプ社製パーカクター サリバンチエインカツター 昭和式コイルドリル アンバーウオーハンマー モアル九五番 インガーツルランドアレ ンドライイ型ヤツクハン マー	デ ン パ ー ア ト ラ ス デンバーウオー九五番 インガーツルランド一二番 一 足 尾 式 一 一 番 同 二〇 番 フロットマン サルバンドP三三番 デ ン バ ー サリバン型 コイルカツター 三井三池製作所MDE 一番電氣オーガー
--	-----------------------	--------	--	---	--	---

一〇 〇五 二〇 三〇 一五 二〇 三〇 一〇

一六二 三 二 六 二 一 六 三 八 一〇 二 三 二 二 二

豆 田 同	忠 隈 同	飯 塚 同	綱 分 同	平 山 同	下 山 同	吉 隈 同	山 田 同	芳 雄 同
フロットマン 英國グラスゴールセンチ ル社製型車汽筒二重履 推	インガーツルランド横置式 同 横置式二段履推	サリバンWG六型 インガーツルランド 日立製作所 住友新居濱製作所 サ リ パ ン ベンシルバニヤ ソシントンボンブ会社製						

一七五 六〇 五〇 七五 一〇〇 七五 七五 六〇 五〇 二〇

クナツプ社製パーカクター サリバンチエインカツター 昭和式コイルドリル アンバーウオーハンマー モアル九五番 インガーツルランドアレ ンドライイ型ヤツクハン マー	デ ン パ ー ア ト ラ ス デンバーウオー九五番 インガーツルランド一二番 一 足 尾 式 一 一 番 同 二〇 番 フロットマン サルバンドP三三番 デ ン バ ー サリバン型 コイルカツター 三井三池製作所MDE 一番電氣オーガー
--	---

一六 三〇 〇五 三 一五 一 一五 二 一

一六三 一 二 一 二 四 二 八 三 三 一五 四 二 二〇 二〇 一 一

高島	長崎	インガイソルランド	三〇〇	一	クロースコールピツク シメンスオーガード 小型昭和万能式 サリパンCLE二番炭炭機 デンパーウオー九五番 インガイソルランドBCR フロットマンAZ一 フロッマンAZ一 ムードンコールピツク ムードンコールピツク デンパーウオー九五番 ムードンP三八A型 ピツクマンマー	三〇	一六六
福島	同	不明	五〇	一			
住友大瀬	同	日立製作所横置式	五〇	一			

●坑内運搬設備
●本年度ニ於テ坑内運搬機械ノ新設増設或ハ改善シタルモノ次ノ如シ

鑛山名	府縣名	種類	様式	馬力	臺數計	備考
-----	-----	----	----	----	-----	----

高玉	福島	電氣捲揚機	複式	三五	一	新設
大谷	宮城	同	同	三五	一	改設
湯原	同	同	同	三五	一	同
翁澤	同	同	同	三五	一	同
釜石	同	同	同	三五	一	同
荒川	同	同	同	三五	一	同
尾花	同	同	同	三五	一	同
土井	同	同	同	三五	一	同
花岡	同	同	同	三五	一	同
吉野	同	同	同	三五	一	同
日野	同	同	同	三五	一	同
足立	同	同	同	三五	一	同
尾木	同	同	同	三五	一	同
細地	同	同	同	三五	一	同
尾屋	同	同	同	三五	一	同
飯盛	同	同	同	三五	一	同
生野	同	同	同	三五	一	同
大和	同	同	同	三五	一	同
東山	同	同	同	三五	一	同
徳島	同	同	同	三五	一	同

第六章 鑛山事業ノ概況

山名	種	機	馬力	臺數	重軌	軌距	延長	備考
重内	電動循環機	玉村式	四〇	一	八八	六	一、三〇〇	馬匹運搬ヲ變更新設
上野	電動循環機	玉村式	三〇	一	八八	六	一、三〇〇	馬匹運搬ヲ變更新設
野口	電動循環機	玉村式	三〇	一	八八	六	一、三〇〇	馬匹運搬ヲ變更新設
沖之	電動循環機	玉村式	三〇	一	八八	六	一、三〇〇	馬匹運搬ヲ變更新設
新山	電動循環機	玉村式	三〇	一	八八	六	一、三〇〇	馬匹運搬ヲ變更新設
山嶺	電動循環機	玉村式	三〇	一	八八	六	一、三〇〇	馬匹運搬ヲ變更新設
昭和	電力クレーン	同	一〇	一	七五	二	一、〇〇〇	硬捨用
大和	電力クレーン	同	一〇	一	七五	二	一、〇〇〇	硬捨用
木瀬	電力クレーン	同	一〇	一	七五	二	一、〇〇〇	硬捨用
上野	電力クレーン	同	一〇	一	七五	二	一、〇〇〇	硬捨用
鯉田	電力クレーン	同	一〇	一	七五	二	一、〇〇〇	硬捨用
豆田	電力クレーン	同	一〇	一	七五	二	一、〇〇〇	硬捨用
漆生	電力クレーン	同	一〇	一	七五	二	一、〇〇〇	硬捨用
忠隈	電力クレーン	同	一〇	一	七五	二	一、〇〇〇	硬捨用
平山	電力クレーン	同	一〇	一	七五	二	一、〇〇〇	硬捨用
山田	電力クレーン	同	一〇	一	七五	二	一、〇〇〇	硬捨用
二瀬	電力クレーン	同	一〇	一	七五	二	一、〇〇〇	硬捨用

第六章 鑛山事業ノ概況

一七七

山名	種	機	馬力	臺數	重軌	軌距	延長	備考
横峯	電動循環機	玉村式	五〇	一	九〇	六	一、三〇〇	運搬量一時間三〇噸
見立	電動循環機	玉村式	五〇	一	九〇	六	一、三〇〇	同
飯盛	電動循環機	玉村式	五〇	一	九〇	六	一、三〇〇	同
明和	電動循環機	玉村式	五〇	一	九〇	六	一、三〇〇	改修
基安	電動循環機	玉村式	五〇	一	九〇	六	一、三〇〇	明延神兒畑間ニ新設
夕張	電動循環機	玉村式	五〇	一	九〇	六	一、三〇〇	同
真谷	電動循環機	玉村式	五〇	一	九〇	六	一、三〇〇	同
万字	電動循環機	玉村式	五〇	一	九〇	六	一、三〇〇	同
三井	電動循環機	玉村式	五〇	一	九〇	六	一、三〇〇	同
三井	電動循環機	玉村式	五〇	一	九〇	六	一、三〇〇	同
茂尻	電動循環機	玉村式	五〇	一	九〇	六	一、三〇〇	同
歌内	電動循環機	玉村式	五〇	一	九〇	六	一、三〇〇	同
奔別	電動循環機	玉村式	五〇	一	九〇	六	一、三〇〇	同
大夕張	電動循環機	玉村式	五〇	一	九〇	六	一、三〇〇	同
雄別	電動循環機	玉村式	五〇	一	九〇	六	一、三〇〇	同

第六章 鑛山事業ノ概況

一七六

二瀬	福岡	電氣エンドレス	單式	六三〇	一	二五九	二〇時	一七五〇	汽笛徑一二吋硬捨用
大峰	同	蒸氣捲揚機	同	三〇〇	一	二五九	二〇時	一七五〇	材料運搬用
大坑	同	電氣捲揚機	同	三〇〇	一	二五九	二〇時	一七五〇	選炭機貯炭場内機橋捲揚用
赤池	同	同	同	三〇〇	一	二五九	二〇時	一七五〇	硬捨用
相知	佐賀	電氣エンドレス	同	三〇〇	一	二五九	二〇時	一七五〇	積込棧橋運搬用
岩屋	同	電氣捲揚機	同	三〇〇	一	二五九	二〇時	一七五〇	從來ノ馬車運搬ヲ改メタル
福島	同	電力クリーパー	同	三〇〇	一	二五九	二〇時	一七五〇	
住友	同	電氣エンドレス	同	三〇〇	一	二五九	二〇時	一七五〇	
芳野	同	電氣エンドレス	同	三〇〇	一	二五九	二〇時	一七五〇	

(ハ) 石油山

鑛山名	府縣名	種	様式	馬力	臺數	軌量	軌距	延長	備考
厚真	又ノ國名	輕便軌道	單線式	一五		九	二四時	四三〇	新設ガソリン機關車運轉ノ豫定
大面	同	同	同	一五		九	二四時	四三〇	
同	同	同	同	一五		九	二四時	四三〇	

(ニ) 其ノ他ノ非金屬山

鑛山名	府縣名	種	様式	馬力	臺數	軌量	軌距	延長	備考
吾妻	群馬	架空索道	單線式	二五	一			一七六〇	新設
茂世	同	同	同	四〇				一七六〇	新設

●排水設備 坑内ノ發展、水準下稼行ノ増加ニ伴ヒ湧水量ハ勢ヒ増加シ從ツテ排水設備ノ新設、増設ヲ企圖シ又ハ排水系
 統ノ整理ヲ行ヒ設備ノ改善ヲ爲シタルモノヲ列記スレハ次ノ如シ

(イ) 金屬山

鑛山名	府縣名	様式	馬力	臺數計	備考
沼尻	福岡	セントリフユーガル タービンポンプ	170(1)70(1)	二	新設
荒川	同	同	一五	一	新設
土深	同	同	一〇	一	新設
不老	同	同	一〇	一	新設
西澤	同	同	一〇	一	新設
栃木	同	同	一〇	一	新設
肥前	同	同	一〇	一	新設
久根	同	同	一〇	一	新設
河津	同	同	一〇	一	新設
細津	同	同	一〇	一	新設
鯛生	同	同	一〇	一	新設
分	同	同	一〇	一	新設
電氣タービン	同	同	一〇	一	新設

高田	海原	第二軍	昭龜	粕崎	岩坂	深橋	楠屋	木治	明尾	古築	稻山	上田	上田	豆田	大和	忠和
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
電氣タービン	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
800(1)100(1)	110(1)100(1)	10	10	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

二六	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
四〇(一)ノ從來ノ一八吋、エバンスニ代フ																

網分	平山	玄王	山田	二峰	大峰	大方	三方	赤池	豊國	相谷	相島	杵島	高崎
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
電氣タービン	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
100(1)100(1)	75(1)100(1)	110(1)100(1)	110(1)100(1)	110(1)100(1)	110(1)100(1)	110(1)100(1)	110(1)100(1)	110(1)100(1)	110(1)100(1)	110(1)100(1)	110(1)100(1)	110(1)100(1)	110(1)100(1)

二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

大谷宮城	翁澤岩手	綱取同	釜石同	尾去澤秋田	土深井同	不老倉同	西澤山形	細倉宮城	日立茨城
------	------	-----	-----	-------	------	------	------	------	------

ルト三ヲ新設シ尙一日百噸處理ノ二四吋手選帶二ヲ新設セリ
 選鑛能力ヲ向上スル爲メ從來ノ手選場ヲ改築擴張シテ一ヶ月處理鑛量二千三百噸ノ機械選鑛場ヲ設置セリ
 從來ハ簡單ナル手選ヲ行ヒタルモ鑛量ノ増加ニ伴ヒ一二呎×一四吋運鑛帶四吋×八吋ク
 ラツシャ一臺、トロンメル一臺、二〇吋手選帶二ヲ設置セリ
 從來ノ手選ニヨリタル捨石ノ再選ヲ機械選鑛ニ改メ「トロンメル」、「ヂガー」、「ウイルフ
 レテーブル」各一臺ヲ設置セリ
 將來鑛產額ヲ増加スル目的ニテ一ヶ月處理鑛量一八、〇〇〇噸ノ機械選鑛場ヲ新設セリ
 能率増進並ニ選鑛製鍊作業ノ合理化ヲ計ル爲メ手選場ヲ整理擴張スルト共ニ機械選鑛場
 ニ於テモ殆ント全部ニ亙リ其ノ主要ノ設備ヲ改修セリ
 從來ノ機械選鑛場ニ「バケツトエレベーター」、「フエラリストレーブル」各一臺ヲ増設セ
 リ
 一日處理鑛量一萬五千貫ノ機械選鑛場ヲ新設セリ
 前鑛二百尺掘下リ堅坑ノ完成ニ伴ヒ小規模ノ機械選鑛場ヲ設置セリ
 既設「ドアーシツクナー」ヨリ流出スル濃泥ヲ處理シテ精亞鉛一ヶ月九十噸乃至百二十噸
 ヲ採取スル目的ヲ以テ浮游選鑛機ヲ擴張中ナリ
 從來優先選鑛ニ於テ銅精鑛ヲ回收シタル後之カ廢泥中ヨリ硫化鐵鑛ノ精鑛ヲ採取スル爲

足尾粉木	日光同	神岡岐阜	久根靜岡	生野兵庫
------	-----	------	------	------

メニ汰盤ヲ用ヒシヲ浮游選鑛法ニ依ルヘク優先選鑛場ヲ増設セリ
 又母岩ノ混入多ク其ノ儘ニテハ直接選鑛ニ附シ難キ低品位ノモノニ對シ豫備的選鑛ヲ行
 ハンカ爲メ一ヶ月取扱能力千二百噸ノ第三選鑛場ヲ設置セリ
 浮游選鑛ノ精鑛ヲ繰返シ品位ノ上昇ヲ計ル爲メ通洞第二選鑛場二十六區「エムエス」型
 浮游選鑛機一臺及附屬機ヲ増設セリ
 既設選鑛場ヨリ多年排出セル鑛泥ヲ處理シテ遺利ヲ回收スヘク一日處理能力十五噸ノ浮
 游選鑛場ヲ増設セリ
 能率増進ノ爲メ鹿間選鑛場ニ豫備トシテ「コンカルボールミル」、分級機各一臺及附屬機
 ヲ増設セリ
 「ケイケイ」式浮游選鑛機二臺及附屬機ヲ増設スルト共ニ電動機ノ位置變更並ニ傳導裝
 置ニ改善ヲ加ヘ操業ノ圓滑ヲ計レリ
 神兒畑選鑛場増設計畫(一ヶ月取扱元鑛四千二百噸、產出銅精鑛百五十噸、銅精鑛二百噸)
 ニヨリ擴張工事中ノ處本年度中ニ於テ「エレベーター」一、「ドラツグベルト」一、「オリバ
 ーフィルター」一、二十馬力斜面捲揚機一、輕便捲揚機二、五馬力「タービンポンプ」一、
 三馬力「サイレン」、各種電動機七ヲ完成セリ
 本部銅選鑛並亞鉛選鑛場ハ之ヲ統一シ一ヶ月取扱粗鑛一萬二千噸、產出銅精鑛一千噸、
 亞鉛精鑛五百噸、鉛精鑛五十噸ノ計畫ノ下ニ大改造ヲ行ヒ本年度ニ「ロールフキーター」

岩	三	三	伊	岩	大	別
美	好	好	豫	石	峯	子
鳥	同	同	同	受	同	同
取	鳥	鳥	媛			

一〇「ベルトコンベヤー」三、「ハーディングボールミル」二、「ドアークラシイファイヤー」一、「エムケイ」式浮選機二四、「フォレストター」浮選機一、「ウヰルフレーター」四、「ジエームステーブル」四、「サンドポンプ」二、「分選機」二、「パケットエレベーター」三、「オリジニス」式送風機一、「ドールシツクナー」五、「オリバーヘルター」二、「真空ポンプ」二、「コンプレッサー」二、「粘土ポンプ」四、「石灰投入機」三、「フィルタープレス」一、「三相交流電動機」一四、「バーグリーブリー」二、「パンコンベヤー」二、「ジャイレートリークランツシャー」二、「手選帶」二、「トロムメル」八、「ブレイクラツシャー」一、「ロール」一、「自動重量計」二

「オリバーフィルター」ヲ廢シ「フィルタープレス」二臺ヲ新設ス

「トロムメル」三聯増設ス

粉鑛處理ノ目的ヲ以テ「ハルツ」式「ジガー」一臺、「ウヰルフレール」一〇番型汰盤一、「パケットエレベーター」二臺、八馬力石油發動機一臺増設セリ

手選鑛ヲ機械選鑛ニ改メ給鑛機一、圓篩一、淘汰機四、手選帶一ヲ増設セリ

機械選鑛場ヲ開設シ「ハルツ」式「ジガー」二臺、「ウヰルフレーター」一臺ヲ設置セリ

粉鑛處理ノ爲メ「ウヰルフレール」汰盤二臺ヲ設置セリ

新居濱選鑛場内ニ間口七十九尺奥行二百八尺高五十五尺容量一萬一千五百噸ノ大貯鑛庫ヲ新設セリ

白	尾	見	尾	大	大	大
瀧	平	立	内	内	内	内
高	同	宮	尾	尾	尾	尾
知	崎	崎	大	大	大	大
			分	分	分	分

片刃處理ノ爲メ「ブレイクラツシャー」一、粉鑛處理ノ爲「ハルツ」式汰淘器一、「ウヰルフレール」汰盤一、「ケイケイ」浮選機二臺増設セリ

選鑛設備ヲ改修シ「ブレイクラツシャー」一、「コンカルボールミル」一、「カラー」式「コンカルゴーン」三、「ダイスターテーブル」一ヲ設置セリ

五本立「スタンプ」一、「ウヰルフレーター」二、「ラウンドフレーム」一ヲ増設セリ

従來ノ選鑛場及燒鑛場ノ一日處理能力ハ約五十噸ナリシヲ二百噸處理ニ改メ新ニ一部浮選鑛法ヲ採用セリ、而シテ貯鑛舍三、「クラツシャー」一、「クラツシグロール」一、「ハーディングボールミル」二、「グライディングバン」二、「フォレストター」浮選機二、「ベルトコンベヤー」四、「ドラツグコンベヤー」二、「濃密」コン「給鑛機」二、「パケットエレベーター」二、「エドワード」燒鑛爐一、「プレートコンベヤー」一、「ハンマースタリアン」四、「ジエームス」式汰盤二八、「ドール」分級機一、「ドア」濃密槽一、「ドア」濾過機一ヲ設置セリ

鐵製「スタンプ」二座一組杵數八本ヲ有スル搗鑛所ヲ増設セリ

●選炭 炭界ノ不況ハ市場ニ於ケル品質ノ向上ヲ必要トスルニ至リ逐年選炭設備ノ新設、増設或ハ擴張ヲ行フモノ多シ、其主ナルモノヲ示セハ次ノ如シ

萬	鑛	山	名	府	縣	名
字	石	狩		又	國	名

粉炭水洗用トシテ吹上種流式洗炭種四ヲ増設シ尙附屬設備トシテ研運搬用「エレベータ、

歌志内	同	一「四、水切用」コンベヤー」一ヲ増設セリ
唐松	同	一時間十噸ヲ處理スル「ジツガー」式水洗機ヲ増設セリ
		手選帶三及毎時五十噸處理ノ水洗機一ヲ増設シ尙附屬設備トシテ「ロール」二、「エレベーター」四、「コンベヤー」三、「唧筒」一、「ジンマースクリン」二、「フキイダー」二ヲ増設セリ
大夕張新坑	同	毎時四十噸處理ノ水洗機二及「ジンマースクリン」一ヲ新設セリ
新美唄	同	毎時五噸處理ノ水洗機ヲ新設セリ
別保	釧路	從來ノ選炭機ヲ改造シテ乾式ニヨル毎時三十噸處理ノモノトナシ且毎時二十噸處理ノ「ヂツガー」式水洗機一ヲ新設セリ
雄別	同	在來ノ大曲選炭場ヲ廢止シ新ニ「チツプラー」一、「フキイダー」一、「ジンマースクリン」二、「バンドコンベヤー」四、「ベルトコンベヤー」二ヲ設置セリ
内郷	福島	第三斜坑ニ毎時二十五噸處理ノ「ドレーバー」式洗炭機一臺ヲ新設シ、町田坑ニハ之レト同一ノモノ一臺ヲ増設シ、綴坑ニハ同一種類ノ洗炭機ナルモ毎時處理量四噸ノモノヲ一臺増設セリ
東見初	山口	出炭増加セル爲メ能力七百五十噸ノ「ジンマー」式選炭機一臺ヲ増設セリ
大嶺	同	粉炭ノ品質向上ノ目的ヲ以テ豫テ設置セル毎時二十五噸處理ノ中塊水洗機ヲ使用スルト共ニ毎時二十噸處理ノ共益社式粉炭水洗機一臺及「ジンマー」一臺ヲ増設セリ

早良	福岡	四十馬力「ジンマー」式選炭機二臺、「バウム」式水洗機(毎時五十噸處理)一臺ヲ新設セリ
高田	同	リ直徑八呎幅三呎ノ選水車二個ヲ設置シ水洗機排水ヨリ更ニ微粉炭ノ分離ヲ企圖セリ
第二大谷	同	リ從來ノ「ジンマー」式選炭機ヲ一日五百噸處理ノ鏡型鐵板選炭機ニ改造セリ
龜山	同	共益社式再洗機(毎時二十五噸處理)一臺ヲ設置セリ
昭和三	同	二號炭破砕用トシテ志免坑選炭場ニ容量五噸「ロール」式鑄鐵碎炭機一臺ヲ新設セリ
粕屋	同	捨硬豫備選炭ヲ目的トシテ「ジンマー」式選炭機(毎時五十噸處理)一臺、共益社式水洗機(毎時三十噸處理)一臺、「クラツシャヤ」一臺、可搬式微粉炭昇降機一臺ヲ設置セリ
大辻	同	大君高尾坑五尺炭ヲ選炭スルノ目的ヲ以テ「ジンマー」式「ビッキングベルト」(毎時三十噸處理)一臺ヲ設置中ナリ
大君	同	中鶴第二坑ニ二吋半以下ノ中塊及粉炭水洗用トシテ共益社式水洗機(毎時百五十噸處理)一臺ヲ設置シ從來使用ノ假水洗機ハ之カ完成ト同時ニ廢止セリ、又貯粉炭ヲ新設ノ水洗機ニテ水洗スル目的ヲ以テ幅十吋長サ百六十尺傾斜十九度ノ「ゴムベルト」ヲ施設セリ
中鶴	同	粉炭及中塊水洗ノ目的ニテ共益社式水洗機(毎時三十五噸處理)一臺ヲ設置セリ
木屋瀬	同	「ジツガー」式水洗機(毎時七噸處理)二臺設置セリ
香ノ浦	同	坑内硬ヲ篩別シ粉炭ノ水洗ニヨリ遺利ヲ拾集スヘク共益社式水洗機(毎時十五噸處理)一臺設置シ一日處理精炭量約二十噸ニシテ之ヲ更ニ「バウム」式水洗機ノ原料炭トセリ
古河目尾	同	

大之浦 福岡 八坑々外積込棧橋幅九尺延長二十尺ヲ新設シ四坑積込棧橋幅二十二尺延長五十六間ヲ改築シ、二坑原料「コールピン」容量百十四噸ヲ増築シ、五坑精炭「コールピン」容量百噸及同坑原料「コールピン」容量百噸ヲ新築セリ
 「ジンマー」式選炭機一臺及共益社式二十五噸、十五噸、五噸水洗機各一臺ヲ設置セリ、而シテ一日選炭能力三百噸ナリ
 中山田坑外ニ選炭機(毎時四十噸處理)二臺、共益社式粉炭水洗機(毎時三十五噸處理)二臺、同式再洗機(毎時二十五噸處理)一臺ヨリ成ル選炭設備ヲ設置セリ
 水洗粉炭貯炭槽容量二百五十噸ヲ新設シ洗炭用水送水用トシテ百五十馬力電氣「タービシポンプ」一臺ヲ増設セリ
 水洗機再洗装置(毎時十噸處理)ヲ十五噸ニ改造セリ
 選炭用「ベルト」式「ピッキンググレーブル」幅四呎四吋長サ五十四呎九吋一臺、同幅四呎十吋長サ四十七呎六吋一臺、「パウム」式水洗機(毎時五十噸處理)一臺ヲ設置セリ
 小浦坑ニ共益社式水洗機(毎時四十噸處理)ヲ増設シ從來ノ水洗機ヲ改造シテ再洗機トナセリ
 再選用トシテ共益社式水洗機(毎時五噸處理)一臺ヲ増設セリ
 第三坑ニ共益社式粉炭水洗機(毎時廿五噸處理)一臺増設セリ、又第四坑ニ百噸及二十一噸ノ「コールピン」ヲ新設シ共益社粉炭水洗機(毎時五十噸處理)一臺ヲ増設セリ

山田 同
 芳雄 同
 二瀬 同
 三井田川 同

赤池 同
 相知芳谷 佐賀

共益社式水洗機(毎時二十五噸處理)一臺ヲ増設セリ
 再々洗ノ目的ヲ以テ山内坑ニ於テ共益社式水洗機(毎時二十五噸處理)三臺ヲ増設セリ
 末高坑ニ共益社式水洗機(毎時五十噸處理)一臺ヲ増設セリ
 第三坑粉炭洗炭機(既設「ジツガー」)運轉能力ヲ増大スル目的ヲ以テ既設粉炭庫ノ一部ヲ割キテ末洗粉炭庫(容量二百噸)トシ之ヲ經テ粉炭洗炭機ニ原料ヲ供給スルコトトシ且ツ粉炭洗炭機ニ直接關係スル原料炭精選炭及惡石ノ運搬機並ニ其ノ傳導裝置ヲ他ノ選炭機ヨリ分離シタリ、之ニ依リ洗炭機一日ノ粉炭處理能力ヲ五百噸ヨリ八百噸ニ増加シ同坑產出粉炭ノ全部ヲ水洗スルコトナレリ
 川崎無煙新坑ニ無煙炭手選裝置(「ジンマー」式篩二個、「バンドコンベヤー」一個、毎時十噸處理)ヲ新設シ產出無煙炭ノ全部ヲ篩分ケ及塊炭ノ手選ヲナス
 斜坑ニ於テ「ジツガー」式塊中塊洗炭機(三吋以下ノ塊及半塊全部)水洗ニシテ毎時二十噸、「ジツガー」式粉炭洗炭機(粉炭全部ノ水洗ニシテ毎時三十五噸處理)一、及之ニ伴フ原料炭、精選炭、惡石ノ運搬設備ヲ新設セリ
 水洗機ノ改造ニ伴ヒ容量千二十噸洗粉炭「ポケット」一個及容量六百噸洗中塊「ポケット」一個ヲ増設セリ
 芳谷二坑採炭計畫ニ付選炭ノ爲メ同坑々外ニ「ジンマー」スクリーン「付選炭機(毎時二十噸處理)一臺、共益社式水洗機(毎時十五噸處理)一臺ヲ新設セリ

杵 島 佐賀
 高 島 長崎
 上 野 同
 住友吉井 同
 池 野 同
 神 田 同
 鹿 町 同
 中 里 同
 住友大瀬 同
 鴻ノ舞 北見

共益社式水洗機(毎時五十噸處理)三臺ヲ増設セリ
 二子坑ニ於テ共益社式水洗機(毎時五十噸處理)一臺増加セリ
 共益社式水洗機(毎時五噸處理)一臺設置セリ
 「ベル」式選炭機一臺及「ジツガー」式水洗機(毎時十噸處理)一臺ヲ設置セリ
 第四坑及第六坑ニ小塊選炭用トシテ「ジツガー」式水洗機(毎時八噸處理)一臺ヲ増設セリ
 「ジツマー」式選炭機(毎時五十噸處理)一臺ヲ設置セリ
 本坑ニ「フンボルト」式水洗機(毎時三十五噸處理)一臺、加勢坑一坑二坑選炭場ニ「パウ
 ム」式水洗機(毎時五十噸處理)一臺、加勢三坑選炭場ニ「センチュリー」式水洗機(毎
 時十五噸處理)三臺、(内一臺ハ再洗炭用ニ臺ハ洗炭用)ヲ設置シ尙ホ鍍型選炭機(毎時
 三十噸處理)一臺ヲ設置セリ
 出炭漸増ニ伴ヒ更ニ能率昂上ノ必要ヲ感シ水洗機上屋ノ増築及水洗流路ノ一部改善ヲナ
 シ小塊炭水洗能率ヲ一時間十五噸トナシ二號炭水洗ヲモ便ニシタリ
 水洗機給水豫備用トシテ「セントリヒュー」ガルポンプ」一臺ヲ増設シ又水洗機微粉炭礦尾
 排却用トシテ「ワシントンポンプ」一臺ヲ新設セリ
 ●製鍊 本年度ニ於テ製鍊設備ノ新設若クハ改廢ヲ爲シタルモノ次ノ如シ
 礦山名 府縣名 又ハ國名
 左記設備ヲ新設セリ

昭 和 北 見 左記設備ヲ新設セリ

種 類	機 式	臺 數	大 寸 又 ハ 能 力	使 用 目 的
ボ ン プ	ひのくち式	一	揚液量毎分 二〇立方呎 揚程四〇呎 直 徑 六 尺 高 二 尺	金液揚用 金液溜用
真 空 罐	インゲイソルランド	一	直徑 六 尺 高 二 尺	金液中ノ空氣排除用
真 空 ポ ン プ	インゲイソルランド	一	直徑 六 尺 高 二 尺	粉亞鉛投入用
フ 井 ー ダ ー	ベ ル ト	一	直徑 一 〇 呎 高 二 尺	金液ト粉亞鉛混入用
ミ ツ キ シ ン グ コ ー ン	三聯型アランウヤ	一	揚程 二 〇 呎 二時半フレイム三角型一八枚	金液押込用
濃粉壓搾濾過機	メリルクロウ式	一	幅 五 二 吋 高 五 呎	濃粉壓搾濾過用

種 類	機 式	臺 數	大 寸 又 ハ 能 力	使 用 目 的
ク ラ ツ シ ャ ー	ブ レ ー キ	一	一 〇 吋 × 四 吋	碎 鍊 用
コ ニ カ ル ゴ ー ル ミ ル	ハ ー デ ン ジ	一	四 呎 六 吋 × 一 八 吋	粉 碎 及 青 化 液 溶 解 用
シ ッ ク ナ ー	ア	二	二 五 呎 × 一 〇 呎	濃 聚 用
ア ジ テ ー タ ー	ア	二	二 二 呎 × 一 五 呎	オ リ バ ー 附 屬
壓 氣 機	ド	一	一 〇 吋 × 八 吋	

真空ポンプ	一〇吋×一二吋	同
フイルター	六呎×六吋	泥土處理
タービンポンプ	揚程量 八立方呎	揚液用
電動機	一四〇馬力	各機械傳動用
三相交流		

細倉宮城 亞鉛製鍊ニ於テ硫酸槽一、中性熔解槽二、濃泥槽一、中和攪拌槽一ヲ増設セリ
 釜石岩手 昨年来改修中ナリシ第九號熔鑪ハ其ノ工事完成シ本年四月操業ヲ開始スルニ至リ從來
 甲子同 使用シタル第八號熔鑪ハ本年八月操業ヲ休止シテ改修工事ニ着手セリ又既設製鋼平
 日立茨城 中二十五號一基ヲ廢止シ之ニ代フルニ三十號一基ヲ設置セリ
 足尾朽木 休止中ナリシ亞砒酸製鍊用燒鑪、精製鑪ヲ改築シテ再ヒ操業ヲ開始セリ
 日東同 熔鍊鑪量増加ノ爲メ熔鑪一基増設セリ
 神岡岐阜 嘗テ反射爐ニ使用セル微粉炭製造設備ニ改修ヲ加ヘ熔鑪ノ燃料トシテ微粉炭ヲ採用セ
 惠比壽同 爾結果羽口塊炭及骸炭ノ使用ヲ減シ操業ノ能率ヲ増進セリ
 「アメリカ」式百十三疋ノ本立搗鑪機一臺ヲ増設セリ
 從來ノ亞砒酸採取設備ハ處理能力過少ナルト位置不適當ナルヲ以テ不備ノ點ヲ改良スル
 ト共ニ容量ノ大ナルモノヲ收塵機ニ隣接シテ設置シ在來ノモノヲ廢止セリ
 小規模ノ蒼鉛製鍊場ヲ新設セリ

大平 同
 生野 兵庫
 別子 愛媛

薩摩式木製杵二十本立搗鑪機一臺ヲ新設セリ
 錫製鍊第一號反射鑪ノ石炭燃焼ヲ重油燃焼ニ改造ス
 試驗中ナリシ「ベタルセン」硫酸製造設備ヲ本設備トシ燒結全瓦斯ヲ處理シ一日六十度
 「ポーマ」硫酸九十噸產出ス
 尙第二期工事トシテ轉炉瓦斯處理ノタメ右施設ノ増設ニ着手セリ、處理粉鑪増加ノ爲メ
 既設燒結鑪ニ隣接シテ同型同大ノ燒結鑪一座増設セリ
 濕式製鍊試驗設備ハ本年ニ入り擴張シ富銅液ノ電解裝置並產出紫鑪ノ製鍊試驗鑪ヲ新設
 セリ

佐賀 大分

電鍊増産ノタメ電解槽百一一個増設シテ一ヶ月取扱量粗銅一千五百二十噸ニ達ス、猶反
 射鑪二基ヲ改造シ各處理能力四十噸トセリ
 眞吹鑪ヲ廢シテ其場所ヘ「コンバーター」建設ニ着手セリ、此ノ主ナル設備ハ徑二米六長
 ナ五米「ビヤスミス」型「コンバーター」二基、三十五噸走行起重機二臺及風量一分間百
 八十五立方米「ラトターゴ」送風機二臺ナリ、而シテ明年一月末竣工ノ豫定ナリ
 「レトルト」型圓鑪一基、平炉型燒結用反射鑪一基ヲ設置セリ

尾平 同
 ●製油 本年度ニ於テ新設又ハ増設シタル製油設備ノ主ナルモノ次ノ如シ
 鑛山名 府縣名
 石狩 石狩 揮發油採取設備トシテ「エバポレーター」(直徑四呎十吋、高十四呎十吋)一、「デフレダ

事

厚 眞 膽 振

メーター」(直徑四呎十吋、高十五呎)一、「タービンポンプ」一ヲ増設シ「コンプレザー」(シリンドラー一二吋×一二吋二本)ヲ改設シテ天然瓦斯處理ニ供セリ
天然揮發油採收設備トシテ「スバイラルセパレーター」(直徑四呎八吋長十二呎八吋)一ヲ新設セリ

西山鑛山 新 潟

附屬柏崎製油所

高町鑛山ノ發展ニ伴ヒ製油設備擴張ノ必要ニ迫ラレ一月揮發油蒸溜釜一基及附屬裝置ヲ完成シ五月「アスファルト」製造裝置ヲ新設シ六月原油蒸溜ノ際溜出油及釜殘油ノ品質並ニ原油蒸溜量ニ對スル熱効果ヲ考查研究スル爲過熱蒸氣蒸溜裝置ヲ設置シ次テ七月揮發油回收裝置及硫酸復製裝置ヲ増設及新設シ更ニ八月原油蒸溜釜二基及附屬裝置ヲ増設シ九月製蠟裝置ヲ新設セリ

高 町 同

既設揮發油採收設備ノ能力ヲ倍加スル爲十月下旬百二十五馬力瓦斯壓搾機二臺ヲ増設セリ

刈 羽 同

(採八六〇)

坑井ヨリ噴出スル天然瓦斯ヨリ揮發油ヲ採收スル爲刈羽第一及第二揮發油採收所ヲ設置シ一日三十六箇内外ノ揮發油ヲ採收シツツアリ

大 面 同

本成寺「ロータリー」式一號井ノ噴出瓦斯ヨリ揮發油ヲ採收スル爲揮發油採收能力一日百〇八、五箇ノ揮發油採收所ヲ増設セリ

●鑛害除去設備 鑛水鑛泥ノ處理、微粉炭回收ノ爲メ諸般ノ設備ヲ施セルモノ砂カラス、其主ナルモノ次ノ如シ
(イ) 金 屬 山

鑛山名 府縣名

鴻ノ舞 北見

沈澱池廢水循環用トシテ十五馬力日立式「タービンポンプ」ヲ新設セリ

國 富 後志

鑛滓散逸防止ノ爲メ高サ三尺延長百十間「セメント」練積石垣一ヲ設ケタリ

昭 和 北見

捨石散逸防止ノタメ高サ三尺延長六百間ノ木造柵ヲ設ケタリ

細 倉 宮城

鑛滓散逸防止ノタメ高サ十二尺延長五十間ノ「コンクリート」石垣ヲ新設セリ

吉 乃 秋田

既設二箇ノ沈澱池ハ各百五十立坪ナリシヲ夫々二百六十立坪ニ擴張セリ

土 深 井 同

乾澱池ニ於テ沈澱セル鑛泥ヲ投棄スル目的ヲ以テ水上浮上流ニ泥溜用大堰堤(容積五十一萬九千八百二十立方尺)ノ築造ヲ計畫シ其第一期工事ヲ終レリ

花 岡 同

既設沈澱池上部ニ新ニ幅六十六尺長百二十六尺深サ十二尺容積一萬六千六百三十二立方尺ノ沈澱池一個ヲ増設シ之ト既設沈澱池トノ間ハ幅九寸深七寸ノ木柵ヲ以テ連絡セリ

不老倉 同

將來鑛水ノ増加ニ備フルト共ニ一方豫備ニ供スル爲メ鐵筋「コンクリート」製直徑五十五尺深サ九尺五寸ノ「ドアー」式沈澱槽二基ヲ増設セリ

鷺合森 岩手

機械運鑛作業開始ニ伴ヒ從來ノ久七澤舊沈澱池二箇ヲ浚渫修理シテ使用スルニ至レリ

翁 澤 同

冷水澤左岸ニ幅二十尺長サ二十五尺深サ四尺「コンクリート」製沈澱池一個及運鑛場下部ニ幅十八尺長三十尺深五尺ノ「コンクリート」製沈澱池三個ヲ設置セリ

松 尾 同

幅三間長五間深五尺ノ沈澱池三個ヲ設置セリ

記

事

西澤山形	足尾	吉野	桐木	柳原	岡山	別子	愛媛	白瀧	高知	(ロ)石炭	鑛山名
											府縣名
											又ノ國名

入シテ淨化スル装置ヲ新設セリ
 選鑛廢水用沈澱池及爐過池トシテ方六尺深三尺ノ木製「タンク」三個及方十八尺深三尺石積沈澱池二個ヲ設置セリ
 本年更ニ鑛水處理用トシテ長六十間幅四十五間深一間沈澱池一個ヲ増設セリ
 砂形乾泥池ニ於テ乾燥シタル中才沈澱池泥渣ヲ熔結シテ製鍊原鑛ト爲スヘク砂形ニ反射爐一基及附屬機械ヲ新設シタルカ成績良好ナルニ鑑ミ更ニ一基増設ニ着手セリ
 銀山平堆積場滲透水ハ地表ヲ切幹沈澱池ニ流送處理シツツアルヲ一部隧道ヲ開鑿シ坑内大鑛鍾ノ舊坑道ニ連絡セシメ以テ通洞坑排水ニ合流セシメ中才淨水場ニテ處理スヘク工事中ニシテ明年三月竣工ノ豫定ナリ
 又前年ヨリ繼續中ノ原堆積場増設工事ハ六月完成セリ
 内徑三五尺×六〇尺×八尺ノ沈澱池一個、内徑三〇尺×六〇尺×四尺ノ乾泥池二個増設セリ
 從來索道ニヨリ東谷堆積場ニ運搬投棄セシ尾鑛ヲ「パイプ」流送ニヨリ工場附近田面埋立ニ變更シ尾鑛取入槽、「セントリフューガルボンブ」二臺新設セリ
 選鑛場附屬捨石堆積場ヲ増設セリ

記 事

唐松	石狩	大夕張新坑	同	新美唄	同	別保	釧路	茅沼	後志	小野田	福島	内郷	同
----	----	-------	---	-----	---	----	----	----	----	-----	----	----	---

水洗炭汚濁水處理ノタメ幅六尺長六十二尺深二尺八寸ノ「コンクリート」製沈澱池三個ヲ増設セリ
 前記ト同様ノ目的ヲ以テ幅二十尺長三十尺深三尺ノ木板造沈澱池一ヲ新設セリ
 前記ト同様ノ目的ヲ以テ幅十二尺長九尺深三尺ノ木板造沈澱池三個ヲ新設セリ
 前記ト同様ノ目的ヲ以テ幅四間長十五間深四尺土壁ノ沈澱池二個ヲ新設セリ
 前記ト同様ノ目的ヲ以テ沈澱槽三個(幅六尺三寸長十二尺深三尺二臺、幅九尺長二十四尺深三尺一臺)ヲ新設セリ
 小塊洗炭ノ爲メ沈澱池ヲ設置シ泥水爐過裝置ヲ設ケタリ
 洗炭機ノ廢水ニ對シ左記沈澱池ヲ新設シ廢水ノ淨化ヲ計レリ

級坑第一	幅	三五尺	長	二三七尺	深	サ六尺	容積	四九、七七〇立方尺
第二	幅	六七	長	一一五	深	六	容積	五〇、二五〇
高坂坑第一	幅	二四	長	二四	深	三、三	容積	一、九〇一
第二	幅	二一	長	一〇八	深	四、五	容積	一〇、二〇六
第三	幅	六〇	長	六六	深	五	容積	一九、八〇〇
町田坑第三	幅	三九	長	六六	深	六	容積	一五、四四四
第四	幅	三〇	長	一〇〇	深	六	容積	一八、〇〇〇
第五	幅	四二	長	九〇	深	五	容積	一八、九〇〇

昭 和 福 岡 水洗廢水處理ノ爲メ長サ二十米幅八・二米、深サ一米及長サ三十三米、幅三十二米、深サ
 ○・七米沈澱池各一個設置セリ

高 松 同 水洗廢水處理ノ爲メ長サ一五間幅九間高サ四尺五寸ノ「コンクリート」製沈澱槽一個及十
 間角ノ沈澱池二個ヲ新設セリ

木 屋 瀬 同 三隔坑水洗機使用ノ惡水ハ水洗機下ノ空地ニ幅二間長サ三間深サ二尺五寸ノ煉瓦積沈澱
 池六個ヲ築造セリ

香 之 浦 同 煉瓦積沈澱池二個深サ五尺總面積四十七坪ヲ増設セリ

上 山 同 水洗機操業ニ依リ沈澱池爐過池長サ二十間幅五間ノモノ三個所百坪ヲ増設セリ

飯 塚 同 小浦坑用トシテ水洗微粉沈澱池鐵筋「コンクリート」造幅二〇・四尺長サ四〇〇尺深サ
 三・八尺一個、幅一九・四尺長サ四〇〇尺深サ三・七尺一個、幅一九・四尺長サ四〇〇尺
 深サ三・六尺二個、幅八・〇尺長サ四〇〇尺深サ五・〇尺一個、幅四〇・一尺長サ四〇〇
 尺深サ三・五尺一個、計六個ヲ増設セリ

相 知 芳 谷 佐 賀 芳谷二坑洗炭機新設ニ付泥水ノ流出ヲ除去スル目的ニテ容量一五立方米沈澱池二個新設
 セリ

上 野 長 崎 水洗機設置ト共ニ沈澱池幅十一尺長サ三十尺深サ三尺及幅十二尺長サ三十尺深サ三尺五
 寸各一個ヲ設置セリ

池 野 同 第六坑洗炭機増設ニ伴ヒ長サ五間幅四間深サ四尺「コンクリート」製沈澱池ヲ増設セリ

鹿 町 同

加勢一坑二坑水洗機用トシテ沈澱池（面積千六百五十三平方米）一個増設シ沈澱炭回收
 「ポイントラッドボックス」一個新設シ且洗炭用水循環使用装置（毎分二・八立方尺）一一臺
 増設セリ

(ハ) 石 油 山 縣 名

瀧谷送油所、宮川海岸間延長二千九百米ノ一〇、二種排水管ハ腐朽シタルヲ以テ五月一
 日五・二種管ニ布設替ヲナセリ

高 町 同

從來一五・二種鐵管ニ依リ鯖石川ニ放流シタル鑛水ヲ荒濱海岸ニ設置ノ三段濾過池ニ導
 キ濾過放出スル爲メ二〇・四種鐵管二千六百五十米ノ延長工事ヲ完成セリ

●電力購入及發電所 一般鑛山ノ動力電力化ハ逐年増加ノ趨勢ヲ示シ自家發電所ヲ有セサルタメ或ハ其不足ヲ補フ爲メニ
 電力ヲ購買スルモノ増加シ、又從來ノ家用發電所ニシテ電氣事業ノ統制等ノ爲メ獨立ノ會社ヲ組織シ鑛山ニ電力ヲ供給
 スルモノ續出シ、逐年電力購入ノ趨勢ヲ増加セリ、其ノ主ナルモノヲ示セバ次ノ如シ

(イ) 金 屬 山

鑛 山 名	府 縣 名	購 入 高	供 給 者 名	備 考
靜 和 後 志	又ハ國 名	一ヶ月	北海電力電氣株式會社	新 購 買
昭 和 北 見		五萬〇〇〇	生田原電氣株式會社	同
轟 和 北 見		三萬二〇〇	北海電力電氣株式會社	同
狩 鹿 振		一〇四〇	北海電力電氣株式會社	同

尾小屋	石川	一ヶ月	27,000	尾小屋水力電氣株式會社	從來ノ自家發電所ナシ
生野	兵庫	一ヶ月	20,000	山陽中央水電株式會社	受電力ヲ購入ス
大和	奈良	八	1,000	宇治川水力電氣株式會社	受電力ヲ購入ス
佐々	愛媛	八	1,000	伊豫鐵道電氣株式會社	受電力ヲ購入ス
別子	同	同	100	土佐吉野川水力電氣株式會社	受電力ヲ購入ス
岩別	同	同	100	同	受電力ヲ購入ス

從來ノ自家發電所ナシ
 受電力ヲ購入ス
 受電力ヲ購入ス
 受電力ヲ購入ス
 受電力ヲ購入ス
 受電力ヲ購入ス

(ロ) 石炭山

三井美唄	石狩	一ヶ月	25,000	北海道電燈株式會社	備
三井砂川	同	同	20,000	同	備
唐松	同	同	29,600	同	備
大夕張	同	同	21,000	同	備
茅沼	同	同	2,750	同	備

大鑛山ニアリテハ水力又ハ火力等ニヨリ自家發電所ヲ設置スルモノ多ク、殊ニ電力代ノ比較的高價ナル地方ニアリテハ小規模ノ火力發電所ヲ設置スルモノヲ見ルニ至レリ、其ノ主ナルモノル舉クレバ次ノ如シ

(イ) 金屬山

尾去澤	秋田	水	1,200	小又川水力發電所	考
-----	----	---	-------	----------	---

(ロ) 石炭山

高倉	宮城	350	新設	火	力
半田	同	350	同	水	力
尾崎	同	300	同	火	力
横峰	同	200	同	水	力

(ハ) 石油山

鑛山名	府縣名	容	原動力ノ種類	備	考
松島	長崎	3,000	火	從來ノモノヲ擴張ス、工事中	

鑛山名	國名	容	原動力ノ種類	備	考
厚真	同	直流分捲型	火	増設	
厚田	同	直流複捲型	火	同	
厚田	同	直流分捲型	火	同	

●汽機、汽機、蒸汽「タービン」電力採用ノ傾向ハ益々著シキモノアリト雖モ、尙ホ左記汽機、汽機、蒸汽「タービン」ノ新設又ハ増設ヲ見タリ

(イ) 金屬山

見立	釜石	不立	尾去	細去	馬
府縣名	岩手	秋田	同	同	同
種	石油發動機	瓦斯汽機	交流發電機	タービン水車	ディーゼル機
類	罐	罐	罐	罐	罐
樣式	横置水冷式	スターリング水管式	横置單胴	回轉式	フランシス横置式
大	三呎	三呎	三呎	三呎	三呎
サ	六呎	六呎	六呎	六呎	六呎
馬力	三	三	三	三	三
臺數	一	一	一	一	一
備考	捲揚用ノ新設	第九高爐用増設	増設	新設	同

(ロ) 石炭山

夕張	大張	空知	美唄	上内	尺別	茂尻	唐
府縣名	石狩	同	同	同	同	同	同
種	汽	同	同	同	同	同	同
類	罐	同	同	同	同	同	同
樣式	アイアアルセクシロ	同	同	同	同	同	同
大	三呎	三呎	三呎	三呎	三呎	三呎	三呎
サ	六呎	六呎	六呎	六呎	六呎	六呎	六呎
馬力	三	三	三	三	三	三	三
臺數	一	一	一	一	一	一	一
備考	暖房用増設	同	同	同	同	同	同

旭和	昭徳	茅沼	内郷	入山	入山	大倉	磯原	新山	昭徳	高松	木入	新屋	新屋	平山	下山	三井
府縣名	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
種	汽	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
類	罐	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
樣式	直立式	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
大	三呎	三呎	三呎	三呎	三呎	三呎	三呎	三呎	三呎	三呎	三呎	三呎	三呎	三呎	三呎	三呎
サ	六呎	六呎	六呎	六呎	六呎	六呎	六呎	六呎	六呎	六呎	六呎	六呎	六呎	六呎	六呎	六呎
馬力	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
臺數	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
備考	捲揚機用新設	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

(イ) 金 屬 山

忠志別鑛山 (試登第一五四〇號) 金銀外五 後志國網走郡島牧郡利別村他一村 狹間孫兵衛

七月ヨリ事業ニ着手シ露頭調査ヲナシテ鑛脈數條ノ存在ヲ確メタルカ其ノ品位良好ト認メラルル一號脈及四號脈ニ對シ露頭下約十二米ノ點ヨリ立入水平坑道ヲ開鑿シ各々約五十五米ニテ着鑛セリ、一號脈ハ幅一米餘、露頭部ニ於ケル品位ハ金萬分ノ一乃至一・六八、坑内ニテ十萬分ノ一・三乃至九・六ヲ示セリ、四號脈ハ幅〇・五米以上ニシテ多少ノ變化アリ、品位ハ金十萬分ノ八・四乃至一八・〇ヲ示シ最モ優秀ナルモノナリ鑛脈ノ傾斜ハ約五十度ナリ

尚本鑛山ハ交通不便ノ地ニ在リ稼行ハ夏期ノミナシ居レリ

壽郡鑛山 (試登第一四八六號) 金銀銅外三 後志國壽郡壽郡町 清水産業株式會社

一月ヨリ事業ニ着手シ左記三坑ヲ開坑セリ

(本坑)立入水平坑道約六十四米ニテ着鑛シ鑛押坑道ノ掘進ヲ行ヒ延長六十米餘ニ達セリ

(金澤坑)立入水平坑道ヲ開鑿シ目下二十七米ヲ掘進セリ

(大切坑)本坑地並以下十五米ノ箇所ニ立入水平坑道ヲ開鑿シ目下百米ヲ掘進セリ、着鑛豫定距離百二十七米ナリ

鑛石ノ品位ハ金百萬分ノ五、銀萬分ノ二、銅百分ノ四程度ナリ

鈍子岩鑛山 銅鉛亞鉛 福島縣河沼郡下谷村 日本曹達株式會社

當鑛山ハ磐越西線野澤驛ノ南方約二里半河沼郡下谷村大字金山ニ在リ約十年間休業中ナリシカ本年六月日本曹達株式會社之ヲ買山シ同社會津工場ニ亞鉛鑛ヲ供給ノ目的ヲ以テ六月ヨリ舊坑取開ニ着手セリ、地質ハ第三紀層ノ凝灰岩及石英粗面岩ヨリ成リ鑛床ハ凝灰岩中ニ胚胎セル含銅鉛亞鉛鑛床ニシテ數條ノ平行鑛脈ヨリ成リ走向略東西、南ニ六十度ノ傾

斜ヲシ何レモ亞鉛鑛ヲ主トシ之ニ少量ノ銅鉛鑛ヲ伴フ、目下稼行中ノモノハ堅坑ノ深サ二十一米餘ニシテ鑛脈ニ當リ東西ニ鑛押探鑛中ナルカ脈幅一・五米内外ニシテ相當有望視セララル、此外堅坑東方約四十五米ノ箇所ヨリ新盛坑堅入ヲ開鑿シ約二十米ニシテ鑛幅〇・一米ノ鑛脈ニ當レリ、現在一ヶ月採掘粗鑛量約百噸(品位一八%)ニ達シ本年中施設シタル設備次ノ如シ

- 單胴式七馬力捲揚機 一臺 新設
- マイヤー式七馬力八立方尺唧筒 一臺 同
- 戸畑製七馬力石油發動機 一臺 同
- 米國ジャムボー會社製五馬力發動機 一臺 同
- 「エキゾーストファン」風量一、四〇〇立方尺二馬力 一臺 同

大平鑛山 (試二、八三五號) 金 銀 岐阜縣大野郡莊川村 本多定之丞

九月搗鑛製鍊場設置ニ着手シ十一月竣工セリ
其ノ設備ノ概要左ノ如シ

- 搗 鑛 機 薩 摩 式 木製杵二十本立
- 原 動 機 三 馬 力 木製水車
- 管生鑛山 (探登第九三號) 金銀銅硫化鐵 愛媛縣上浮穴郡管生村外一村 辻川徳之助

本山ハ嘗テ銅鑛ヲ稼行セシカ大正五年以來休山セルヲ本年七月ニ至リ往時放棄セル含硫量約五〇%ヲ有スル硫化鐵鑛ノ採掘ヲ目的トシテ事業ヲ再開シ専ラ採鑛準備ノタメ第三號坑ノ取明及輕便自動索道ノ架設ニ從事シテ年内ニ是ヲ完成セ

試 六六五	金銀銅鉛	岩前郡黒川俣村	株式會社	二月	試 100.041	石	三島郡寺泊町	株式會社	七月
同 六六八	石	刈羽郡四中連村 外二	株式會社	十一月	同 100.041	油	刈羽郡刈羽村外二	同	九月
同 六六八	石	刈羽郡四中連村 外二	株式會社	十一月	同 100.041	油	刈羽郡刈羽村外二	同	九月
同 六六八	石	刈羽郡四中連村 外二	株式會社	十一月	同 100.041	油	刈羽郡刈羽村外二	同	九月
同 六六八	石	刈羽郡四中連村 外二	株式會社	十一月	同 100.041	油	刈羽郡刈羽村外二	同	九月
同 六六八	石	刈羽郡四中連村 外二	株式會社	十一月	同 100.041	油	刈羽郡刈羽村外二	同	九月
同 六六八	石	刈羽郡四中連村 外二	株式會社	十一月	同 100.041	油	刈羽郡刈羽村外二	同	九月
同 六六八	石	刈羽郡四中連村 外二	株式會社	十一月	同 100.041	油	刈羽郡刈羽村外二	同	九月
同 六六八	石	刈羽郡四中連村 外二	株式會社	十一月	同 100.041	油	刈羽郡刈羽村外二	同	九月
同 六六八	石	刈羽郡四中連村 外二	株式會社	十一月	同 100.041	油	刈羽郡刈羽村外二	同	九月

長野縣

試 一八五	石	東筑摩郡本城村	淺野香司	二月	試 一八五	石	小縣郡東田村 外二	川上八郎	二月
同 一八五	同	同	野口庄一郎	二月	同 一八五	同	東筑摩郡南村 外一	白江外吉	二月
同 一八五	同	同上	野口庄一郎	二月	同 一八五	同	東筑摩郡南村 外一	白江外吉	二月
同 一八五	同	同上	野口庄一郎	二月	同 一八五	同	東筑摩郡南村 外一	白江外吉	二月
同 一八五	同	同上	野口庄一郎	二月	同 一八五	同	東筑摩郡南村 外一	白江外吉	二月
同 一八五	同	同上	野口庄一郎	二月	同 一八五	同	東筑摩郡南村 外一	白江外吉	二月
同 一八五	同	同上	野口庄一郎	二月	同 一八五	同	東筑摩郡南村 外一	白江外吉	二月
同 一八五	同	同上	野口庄一郎	二月	同 一八五	同	東筑摩郡南村 外一	白江外吉	二月
同 一八五	同	同上	野口庄一郎	二月	同 一八五	同	東筑摩郡南村 外一	白江外吉	二月
同 一八五	同	同上	野口庄一郎	二月	同 一八五	同	東筑摩郡南村 外一	白江外吉	二月

岐阜縣

試 二六八	石	郡上郡東村	日下郡庄吉	七月	同 二六八	同	同	同	十一月
同 二六八	同	同上	日下郡庄吉	七月	同 二六八	同	同	同	十一月
同 二六八	同	同上	日下郡庄吉	七月	同 二六八	同	同	同	十一月
同 二六八	同	同上	日下郡庄吉	七月	同 二六八	同	同	同	十一月
同 二六八	同	同上	日下郡庄吉	七月	同 二六八	同	同	同	十一月
同 二六八	同	同上	日下郡庄吉	七月	同 二六八	同	同	同	十一月
同 二六八	同	同上	日下郡庄吉	七月	同 二六八	同	同	同	十一月
同 二六八	同	同上	日下郡庄吉	七月	同 二六八	同	同	同	十一月
同 二六八	同	同上	日下郡庄吉	七月	同 二六八	同	同	同	十一月
同 二六八	同	同上	日下郡庄吉	七月	同 二六八	同	同	同	十一月

静岡縣

試 二七	金	賀茂郡仁科村	小島謙太郎	十二月	同 二七	同	同	同	十二月
同 二七	同	同上	小島謙太郎	十二月	同 二七	同	同	同	十二月
同 二七	同	同上	小島謙太郎	十二月	同 二七	同	同	同	十二月
同 二七	同	同上	小島謙太郎	十二月	同 二七	同	同	同	十二月
同 二七	同	同上	小島謙太郎	十二月	同 二七	同	同	同	十二月
同 二七	同	同上	小島謙太郎	十二月	同 二七	同	同	同	十二月
同 二七	同	同上	小島謙太郎	十二月	同 二七	同	同	同	十二月
同 二七	同	同上	小島謙太郎	十二月	同 二七	同	同	同	十二月
同 二七	同	同上	小島謙太郎	十二月	同 二七	同	同	同	十二月
同 二七	同	同上	小島謙太郎	十二月	同 二七	同	同	同	十二月

愛知縣

試 六五	亞	丹羽郡樂田村	藤田與市	二月	同 六五	同	同	同	五月
同 六五	同	同上	藤田與市	二月	同 六五	同	同	同	五月
同 六五	同	同上	藤田與市	二月	同 六五	同	同	同	五月
同 六五	同	同上	藤田與市	二月	同 六五	同	同	同	五月
同 六五	同	同上	藤田與市	二月	同 六五	同	同	同	五月
同 六五	同	同上	藤田與市	二月	同 六五	同	同	同	五月
同 六五	同	同上	藤田與市	二月	同 六五	同	同	同	五月
同 六五	同	同上	藤田與市	二月	同 六五	同	同	同	五月
同 六五	同	同上	藤田與市	二月	同 六五	同	同	同	五月
同 六五	同	同上	藤田與市	二月	同 六五	同	同	同	五月

富山縣

試 三五	同	同	杉木與三郎	四月	同 三五	同	同	同	九月
同 三五	同	同上	杉木與三郎	四月	同 三五	同	同	同	九月
同 三五	同	同上	杉木與三郎	四月	同 三五	同	同	同	九月
同 三五	同	同上	杉木與三郎	四月	同 三五	同	同	同	九月
同 三五	同	同上	杉木與三郎	四月	同 三五	同	同	同	九月
同 三五	同	同上	杉木與三郎	四月	同 三五	同	同	同	九月
同 三五	同	同上	杉木與三郎	四月	同 三五	同	同	同	九月
同 三五	同	同上	杉木與三郎	四月	同 三五	同	同	同	九月
同 三五	同	同上	杉木與三郎	四月	同 三五	同	同	同	九月
同 三五	同	同上	杉木與三郎	四月	同 三五	同	同	同	九月

石川縣

試 一三〇	金	羽咋郡神造村	保中文雄	九月	同 一三〇	同	同	同	十二月
同 一三〇	同	同上	保中文雄	九月	同 一三〇	同	同	同	十二月
同 一三〇	同	同上	保中文雄	九月	同 一三〇	同	同	同	十二月
同 一三〇	同	同上	保中文雄	九月	同 一三〇	同	同	同	十二月
同 一三〇	同	同上	保中文雄	九月	同 一三〇	同	同	同	十二月
同 一三〇	同	同上	保中文雄	九月	同 一三〇	同	同	同	十二月
同 一三〇	同	同上	保中文雄	九月	同 一三〇	同	同	同	十二月
同 一三〇	同	同上	保中文雄	九月	同 一三〇	同	同	同	十二月
同 一三〇	同	同上	保中文雄	九月	同 一三〇	同	同	同	十二月
同 一三〇	同	同上	保中文雄	九月	同 一三〇	同	同	同	十二月

試 (但馬) 二、五三	金	鐵	城崎郡竹野村	株馬會鐵山	六月	試 二、五三	金	鐵	朝來郡山口村	株川惣太郎	十月
同 二、五九	金	鐵	朝來郡山口村	株三會鐵山	七月	同 二、五九	同	同	美父郡關宮村	木村 彌佐	十一月
同 二、六三	格魯漢鐵	鐵	美父郡關宮村	足尾 秀藏	十一月	同 二、六三	金	鐵	美父郡關宮村	田中 壽吉	十一月
同 二、六四	金	鐵	城崎郡三根村	松岡 孝吉	八月						

奈良縣

探 (大盛) 六、二	鐵	鐵	吉野郡四郡村	(代表者) 株板口會鐵山	三月	探 (大盛) 六、二	石	炭	宇陀郡曾爾村	(代表者) 上田 勉之助	十月
試 六、三	金	鐵	吉野郡下市町	國樹 綱吉	五月	同 六、三	鐵	鐵	吉野郡下市町	長巳 榮太郎	九月
同 六、六	鐵	鐵	吉野郡南阿太村	中田 德太郎	六月	同 六、六	鐵	鐵	三重郡月原村	品川 白雄五	十一月
同 六、七	金	鐵	吉野郡龍門村	長巳 元治郎	六月						

和歌山縣

探 (植松) 七、一	石	炭	東牟婁郡九重村	(代表者) 植松 新十郎	七月	探 (植松) 七、一	鐵	鐵	伊都郡高野村	(代表者) 大位 彦三	十二月
同 (南海堂) 七、二	鐵	鐵	東牟婁郡久井村	豐田 丹平	十二月	試 (實志) 七、二	鐵	鐵	那賀郡西貴志村	株大和會鐵山	四月

鳥取縣

試 一、〇〇	鐵	鐵	伊都郡高野村	館野 基忠	一月	試 一、〇〇	鐵	鐵	海草郡大野村	水村 喜一郎	十二月
同 (實志) 一、〇一	鐵	鐵	那賀郡西貴志村	株大和會鐵山	七月						

島根縣

探 五、八	金	鐵	東伯郡小鴨村	石坂 清藏	十月	探 五、八	金	鐵	岩美郡小田村	米田 直三郎	九月
同 五、九	金	鐵	岩美郡東井町	植森 皆吉	一月	同 五、九	格魯漢鐵	鐵	日野郡多里村	法橋 千吉	五月

岡山縣

探 (御崎) 一〇〇	金	鐵	安藝郡佐比賣村	大谷 繁治郎	二月	探 (御崎) 一〇〇	鐵	鐵	鹿足郡細道村	戸早 勝作夫	七月
試 (北山) 一、二八	金	鐵	邑智郡布施村	吉田 實治郎	三月	同 (北山) 一、二八	鐵	鐵	笠川郡乙立村	大下 伊七	十一月

試 (川關) 二、三二	鐵	上房郡有漢村	中島安次郎	六月	試 (大平) 二、六五	金銀銅硫化鐵	後月郡共和村	大杉 翠	九月
同 二、三六	金銀銅	赤磐郡五城村	三木之三郎	十月	同 二、三七	金銀銅	阿智郡神代村	山本 珍作	九月
同 二、三三	鐵	御津郡江與味村	住友別子 鐵山株式會社	九月	同 二、六六	鐵銅硫化鐵	上房郡有漢村	見玉文一	十月
同 (油野) 二、六四	格魯漢鐵	阿智郡神代村	法橋 正廣	十二月					

廣 島 縣

試 一、二二	鐵	高田郡市川村	磯内智佐登	七月	試 (大賣) 一、三三	金銀銅水鉛	安佐郡大林村	仲孫 三郎	三月
同 一、〇〇	鐵	豐田郡西南方村	中光重右衛門	一月	同 一、三二	鐵	芦田郡藤尾村	杉山 保伯	十月
同 一、二二	金	安藝郡坂村	大瀧 京太郎	八月	同 一、三〇	鐵銅硫化鐵	深安郡廣瀬村	三島 實	十一月
同 一、三三	鐵	豐田郡江崎村	吉田 實太郎	十一月					

德 島 縣

試 一、二八	鐵	海部郡川上村	里 房吉	二月	試 一、二五	鐵	三好郡三庄村	日本鐵業 株式會社	十一月
-----------	---	--------	------	----	-----------	---	--------	--------------	-----

愛 媛 縣

探 (丸尾) 九、七	鐵	西字和郡日土村	合名會社	四月	試 (南山) 三、〇〇	鐵	上浮穴郡小田町	足立 清一	十一月
同 (龜森) 三、六	鐵	新居郡大保木村	株式會社	四月	同 三、〇〇	鐵	新居郡大生院村	日本鐵業 株式會社	八月
同 (四ッ濱) 二、二	鐵	西字和郡四ッ濱村	小林清太郎	六月	同 三、〇〇	鐵	東字和郡瀨筋村	高田 須磨	五月
試 (見上谷) 二、七九	鐵	西字和郡日土村	兵頭 宇治吉	五月	同 三、〇〇	鐵	北字和郡日吉村	小山清一郎	六月
同 二、〇一	鐵	東字和郡下字和村	橋 久平	一月	同 三、〇〇	鐵	東字和郡下字和村	高田 須磨	六月
同 三、〇二	鐵	西字和郡日土村	株式會社	四月	同 三、〇〇	鐵	字摩郡金砂村	石川 榮太郎	八月
同 三、〇三	鐵	周島郡櫻樹村	喜多河新太郎	八月	同 三、〇〇	水	北字和郡日吉村	石崎 政市	九月
同 (龜持) 三、〇四	鐵	西字和郡三島村	和田岩太郎	二月	探 (菅生) 三、〇五	金銀銅硫化鐵	上浮穴郡菅生村	辻川 徳之助	七月

高 知 縣

探 (藤ノ川) 三、三	鐵	安賀母尼	榑多郡津大村	五月	試 (高野山) 一、二六	金銀銅	高岡郡東江村	中村市太郎	七月
試 一、二〇	鐵	長岡郡大杉村	住友別子 鐵山株式會社	六月	同 一、二六	金銀銅硫化鐵	高岡郡長者村	小松 三郎	九月
同 (奥吉) 一、二八	鐵	同	同	六月	同 一、三三	鐵	長岡郡吉野村	日本鐵業 株式會社	十月

試 一、三	銅 硫化鐵	長岡郡吉野村	日本鐵業 株式會社	十月	試 一、二	鐵 (斗賀野)	高岡郡斗賀野村	前原龜吉	十二月
同 一、五	同	福多郡田之口村	興村彌一郎	七月					

山口縣

探 鐵山名 (喜和田) 三六	鐵種名 銅錫重石	位 置 玖珂郡北河內村 外一	(鐵業權者) 栗村敏家	九 月	試 鐵山名 (天尾) 三六	鐵種名 鐵	位 置 玖珂郡北河內村 外一	(鐵業權者) 陸山銀公	九 月
同 鐵山名 (龜王寺) 三五	同	同 美濃郡鏡水村外一	小松松三郎	八 月	同 鐵山名 (二重) 三五	同	同 同郡同 外一	同	四 月
同 鐵山名 (立岩) 三三	同	同 阿武郡生雲村	大友恒輔	五 月	同 鐵山名 (引谷) 三六	同	同 同郡水野村	同	六 月
同 鐵山名 (須行庵) 三三	同	同 同郡小川村	岡村賢之亮	四 月	同 鐵山名 (左少浴) 三六	同	同 同郡八坂村	同	三 月
同 鐵山名 (金生) 三六	同	同 同郡萩町	今橋巖	六 月	同 鐵山名 (德定) 三五	同	同 同郡同村	同	八 月
同 鐵山名 (宇部) 三五	同	同 宇部市外一郡一村	住友別子 鐵山株式會社	一 月	同 鐵山名 (美福無煙) 三五	同	同 同郡於福村	同	九 月
同 鐵山名 (川上) 三五	同	同 玖珂郡高森町	陸山銀公	四 月					

福岡縣

探 鐵山名 (寶滿) 一六	鐵種名 石 炭	位 置 粕屋郡藤栗村	(鐵業權者) 株式會社	四 月	探 鐵山名 (大分) 一六	鐵種名 石 炭	位 置 嘉穂郡大分村	(鐵業權者) 株式會社	十 一月
------------------------	---------------	------------------	----------------	--------	------------------------	---------------	------------------	----------------	---------

探 鐵山名 (下畑) 七五	鐵種名 石 炭	位 置 嘉穂大分村	日本鐵業 株式會社	三 月	試 鐵山名 (新柳谷) 一六	鐵種名 石 炭	位 置 鞍手郡四川村 外二郡三村	小橋井 覺	八 月
同 鐵山名 (權島) 三三	同	同 田川郡後藤寺町	窪内石太郎	十一 月	同 鐵山名 (直方) 一六	同	同 同郡直方町	大森宮治郎	八 月
試 鐵山名 (聖生) 七七	同	同 遠賀郡香月村	飯野善兵衛	四 月	同 鐵山名 (金國) 三五	同	同 田川郡猪位金村	戸田鶴太郎	四 月

佐賀縣

探 鐵山名 (藤原) 三五	鐵種名 石 炭	位 置 東松浦郡藤木村 外一	(鐵業權者) 池田澤太	一 月	試 鐵山名 (二、五) 一六	鐵種名 石 炭	位 置 東松浦郡直貫村	(鐵業權者) 町田 實	十 一月
------------------------	---------------	-------------------------	----------------	--------	-------------------------	---------------	-------------------	----------------	---------

長崎縣

探 鐵山名 (名切) 一六	鐵種名 石 炭	位 置 佐世保市	(鐵業權者) 川野稻作	五 月	探 鐵山名 (深江) 一六	鐵種名 石 炭	位 置 北松浦郡鹿町村	(鐵業權者) 河野 關吉	二 月
------------------------	---------------	----------------	----------------	--------	------------------------	---------------	-------------------	-----------------	--------

熊本縣

探 鐵山名 (神瀨) 二六	鐵種名 石 炭	位 置 球磨郡神瀨村	(鐵業權者) 後藤 儀平	十 二月	試 鐵山名 (海浦) 三三	鐵種名 石 炭	位 置 葦北郡田浦村外一	(鐵業權者) 辻塚 爲吉	三 月
同 鐵山名 (旭) 一六	同	同 天草郡一町田村 外一	田中榮藏	四 月	同 鐵山名 (志村) 三五	同	同 天草郡志村外一	和泉佐一郎	五 月

●●● 山 金銀 後志國余市郡赤井川村 田中礦業株式會社

探鑛ハ前年ニ引續キ秀越坑ヲ主トシ本脈坑、通洞坑、中段坑準ニ於テ行ヒタリ
本脈坑準ニ於ケル鑛押ハ其ノ後三百七十六米ノ間鑛床ノ連續スルヲ確定シタルカ走向斷層ニ會シ目下斷層先探リ中ナ
リ、通洞坑及中段坑準ニ於テハ秀越東坑脈ノ下底部ニ該當スルモノハ鑛石良好ニシテ實ニ上部ヨリ約百米間ノ鑛床ハ確
定セラレタリ、本脈ノ下底部ニ該當スルモノハ鑛石ノ平均品位概シテ優良ナラス依テ目下通洞坑準上四十米準ニ於テ探
鑛ヲ爲シツツアリ、而シテ本年度ニ於ケル探鑛坑道ノ總延長ハ千五百十二米ニ達セリ
掘進又ハ探鑛用トシテ鑿岩機九臺(インガールソルランド)會社製六臺、尾尾製作所製三臺)ヲ増設シテ掘進探鑛能率ヲ増
進スルト共ニ探鑛法ハ前年度ヨリ準備中ナリシ「シユリンケーシ法」ヲ主トシタル結果鑛產額ハ二萬二千六百六十三噸ニ
達シ前年ヨリ約千七百噸ヲ増加セリ

選鑛ハ從來簡單ナル手選ヲナスノミナリシカ秀越坑ノ鑛石中ニ夾在スル方解石ヲ除ク爲メ該坑口近クニ建坪百七十七坪
ノ選鑛場ヲ新築シ「チツブラー」四臺、「クラツシャ」一臺、自動給鑛器二臺、「トロンメル」二臺、「ベルトコンベヤー」
三個、「ピッキングベルト」二個ヲ新設セリ
自動式架空索道一基(延長三百七十九米運搬量毎時四噸)ヲ増設セリ
鑛滓堆積場ニ設置セル從來ノ木柵ヲ「セメント」積積石垣ニ改メタリ、其高ナ〇・九米延長二百米ナリ

動力ハ自家發電ニヨリ居リシカ坑内外ノ發展ニ伴ヒ本年度ヨリ電力購買ヲ開始セリ(購買先北海水力電氣株式會社一ヶ
月契約高五萬四千キロワット時)

●●● 山 金銀 北見國紋別郡生田原村 木村久太郎

青化製鍊場ヲ新築シ九月完成其ノ使用ヲ開始セリ、設備ハ「クラツシャ」一臺、「コニカルボールミル」一臺、「ドアー
式シツクナー」二基、「アジターター」二基、空氣壓縮機一臺、真空唧筒一臺、「タービン」唧筒一臺、「オリバー」井ルタ
ー」一臺ニシテ原動機トシテ三相交流電動機三臺(四〇馬力二臺、一〇馬力一臺)ヲ新設シ尙鑛滓堆積場ニ「コンクラー
ト」造垣ヲ新造セリ
動力ハ電氣ヲ使用スルモノニシテ生田原電氣株式會社ヨリ一ヶ月契約最低四萬三千二百キロワット時ニテ購買ヲ開始セ
リ

●●● 山 金銀 北見國紋別郡遠輕村 川田隆六郎

前年ヨリ掘進中ノ第二坑(水平立入坑)ハ坑口ヨリ六十二米ニテ着鑛シ左右ニ鑛押坑道ヲ夫々九十米及五十五米掘進セル
カ鑛石ノ品位良好ナラス且ツ斷層ニ會シ或ハ坑道ノ崩落甚タシキニヨリ四月末日ニテ稼行ヲ中止セリ、前年八月ニ開坑
セル第三坑(水平立入坑)ハ延長百八十七米ニシテ尙掘進中ナリ、鑛區ノ中央ニ存スル露頭部(金ノ品位十萬分ノ二又ハ
三)探鑛ノ爲メ六月第四坑(水平立入坑)ヲ開坑シ坑口ヨリ延長十三米強ニテ脈幅約二米ノ含金銀石英脈ニ會シタルカ
此ノ鑛押探鑛ハ五年度ニナス豫定ニテ引續キ掘進シ目下五十三米強ニ達シ近ク目的ノ鑛體ニ達スベシ

●●● 山 金銀 根室國根室郡根室村 三菱礦業株式會社

探鑛ノミニ努メ居リ坑内探鑛トシテハ八月ヨリ中切坑奥部ニ於テ鑛床ノ形狀ヲ確定スル爲メ下層ニ沿ヒ掘下ヲ行ヒ目下
三十三米餘ニ達シ引續キ掘進中ナリ、鑛床ハ其厚サ及傾斜ニ相當變動アルヲ見ルモ現切詰ニ於ケル厚サハ一・五米内外
傾斜ハ概シテ四十二度内外ナリ
尙坑外ニ於テハ「ソーケシヨマナイ」川上流、南坑第三坑各所ニ井戸掘、掘削、上總掘式試錐ヲ行ヒテ探鑛ニ努メツツアリ

前年度ヨリ繼續中ノ二百五十尺坑及百米坑ノ南北鑛押ハ機械能力ニ制限セラレテ共ニ之カ解決ヲ見ナリシモ下底ノ鑛況良好ニシテ之ニ伴ヒ鑿石機四臺ヲ増設シテ増産ニ努メタル結果第四堅坑捲揚能力ニ不足ヲ生シ爲ニ從來延長百五十尺ノ第三堅坑ヲ更ニ二百五十尺迄延長シテ複胴式「スキップ」捲揚機三十馬力一臺ヲ据附ケ十月下旬之カ運轉ヲ開始セリ、又前記ノ外各方面ノ探鑛ヲ遂行スルニハ壓氣機増設ノ急務ナルヲ悟リ近ク「ロータリーコンプレッサ」二百馬力一臺ヲ設置スル計畫ナリ、其他選鑛場ニ於テモ從來ノ手選鑛場ヲ改築擴張スルト共ニ機械選鑛場ヲ設置シ能力ヲ向上スヘク目下左記機械設置ニ着手中ナリ

- チツブラー 三
- 四〇耗グリズリー 三
- 七一キングフキイダー 三
- パケットエレベーター 三
- 五分目トロンメル 一
- 目ルトロンベヤ 三
- ホフバー 三
- 尾去澤鑛山 金銀銅鉛亜鉛 秋田縣奥角郡尾去澤村外一、三葉鑛業株式會社
- 探鑛、探鑛ニ於ケル機械力ノ應用ハ逐年盛トナリ本年度更ニ左記鑿岩機ヲ増設セリ
- ハモ デル 七番 ウォードリフター デンバー會社製 五
- N 七五 同 インガールランド會社製 一〇

又從來ノ坑内運搬用「オストロデムラー」會社製「ガツリン」機關車ヲ本年更ニ赤澤下一坑道ニ一臺増設シテ昭和立入ト甲立入間ニ運轉シ運搬ニ於ケル人力ノ節約ヲ圖レリ、其他選鑛場ニ於テモ作業ノ合理化ヲ謀リ手選鑛場ヲ整理擴張スルト共ニ機械選鑛場ニ於テモ其主要設備ノ殆ント全部ヲ改修シタルカ其中新ニ増加シタル機械其他ノ設備左ノ如シ

cc 一 一番 ストローパー	同	一五
A S D 一 一番 同	尾 鑛業 所製	三
同 一 一番 同	同	一二
又從來ノ坑内運搬用「オストロデムラー」會社製「ガツリン」機關車ヲ本年更ニ赤澤下一坑道ニ一臺増設シテ昭和立入ト甲立入間ニ運轉シ運搬ニ於ケル人力ノ節約ヲ圖レリ、其他選鑛場ニ於テモ作業ノ合理化ヲ謀リ手選鑛場ヲ整理擴張スルト共ニ機械選鑛場ニ於テモ其主要設備ノ殆ント全部ヲ改修シタルカ其中新ニ増加シタル機械其他ノ設備左ノ如シ		
クラツシングロール	五四時×二〇時	一時間碎鑛量 四〇 吨 一
ハーディングボールミル	八尺×三尺	同 一二 吨 三
ドールクラツシフアイヤー	六尺×二五尺	一時間能力 四〇 吨 五
ドールシツクナー	四五尺×九尺	同 三〇 吨 四
コンデイションナー	四尺×一〇尺	同 二〇 吨 三
四時サンドポンプ	揚水高三〇尺	一分間揚水量 三〇立方尺 六
三時同	同 三〇尺	同 二〇立方尺 五
フロレスター式浮游選鑛機	六尺×三尺×七尺	一時間處理量 一〇 吨 一二
オリジンスプロワー	風壓三封度	風量 四五〇〇立方尺 三
手動トラバリングクレーン	能力	一〇 吨 一
タービンポンプ	揚水高一二〇尺	一分間揚水量 一八〇立方尺 一

パキユトムポンプ 真空管二四吋 排氣一分間 五〇〇立方尺 一
 大サ二四尺×一二尺×一五尺 三

又昨年十一月ヨリ着手中ノ小又川水力發電所ハ工事略完成セリ
 荒川鑛山 銀銅 秋田縣北郡荒川村 三菱鑛業株式會社

百目石一番坑川上斷層先ニ於テ昭和鑛ニ會シ延長百五十米鑛押ヲ行ヒ引續キ其上下ヲ探鑛セシニ鑛況概シテ良好ナリ、
 又噸潭坑ニ於テハ十八番坑以下三十米ノ堅坑掘下ヲ爲シ十九番坑ヲ設ケタリ、尙本年中購入シタル鑛機左ノ如シ

D C R W 二三 ジャツクハンマー 「インガソル」會社製 一
 S I 四九 同 同 一
 C A 三一 ストーパー 同 二

又從來坑内ト運鑛場間ノ鑛石運搬ニ使用セル二臺ノ「ガソリン」機關車ニ對シ本年更ニ一臺ヲ増シテ運搬能率ヲ高ムルト
 共ニ坑内進展ニ伴ヒ湧水量増加セル爲左記排水用唧筒ヲ設置セリ

井口九吋一段タービンポンプ 一七〇馬力 排水能力 高ニ七〇尺 一臺 新設
 同 七〇馬力 同 高一〇〇立方尺 一臺 新設

花崗鑛山 金銀銅鉛亞鉛 秋田縣北郡花崗村 同 鑛業株式會社
 堂屋敷鑛床ハ鑛況依然變化ナク前年ニ比シ精鑛約百萬貫ヲ増産シ神山鑛床ニ於テハ第二堅坑ヲ開鑛スルト共ニ二十七馬
 力複胴式電氣捲揚機一臺ヲ新設シテ愈々神山鑛床ノ探鑛準備ヲ整ヘタリ、此外試鑛ニ於テハ神山鑛床ト堂屋敷鑛床トノ
 間ニ於テ尤大ナル鑛體ノ發見ニ成功シタルヲ以テ神山一番坑車ヨリ立入探鑛ヲナシ鑛床ノ上部ヲ縫ヒツ、所々神山鑛床

ト同様ナル良鑛部ヲ發見セルカ完全ナル探鑛ハ目下作業中ノ神山第二堅坑ノ完成ヲ俟テ一番坑以下百尺準ニ探鑛坑道
 ヲ掘鑿スヘキ計畫ナリ、又堂屋敷鑛床ノ北東約六百尺附近ニ連續二本ノ試鑛ニ依リ地下百尺ニ良鑛體ノ存在セルヲ發見
 シ目下其廣表ヲ探究中ナリ此外將來堂屋敷方面ノ坑水増加ヲ豫想シ且ツ豫備ヲ意味シテ鐵筋「コンクリート」製徑五十尺
 深サ九尺五寸坑水處理能力一分間八〇立方尺ノ「ドー」式沈澱槽二基ヲ増設セリ

翁澤鑛山 金銀銅鉛 岩手縣和賀郡湯田村 三菱鑛業株式會社
 下部探鑛ニ依ル産額増加ニ伴ヒ運鑛場地並ト大切坑地並間ニ十五馬力複胴捲揚機一臺ヲ据附ケ二〇〇尺ノ立入ヲ通シ選
 鑛場トノ連絡ヲ計リツツアリ、坑外ニ於テハ機械選鑛場ヲ新設シテ之ヨリ川尻驛構内八三七尺間ニ三馬力玉村式單線索
 道ヲ新設シ荒川鑛山ニ送鑛シツ、アリ右運鑛場ニ於ケル新設機械左ノ如シ

一二呎×一四吋 運鑛帶 一
 四吋×八吋クラツシャー 一
 トロンメル 一

二〇吋手選帶 二
 又鑛泥沈降用トシテ三間×五間×五尺ノ沈澱池三個ヲ新設セリ

吉乃鑛山 金銀銅鉛硫化鐵 秋田縣雄勝郡西成瀬村 日本鑛業株式會社
 從來屢々鑛毒問題ヲ惹起シタルニ鑑ミ鑛水廢泥處理ニ對シテハ常ニ苦心努力シ來リシカ本年度更ニ水上澤上流ニ泥溜用
 大堰堤ノ築造ヲ計畫シ既ニ其第一期工事ヲ竣工セリ

高玉鑛山 金銀 福島縣安達郡高玉村 日本鑛業株式會社

青木葉坑通洞下部探鑛ノ目的ヲ以テ本年大坑地並ニ堅坑開鑿ヲ開始シ其大半ヲ終リタルカ目的ノ百八十尺ニ達スレハ六十尺及百二十尺ニ中段立入坑道ヲ掘鑿シテ探鑛スヘキ計畫ニシテ之ニ伴ヒ從來青木葉坑ニ使用シタリシ壓氣機「インガール」會社製七十五馬力一臺及「サリバン」會社製五十馬力二臺ヲ廢止シ「ロコモチーブアンドマシナリーカ」會社製「ロータリー」二段壓縮二百六十馬力壓氣機一臺ヲ新設セリ、又鑿岩機ニ於テハ「インガール」會社製S四九番四臺ヲ新設シタル外青木葉通洞下部ノ鑛石並運搬ノ目的ヲ以テ本年中單胴式五馬力捲揚機一臺ヲ新設セリ

釜石鑛山 銅鐵 岩手縣上閉伊那釜石町 釜石鑛山株式會社

前年來採鑛法ニ關スル新方針ヲ樹テ專ラ坑内整理ニ努メツツアリシカ本年度更ニ左記鑿岩機八臺ヲ増加シテ採鑛能率ノ増進ヲ計レリ

インガールランド	RA	一二	ブラツカー	一
同	CC	一一	ストーパー	二
同	R	七二	ドリフター	二
同	N	七五	同	一
同	D	五	同	一
クリーブランド	同	同	同	一
ガードナーデンバー	同	同	同	一
鑛石運搬用トシテハ左記空氣捲揚機三臺ヲ増設セリ				
インガールランド	九HR	リットル	タガールホイスト	二
同	一〇HLR	同	同	一

其他坑外ニ於テハ八番坑口ヨリ新ノ洞選鑛場間ニ鑛石運搬用斜軌道捲揚機七十五馬力一臺ヲ新設シテ運搬能力ヲ増大シ又大橋驛附近ニ一ヶ月處理鑛量一萬八千噸ノ選鑛場設置工事ニ着手セルカ其機械設備左ノ如シ

ロータリースクリーン	九〇耗	一
ブレイキクラツシャ	一時間能力	五〇噸
同	同	四〇噸
ジョークラツシャ	同	五〇耗
ペースクリーン	同	一
スチールベルトコンベヤー	同	一
セーキングスクリーン	一二・七耗	一
ピツキングバンドコンベヤー	同	一

製鍊ニ於テハ前年來改修中ノ第九熔鑛爐ノ工事ヲ完成シ本年四月ヨリ操業ヲ開始スルニ至レルカ第八熔鑛爐ハ本年八月操業ヲ休止シ同時ニ改修工事ニ着手セリ
又前年來新設工事中ノ粉鑛磁選場及燒鑛場ハ本年工事完成シ已ニ操業ヲ開始シタリシカ成績頗ル良好ナリ、尙此外既設製鋼平爐二十五噸爐一基ヲ廢止シ更ニ三十噸平爐一基ヲ新設中ナリ
又汽罐ニ於テハ第三熔鑛爐附屬「ランカシャ」式汽罐七基及製鋼工場附屬「ランカツシャ」式汽罐二基ハ孰レモ之ヲ廢止シ第九熔鑛爐附屬送風機原動力用トシテ「スターリング」水管式汽罐一基ヲ増設セリ
●細倉鑛山 銀銅鉛亞鉛安質母尼 宮城縣栗原郡登澤村 共立鑛業株式會社
●當鑛山ニ於テハ羽色鑛及威天二號鑛ノ下底探鑛ノ目的ヲ以テ現在ノ大鑛土堅坑ヨリ西南百四十米ノ個所ニ豫定深度百米

ノ成天堅坑ノ開鑿ニ著手セリ
 而シテ從來使用セル「ガードナー」會社製七十五馬力壓氣機ヲ廢止シ之ニ代フルニ「インガソル」會社製百二十五馬力壓氣機二臺ヲ設置シタル外鑿岩機ヲ増設シテ採鑛能率ノ増加ヲ計レリ
 本年中増設又ハ變更シタルモノ左ノ如シ

- ライナーインガソルN七五型 四増設
- インガソルR三九型 四同
- 足尾式 二〇型 二同
- 同 一〇型 四廢止

選鑛ニアリテハ浮鑛機ノ尾鑛ヲ再選スルタメ目下浮鑛機並ニ「ウヰルフレーターブル」二臺ヲ増設中ナル外既設選鑛設備ニ「ウヰルフレーターブル」三臺、「ベルトエレグエーター」一臺ヲ新設セリ又磁選篩別場ノ改造ヲ行ヒ從來「ホットバー」、「ロール」、「リッドル」、「エレベーター」等全部開放式ナリシヲ密閉式ニ改良シ鑛塵ノ飛散ヲ防止セリ
 製鍊ニ於テハ亞鉛製鍊ニ硫酸槽一、中性溶解槽二、濃泥槽一、中和攪拌槽一ヲ増設セリ
 又電力ノ不足ヲ補フタメ新ニ火力發電所ヲ新設シ左記機械ヲ購入セリ

- ブルザー製五氣箱四サイクル單動「エアーレスデーセル」機關 五〇〇馬力 一
- 交流四二〇「キロワット」發電機 二

●●●●●
 西澤鑛山 金銀銅鉛 山形縣西村山郡西山村 小泉五治
 當鑛山ニ在リテハ前種下底探鑛ノ爲メ堅坑ヲ二百尺掘下ケ其坑底ニ三聯式「ノールスプランジャー」二十馬力十八立方呎

唧筒一臺ヲ新設セリ

又選鑛ニ在リテモ從來ノ手選鑛場ヲ改築シテ小規模ノ機械選鑛場ヲ新設シタルカ主ナル選鑛機械次ノ如シ

- 七吋×四吋 零番小型クラツシャ 一
- 九吋×九吋 小型クロムロール 一
- 六吋×三吋 ドラツククラツシフアイヤー 一
- 四吋×四吋 エレベーター 一
- 六番型 ウヰルフレーターブル 一
- ト ロ ン メ ル 一

- 沈 澱 池 方六尺深サ三尺 木製タンク 三
- 方十八尺深サ三尺 二

●●●●●
 永松鑛山 金銀銅鉛亞鉛 山形縣最上郡大藏村 古河鑛業株式會社

當鑛山ハ逐年鑛況衰退シツツアルヲ以テ本年更ニ壓氣機一臺鑿岩機三臺ヲ増設シテ専ラ新資源ノ開發ニ腐心シタル結果
 外水松大斷層先ニ於テ稼行ニ堪フル鑛脈數條ヲ發見シ稍々愁眉ヲ開クニ至レリ
 又選鑛場ニ於テモ其設備ヲ改善シ操業ノ合理化ヲ計レリ本年中増設又ハ變更シタル設備左ノ如シ

- 壓 氣 機 インガソル會社製ER一番型 三十馬力 一増設
- 鑿 岩 機 インガソル會社製BC二一型 ストーパー 一増設
- 同 足尾製作所製足尾式一番型小型 ハンマー 二増設

選鑛設備

- ウヰルフレ一十番型テーブル 一 増設
- 十吋エレベーター 一 同
- 十四吋ドラッグクラシフアイヤー 一 同
- 十四吋バケットエレベーター 一 同
- 五馬力三相誘導電動機 一 廢止
- ヂャイレートリークラツシヤー 一 同
- 中十五時バケツトエレベーター 一 同
- ウオツシングドラム 一 同
- コンベヤー 一 同
- フキ一ター 一 同
- 七吋×一〇吋ブレーキクラツシヤー 一 同
- 小型ハンコツクヂツガー 一 同
- 巾十時ドラツクベルト 三 同
- カロ一コン 四 同
- セントリフユーガルポンプ 一 同
- サンドポンプ 一 同

盤合森鑛山 銀銅鉛亞鉛 岩手縣和賀郡湯田村 三菱鑛業株式会社

昨年勃興シタル當鑛山ハ其ノ後ノ探鑛ニ依リ本鑛ノ鑛量更ニ増加シ又親鑛ニ對シテハ立入下四十三米ノ下部ニ更ニ二百米ノ立入ヲ開鑿シ年末略ホ目的ノ位置ニ達シタルモ降雪ノ爲メ一時中止セリ而シテ探鑛ニアリテハ五割ノ増産ヲ計畫シ近ク電力ヲ使用スルタメ送電線路ノ工事ニ著手セントス又選鑛ニアリテハ鑛量増加ニ伴ヒ四吋×八吋クラツシヤー一臺、九呎運鑛帶、十五呎手選帶ヲ増設ノ豫定ナルカ選鑛廢水處理用トシテ左記沈澱池ヲ増設セリ

- 幅二〇尺 長サ二五尺 深サ四尺 一
- 幅一八尺 長サ三〇尺 深サ五尺 三

土畑鑛山 金銀銅 岩手縣和賀郡湯田村 田中鑛業株式会社

當鑛山ニアリテハ鑛況依然良好ニシテ昨年ニ比シ精鑛六千吨ノ増産ヲ見ルニ至レリ而シテ探鑛ニアリテハ鑿岩機ノ使用盛ニシテ本年更ニ「ペンシルヴァニア」會社製四十馬力壓氣機ヲ一臺増設セリ又廢水處理用沈澱池ニ餘裕ヲ保タシムル爲メ選鑛場沈澱池間ニ砂集用「ドラッグベルト」ヲ新設シ又廢砂運搬用トシテ捨石堆積場ニ至ル距離二千三百尺運搬能力一時間十吨ノ玉村式單線索通ヲ新設セリ

土深井鑛山 金銀銅 秋田縣北秋田郡鶴木村 清水隆福

當鑛山ニ在リテハ下三番坑以下九十尺ノ處ニ新ニ五番坑道ヲ開鑿シ東西百五十尺ノ鑛押探鑛ヲ試ミタルニ鑛況依然トシテ優勢ニシテ仰筒捲揚機ヲ増設シ、坑内排水並ニ運搬設備ヲ充實セリ又選鑛ニアリテハ「バケツトエレベーター」「フエラリストラップル」各一臺ヲ増設シテ選鑛能率ヲ擧ゲ更ニ鑛水處理用沈

潑池ヲ擴張シ幅六十六尺長ヲ百二十六尺深ヲ十二尺容積一万六千六百三十二立方尺ト爲セリ
本年中増設シタル機械左ノ如シ

十五馬力十五立方呎 電氣タービン唧筒 一

十馬力十立方呎 同 一

二十馬力双胴式 電氣捲揚機 一

バケットエレベーター 長サ二一呎幅六呎 一

フエラリスターブル 長サ八呎幅三呎半 一

不老倉嶺山 金銀銅鉛亜鉛硫化鐵 秋田縣鹿角郡大湯村 古河礦業株式会社

地森本鉱下一番坑下部探掘ノ目的ヲ以テ從來使用セル堅坑ヲ延長掘下ゲ五十尺毎ニ中段坑道下二番坑ヲ開鑿シ目下極力

南北ニ鉋押坑道ヲ掘進中ナリ

其他金堀澤三號鉋方面ニ於テ露頭ヨリ鉋押探鑛ヲ試ミタルカ鑛況相當良好ナリ

地森二番坑新設ニ伴ヒ左記唧筒ノ増設ヲ爲セリ

五馬力十立方呎 電氣タービン唧筒 一

三馬力十立方呎 同 一

又細地坑、大正坑ノ低品位鑛石處理ノタメ新ニ一ヶ月處理量四十二万貫ノ機械選鑛場ヲ設置シタルカ其主要選鑛機械ヲ

舉グレバ次ノ如シ

七吋×一〇吋 ブレーキクラツシャー 一

一五吋×三〇吋 クロームロール 一

一〇吋×二〇吋 クロームロール 一

トロンメル 一

ハンコックヂツカー 一

ドラツグクラシフアイヤー 三

十五尺ドーアシツクナー 一

ウヰルフレーターブル 六

ケイケイフローター 一

電動機 五〇馬力 一

同 三〇馬力 一

日立礦山 金銀銅硫化鐵 茨城縣多賀郡日立町外二 日本礦業株式会社

第一堅坑ハ梓組改修ノ必要ニ迫ラレタルト深度増加ニ從ヒ從來ノ捲揚機ニテハ其ノ能力不足ヲ來シ安全裝置モ不備ナル
爲メ梓組ヲ改修スルト共ニ捲揚機ヲ鐵骨ニ改造シ捲揚機ヲ變更セリ、捲揚機ノ概要左ノ如シ

型式 米國「ノードバーク」會社製一段減速度「ヘリソングボーンギヤ」附複胴型

大サ 鼓胴徑二二三・三五呎 長サ一五二・四呎

最大ノ能力 七馬

最大捲揚速度 毎分三〇三米

原動機 二五〇馬力 三相交流誘導電動機 一

下部坑内ノ發展ニ伴ヒ漸次湧水量ノ増加ヲ來ス爲メ唧筒ノ増設及位置ノ變更ヲ必要トスルニ至リ十二月工事ニ著手セルカ明年三月完成ノ豫定ニシテ増設セントスル唧筒ノ概要左ノ如シ

種類 「スイスブルツァー」會社製「ホリゾンタルハイリフトセントリフユーガル」唧筒 二

揚 水 量 毎分 一・三九立方米

揚 程 一三〇米

原動機 一〇〇馬力 三相交流誘導電動機

從來優先選鑛ニ於テ銅精鑛ヲ回收シタル後之ガ廢液中ヨリ硫化鐵鑛ノ精鑛ヲ採收スル爲メニ汰盤ヲ用ヒシニ之ヲ改メ浮游選鑛法ヲ實施スヘク五月優先選鑛場ノ工事ニ著手シ六月竣工セリ

其ノ結果汰盤ニ依レル場合ニ比シ約四割ノ增收ヲ爲スコトヲ得且容易ニ硫黃品位四七%ヲ保チ低品位硫化鐵鑛ノ經濟的利用ニ益スルトコロ大ナリ

据付機械ノ種類大サ左ノ如シ

種 類 大 サ 臺數

一區コンデイシヨナー 四四・四五種 三

複式ケイケイ型浮游選鑛機 長三八六・〇八種 高一一五・五七種 三

原動機 一〇〇馬力 三相交流誘導電動機 一

又自山鑛中ノ銅鑛又ハ硫化鐵鑛ニシテ母岩ノ混入多ク其ノ儘ニテハ直接選鑛ニ附シ難キ低品位ノモノニ對シ豫備的選鑛

ヲ行ハンカ爲メ第三選鑛場新設ヲ計畫シ五月工事ニ著手シ九月竣工セリ

同選鑛場ニ於テ豫備的選鑛ヲ行ヒタル後(硫化鐵鑛ハ其ノ儘製品トナル)從來ノ選鑛ニ附スルモノニシテ一ヶ月取扱能力千二百噸ニシテ据付機械ノ種類大サ左ノ如シ

種 類 大 サ 臺數

水 平 格 子 一・二・二種×二二・二種、目ノ大サ九・二種 二

斜 格 子 幅一五・二・四種 格子目二〇耗勾配四〇度 三

セーキングファイダー 長一八二・九種 幅最大 五〇・八種 最小 二五・四種 一

ブレイキクラツシャ 二五・四種×一七・八種 一

バケツトエレベーター 長サ四八二・五九種幅一五二・四〇種 一

ハンチントンミル 一〇六・六八種 一

ウイルフレール汰盤 長サ四八二・五九種幅一五二・四〇種 二

原動機 二五馬力三相交流誘導電動機 一

熔鍊鑛量ノ増加ニ伴ヒ熔鑛爐一基増設ノ必要ヲ生シ六月工事ニ著手シ七月完成セリ其ノ取扱鑛量一ヶ月鑛石六千五百噸ニシテ熔鑛爐ハ水套付角型ニシテ羽口水準ノ大サ長七・九二五米幅一・二一九米、裝入床地上四・八七七米、羽口ノ徑〇・

一五二米、羽口ノ數三十二個、前床ノ大サ長一・八二九米幅〇・九一四米、深サ〇・六一〇米ナリ

足尾鑛山 金銀銅鉛鋅銻鉛錳 栃木縣上野郡足尾町 古河鑛業株式會社

(鑛床)昨年不動東向探鑛坑道内ニテ發見セル鑛床ハ其ノ後ノ開鑿ニ伴ヒ鑛體益々發展膨大シ本年末ニ至リテハ二千三百平方米ノ廣キ區域ニ亘リテ散在セリ、其ノ品位ハ二乃至三%ナルモ將來此ノ方面ニ於ケル鑛況ハ益々良好トナル見込ナリ通洞下五番坑東立入内ニテ捕捉セシ鑛床ハ爾後開鑿スルニ從ヒ益々發展シ稀ニ見ル良鑛體トナレリ、是レ即チ御典河鹿ニシテ從來ノ三百尺河鹿トハ異リタルモノナレトモ開發ニ依リ三百尺河鹿ニ連續合體シテ一大鑛床ヲ形成セルコトヲ確メタリ、目下其ノ存在範圍ハ下五番坑ニ於テ約三千七百平方米、下五番坑中段ニ於テ約二千八百平方米ノ廣キ區域ニ散在シ品位モ極メテ良好ニシテ平均十二%内外ナリ

又二百尺河鹿下三番坑ニ於テ二百尺鑛ノ下層ニ幅二十米餘長約三十米ニ亘ル大鑛體ヲ發見シ目下盛ニ開鑿中ニシテ其ノ品位ハ平均十五%内外ノ良鑛ナリ、一方鑛脈ニ於テ新ニ發見シタルモノハ藤倉上四東四十一井北立入内五百三十尺鑛及上四番坑判右衛門立入内八百八十尺鑛並ニ前鑛下十番坑北立入内千七百尺ノ鑛ノ三鑛ニシテ五百三十尺鑛ハ目下其ノ延長約百米其ノ間六十米ハ鑛況良好ニシテ鉛幅平均十五%品位十二%内外ナリ

八百八十尺鑛ハ鉛ノ存在極メテ不規則ニシテ斷續常ナラサレトモ平均鉛幅十二%品位約十五%ニシテ探掘可能部分ハ約百米ナリ、又千七百尺鑛ハ目下其ノ延長約百米其ノ間殆ント全部探掘シ得ルモノニシテ鉛幅平均十五%品位十五%内外ナリ

(探鑛)通洞方面下四番坑以下ニ於ケル砒岩帶探鑛及出會方面ノ諸河鹿ノ下部探鑛ニ便ナラシムル爲メ從來下四番坑迄ノ寶子橋鑛坑(二・三米×五米三區劃)ヲ下六番坑ニ相當スル位置迄即チ六十八米掘下クルコトトシ本年一月工事ニ著手シ十月竣工セリ

(選鑛)實收率ノ增加精鑛品位ノ上昇ヲ計ル爲メ左記設備ヲ増設セリ

種 類	大	サ	臺數
エムエヌ型浮遊選鑛機	九一機×九一機十六區	—	—
ウイルフレー泥砂叩筒	七・六機	—	—
ポートルランド濾過機	三六五機×二四三機	—	—
真空 叩筒	三〇・四機×一〇・一機	—	—
壓 縮 機	二〇・三機×二〇・三機	—	—

(製鍊)嘗テ反射爐ニ使用セル微粉炭製造設備ニ改修ヲ加ヘ之ヲ利用シテ熔鑛爐(差當リ第二號爐)ノ羽口ヨリ微粉炭ヲ吹込ム装置トナシ原料粉炭ヲ乾燥粉碎シ熔鑛爐送風管ヨリ分岐セル鼓風ヲ「ブスター」送風機ニヨリテ昇壓シ之ヲ前記微粉炭ト共ニ送風管ニヨリテ熔鑛爐ニ送り各羽口ヨリ「バーナー」ニテ微粉炭ヲ吹込ムコトトセリ、本工事ハ七月完成シ羽口塊炭及骸炭ノ使用量ヲ減ジ熔鑛操作ノ能率ヲ増進セリ

(鑛害除去設備)本年九月砂形乾泥池附近ニ爐床幅一・五一米、長四・二四米ノ反射爐一基及之ニ附屬ノ送風機一臺並ニ重油叩筒一臺ヲ新設シ砂形乾泥池ニ於テ乾燥セル中才沈澱池泥渣ヲ熔結シテ製鍊場ニ送り熔鑛爐ニ裝入シテ銅分ヲ回收スルコトトシ從來ノ坑内沈澱銅ノ採收ヲ廢止セリ、而シテ之カ成績ノ良好ナルニ鑑ミ十二月更ニ爐床幅二・四二米、長サ六・〇六米ノ反射爐ノ増設ニ著手セリ

六月銀山平堆積場滲透水取込口ノ下流千米ノ地點ヨリ同滲透水路ヲ變更シ庚申山川ノ右岸ニ内法四十二機深三十六機延長百二十一米ノ木樋ヲ設ケ其ノ終點ヨリ新ニ坑道ヲ開鑿シテ坑内大鑛鑛ノ露坑道ニ連絡セシメ以テ通洞坑排水ニ合流セシメントスル工事ニ著手セリ、該工事ハ明年三月頃完成ノ豫定ニシテ之カ完成ノ曉ハ從來切幹沈澱池ニ流送處理シツツ

アリタル銀山平滲透水ヲ通洞坑排水ト共ニ中才淨水場ニ於テ處理シ沈澱物ハ砂形乾泥池ニ於テ處理後製鍊場ニ於テ銅分ヲ回收スルニ至ルモノナリ

又前年ヨリ繼續中ノ原堆積場増設工事ハ六月堆積場ノ周圍三百五米ニ亘ル中心高サ平均五・四五米ノ石垣積堰堤ノ築造工事故工シテ全ク完成セリ

朽木礦山 金銀銅 朽木縣鹽谷郡船生村 日本礦業株式會社

捲揚斜坑ヲ六坑道ヨリ五坑道ニ貫通セシメ更ニ七坑道開鑿ノ爲メ二十米掘下ケ五坑道以下ノ鑛石及研運搬ノ爲メ別ニ五坑道ニ五馬力單胴式電氣捲揚機ヲ設置シ六坑道地並ニ揚水量毎分〇・二七八立方米揚水高九十一米ノ十馬力堅型三聯式耐酸「ブランジャー」唧筒一臺ヲ設置セリ

日光礦山 金銀銅亞鉛 朽木縣鹽谷郡玉生村外一 坂本愛子

既設選鍊場ヨリ多年廢出セル鑛泥ヲ處理スル目的ニテ一日處理鑛量十五噸ノ浮游選鍊場ヲ増設セリ其ノ設備ノ概要左ノ如シ

種 類	大	サ	臺數
ケイケイ型浮游選鍊機		二四四型	一
ウイルフレイ汰盤		一〇番型	一
コロコーン		一二二型	一
ボールミル	一三七型×四六型		一
原 動 機	三〇馬力三相交流誘導電動機		一

日東礦山 金銀銅 朽木縣河内郡舊井村 奥田ふん

九月捲鍊製鍊場増設工事ニ着手シ十一月竣工セリ其ノ設備ノ概要左ノ如シ

捲 鍊 機 亞米利加式重量一・三噸ノ杵五本立 一

原 動 機 淺川式七馬力瓦斯發動機 一

佐渡礦山 金銀銅 新潟縣佐渡郡相川町 三菱礦業株式會社

高任七番坑東四號堅坑開鑿ニ依ル九番坑南立入ニ於テ大立脈ニ到達以來東西押ヲ繼續中東押約四十米ニシテ富鑛帶ニ當リ坑道ニ於テ約六十米ノ間鑛石ノ存在ヲ確認セリ、引續キ掘上ニテ八番坑道ニ連絡ヲ計ルヘク目下九番坑ヨリ鑛帶ニ沿ヒ掘上進行中ナリ西押ハ約百十五米掘進セルモ高任堅坑開鑿ノ關係上一時中止セリ

高任堅坑ハ從來七番坑迄(二百八十米)掘下リ操業セルモ九番坑東押ニ於テ富鑛帶發見ノ結果小規模ナル七番坑東四號堅坑ニヨル作業圓滑ナラサルヲ以テ之カ掘下リヲ企圖シ取敢ヘス九番坑ヨリ掘上リ(加背一・五米×一・三米)十二月七番坑ニ貫通セルヲ以テ更ニ七番坑ヨリ追切リ(加背四・五米×二・三米)中ニシテ明年三月末完成ノ豫定ナリ

火力發電所ハ從來五百「キロ」「バーソン」式「タービン」ヲ原動機トシテ使用中ノ處湯水期ニ於テ屢々動力ノ下足ヲ告ケ充分ナル操業ヲ爲ス能ハサルヲ以テ五百「キロ」(最大連續出力七百「キロ」)「ユングストロンタービン」ニ變更セリ

高千礦山 金銀銅 新潟縣佐渡郡高千村 三菱礦業株式會社

六月白瀧坑二番坑開鑿ニ着手シ年末會賑セリ

入川坑現在ノ斜坑ハ捲揚能力僅少ナルヲ以テ之ヲ廢シ入川坑西一號ニ四月新ニ大サ四・五米×一・七米深四番坑ヨリ七番坑迄百米ノ直堅坑開鑿ニ着手セルカ明年三月末完成ノ豫定ニシテ該堅坑ニハ二十五馬力複胴式捲揚機ヲ設置セリ

昨年五月起工セル入川水力發電所新設工事(發電機三百二十五「キロ」)ハ十月竣工セルヲ以テ從來七十五馬力瓦斯機關ニ
 ヲリ運轉シタル壓氣機、捲揚機、唧筒等全部電力ニヨリ運轉シ瓦斯機關ハ豫備トナス事トセリ
 神岡鑛山 金銀銅鉛鋅銻錳重石砒 岐阜縣吉城郡津町外三 三井鑛山株式會社

前年發見セル下ノ本坑「タシロ」平鑛ハ六十米坑道地並ニ於テ西向ニ百七十米掘進セルカ其ノ間鑛脈屢々斷續セルモ鑛況
 良好ニシテ尙繼續探鑛中ナリ
 能率増進ノ爲メ鹿間選鑛場内ニ豫備トシテ左記設備ヲ増設セリ

種 類	能 力	數
給 鑛 舍	容量二二五瓩	一
ロールフライダー	一時間四・六瓩	一
コニカルボールミル	一時間四・六瓩	一
分 級 機	同	一
電 動 機	一・二〇馬力三相交流誘導型	一

亞砒酸採收設備ハ處理能力過少ナルト位置不適當ナルヲ以テ從來不備ノ點ヲ改良スルト共ニ容量大ナルモノヲ(一ヶ月
 取扱量七千瓩)「コットレル」收塵機室ニ隣接シテ設置シ從來ノモノヲ廢止セリ

惠比壽鑛山 銅銻鉛水鉛錳重石 岐阜縣惠比壽郡新川村 エビス電球株式會社

八月小規模ノ銻鉛製鍊場設置ニ着手シ十月工事完成セリ

土肥鑛山 金銀 靜岡縣田方郡土肥村 土肥金山株式會社

本年度ニ於テ發見シタル富鑛帶ノ主ナルモノハ中央堅坑九十一米下ノ坑道ニ於テ發見シタル蛭山鑛ノ下部富鑛部及數年
 間作業ヲ中止シ居リシ小山三百五十尺堅坑ノ作業再開ニヨリ三十九米下ノ地並ニ於テ發見シタル三脈下部ノ富鑛部並ニ
 竹藪鑛ノ南三百九十四米ノ點ヨリ西向立入ヲ行ヒ八十六米ノ地點ニテ發見シタル新鑛等ナリ

中央堅坑九十一米下地並蛭山鑛ハ九月ヨリ鑛押ヲ開始シ北向キニ五十六米南向キニ百九十二米ヲ掘進シ約七十六米ノ間
 ハ特ニ品位良好ニシテ自然金及濃紅銀鑛等ヲ產スルコトアリテ上部疏水道地並ヨリモ品位優良ナリ

小山三百五十尺堅坑ノ三十九米下地並ノ三脈ハ五月ヨリ鑛押ヲ始メ北向キニ五十一米南向キニ二百二十五米ヲ掘進セリ
 此ノ坑道ニ於テハ僅少ノ部分ヲ除ク外ハ脈幅品位共ニ良好ニシテ此ノ鑛押ノ殆ント全部稼行シ得ヘク此ノ鑛脈ニ於テモ
 疏水道地並ヨリハ反ツテ下部ニ於テ脈幅擴大シ品位モ向上セリ、竹藪鑛南千三百尺立入中ノ新鑛ハ六月ヨリ鑛押ヲ始
 メ北向キニ四十七米南向キニ五米ヲ掘進セリ、此ノ鑛脈ハ綠泥石及石英ノ堅緻ナル部分ト赤褐色ノ柔キ粉狀鑛ノ部分ヨ
 リナリ品位良好ナリ

中央堅坑(五・五米×二・四米)ハ深サ九十一米迄開鑿後將來ノ準備トシテ更ニ二十二米ヲ追掘セリ、而シテ九十一米地並ニ
 二百馬力ノ電氣「タービン」唧筒六臺ヲ据付ケ得ヘキ幅九・一米長サ十三米高サ平均三・二米(約三百七十八立方厘米)ノ唧筒
 室及南北ニ各二段ノ砂泥沈澱部ヲ設ケタル約八百三十五立方厘米ノ唧筒用水溜ヲ開鑿セリ、又九十一米下坑道ノ東向及西
 向キ立入坑道中ニ「バルブヘッドドローア」ヲ設置シ平時ハ此ノ扉ヲ開キテ人及鑛車ノ通行ヲ自由ニシ不時ノ出水或ハ不
 時ノ停電等ノ際ハ之ヲ密閉シ傍ラニ埋設セル四十六種鐵管ノ「スライズヴァルブ」ニヨリ水量ヲ加減シ得ル様施設セリ
 唧筒室ニハ揚水高サ九十一米毎分五・六六立方厘米二百馬力ノ電氣「タービン」唧筒三臺ヲ据付ケ又堅坑開鑿ニ使用セル三
 十馬力捲揚機ヲ六十馬力ニ變更シ「ケージ」ヲ使用スルコト、セリ

久根山 銅硫化鐵 靜岡縣磐田郡佐久間村外二 古河礦業株式會社

鑛体ハ下九番坑中段ニ於テ富銅帶再ヒ擴大シ幅員延長共ニ下八番坑地並ニ比シ二割ノ増大ヲ見タリ
上部舊坑開發ノ爲メ上七番坑タロニ二十五馬力空氣壓搾機ヲ添付ケ殘存鑛体ノ探掘ニ便セリ
下七番坑ニ揚水高百六米揚水量毎分〇・四二立方米二十馬力ノ井口式「タービン」唧筒ヲ設置シ從來ノ下六番坑備付ノ二
十馬力「タービンポンプ」及ビ下七番坑備付ノ五馬力「ノールス」唧筒ヲ廢止セリ
又選鑛ニ於テハ浮游選鑛ヲ擴張スルト共ニ電動機ノ位置變更並ニ傳導裝置ニ改善ヲ加ヘ操業ノ圓滑ヲ計レリ、其ノ新設
及増設シタル機械ノ主ナルモノ左ノ如シ

種 類	大 小	臺 數
ケーケイ式浮游選鑛機	複式	三〇五種
クロームロール	毎時	五 馳
カラーコーン	直徑九一種	深七六種
フィルタープレツス	徑八種	五〇枚
ドアシツクナー	深一八三種	徑九一四種
クイルフレーター唧筒	五・〇八種	七・六二種
ブレーキクラツチャー	三・八一〇種	二・二八六種

河津山 金銀銅滿俺硫化鐵 靜岡縣賀茂郡生澤村外二 日本礦業株式會社
前年大方鑛ト掛橋鑛トノ中間ニ於テ發見セル含金銀滿俺脈ハ引續キ鑛押中ニシテ探掘ニ堪ユルモノ三條、其ノ内走向ノ

最モ長キハ百八十二米ニ達セリ

坑内ノ發展ニ伴ヒ唧筒四臺設置セリ、其ノ場所種類能力左ノ如シ

設 置 場 所	種 類	能 力	馬 力
猿喰七番坑南九號堅坑	橫型「タービン」唧筒	每分〇・八三五	三〇
須崎五番坑	縱型「ブルザータービン」唧筒	〇・八三五	三〇
	橫型「タービン」唧筒	〇・五三八	三〇
	同 唧筒	一・三九一	八五

又掛橋選鑛場ノ廢石推積場ハ狹隘ヲ告ケルニ至レルヲ以テ山ノ傾斜ヲ利用シ廢石ヲ捲揚ケ推積スヘク十馬力ノ「インク
ライン」ヲ設置セリ

尾小屋山 金銀 靜岡縣賀茂郡白濱村 住友會社

昨年十一月着手セル選鑛場移轉工事ハ本年二月竣工シ操業ヲ開始セリ
第二疏水坑準以下探鑛ノ目的ニテ開鑿セル堅坑ハ湧水次第ニ多クナリシニヨリ十馬力「タービン」型「シンキング」唧筒一
臺並ニ同唧筒上下用三馬力電氣「ホフスト」一臺及捲揚機用トシテ五馬力單胴捲揚機一臺ヲ設置セリ

第六脈八番坑準ニ於ケル鑛況ハ其後益々良好ニシテ引立附近脈巾八尺ニ及ヒ品位又含銅七乃至八%ニ達セリ
昨年十一月開始セル豫定延長二百尺ノ波佐羅七番坑第八脈堅坑開鑿ハ本年末既ニ千九百九十尺ヲ進メ近ク完成ヲ見ルヘク
之カ開鑿中ニシテ其ノ廢石並ニ坑水處理用トシテ十馬力小型「スキツプ」捲揚機及十二馬力「シンキング」ブランジヤール

ンブ」各一臺ヲ増設シタリ
尙從來自家用發電ニ係ル發電及變電設備ハ七月ヨリ全部尾小屋水力電氣株式會社ニ讓渡シ同會社ヨリ一ヶ月二十七萬
「キロワット」時ノ電力ヲ購入スルコトナレリ

竹田嶺山 銅 福井縣坂井郡竹田村 磯野良吉

昨年十一月ヨリ着手セル大平坑ノ探鑛ハ鑛況振ハサルヲ以テ本年九月遂ニ同坑ノ作業ヲ休止シ新ニ南方大岩地内ニ於テ
發見セル水路鑛及舊水路鑛ノ探鑛ニ從事セリ水路鑛ハ走向三百四十度、傾斜西七十度厚一尺乃至三尺ニシテ年末現在掘
進延長四十尺ナリ

舊水路鑛ハ走向三百五十度傾斜西六十度厚三尺年末現在掘進延長五十二尺ナリ

明年度ニ於テハ前記水路鑛ヲ北向ニ掘進シテ竹田坑ニ連絡セシムル豫定ナリ

飯盛嶺山 銅硫化鐵 和歌山縣那賀郡生津村外一 古河鐵業株式會社

前年來ノ繼續事業タル下部鑛石捲揚用斜坑掘下ハ本年末完成ヲ告ケ同時ニ三十八馬力捲揚機一臺ヲ設置セリ、又坑外運
搬系統ノ改善ヲ圖リ從來ノ自動索道及安全索道併用ノ中繼運搬ヲ廢シ本年六月安全索道千七百七十四尺ヲ延長シ以テ選
鑛場及名手驛五千八百九十尺間直接輸送ヲナスニ至レリ

尙次年度ニ於テハ堅坑及選鑛場間ノ鑛車運搬ヲ便ナラシムル爲四坑立入ニ無極鋼索軌道ヲ施設シ且ツ從來ノ手選鑛ヲ機
械選鑛ニ改メントスル計劃アリ

生野嶺山 金銀銅鉛鋁砒亞鉛銻鉛重石 兵庫縣朝來郡生野町 三菱礦務株式會社

昨年七月再開セル金香瀨十五番坑北向掘進ハ本年三月北九號ヨリ延長百二十米ノ富鑛帶ニ着脈シ脈巾平均二米品位銅三

%亞鉛五%銀萬分ノ一頗ル好況ナリ

五井富鑛帶下底探鑛ハ引續キ作業中ノ處本年四月十七番坑ニ於テ富鑛帶ニ着脈シ北部ニ於テ延長六十米ノ間銅品位五%
巾二米ヲ有シ鑛況優勢ナルモ下部ニ至レハソノ著シハ漸次北方ニ偏シ南部ハ劣勢トナル傾向アリ、延長八百四十米昭和
五年三月完成ノ豫定ナリ

昨年來繼續セル九番蟹谷立入四番東方立入ハ夫々四月及十月ニ着脈シ蟹谷立入ハ目下切上リ探鑛中ナリ、四番東方立入
ハ光榮脈ノ南部ニ會シ尙進シテ平行脈ヲ探鑛中ニシテ昭和五年中ニ完成ノ豫定ナリ、光榮脈ハ巾二米内外品位良好ナル
含銀亞鉛脈ニシテ是ヨリ北方舊光榮脈附近迄鑛脈ノ連續スルモノトセハ鑛量ノ著シキ増加ヲ期待セラレ

本年一月十二井方面下部十三番坑ノ南北稼行ノ爲ノ延長四十五米ノ掘下リ開鑿ニ着手シ七月完成ヲ告ケタリ、ソノ大サ
縱四・五米横二・〇米ナリ

運搬方面ニテハ昨年度ニ於テ擴張及支柱作業ヲ終了セル金香瀨五番坑、太盛間ノ連絡運搬ヲ開始シ鑛石ヲ五番坑ヨリ太
盛通洞ヲ經テ本部選鑛場迄運搬スルニ至リ五番坑道(延長二、二六〇米)及太盛通洞(延長七〇〇米)ニ二十二馬力電氣機
關車各一臺ヲ配置セリ

太盛堅坑ニハ「リツヂヤークツド」式八十五馬力捲揚機ヲ据付タ、金香瀨五井堅坑ハ深度及出鑛量ノ増加ニ伴ヒ舊八十五
馬力ヲ廢シ新ニ二百五十馬力複胴式電動捲揚機(「アキシャルダアルプレート」)ノ据替工事ニ着手シ本年八月完成セリ
鑿岩機ノ本年中ニ補給セルモノ次ノ如シ

デンバー會社「オーモデル七番」

インガール會社「N 七五番」

四

一

インガソル會社製「S 四九番」
同 「CC 一一番」

二
三

神兒知選鑛場ハ本年一月ヨリ明延粗鑛處理ノ目的ニテ諸設備ノ増設ヲ計畫シ目下尙工事ノ繼續中ニシテ未タ完成ノ域ニ達セス

一箇月間取扱元鑛量、
一箇月間製品ノ種類及數量、

明延産合銅錫鑛 四、二〇〇吨
比重錫精鑛 一五〇吨
浮游銅精鑛 二〇〇吨

昭和四年中ニ完成シタルモノ左ノ如シ

- 一 二吋×一〇吋エレベーター
- 二 二吋×四吋×一五呎ドラッグベルト
- 九 九尺×八尺オリバーフ井ルター
- オリバー附屬八尺×九尺×一〇尺鑛舎
- 二〇馬力斜面捲揚機
- 輕便捲揚機
- 五馬力消火用タービンポンプ
- 三馬力サイレン
- 電動機

一
一
一
一
一
二
一
一
七

本部選鑛場ハ銅選鑛場並ニ亞鉛選鑛場各々獨立ニ操業シツツアリシカ前記坑内トノ連絡完成ト共ニ本年一月ヨリ選鑛場ノ統一ヲ企テ同時ニ從來採取シ得サリシ亞鉛ヲモ回收センカタメ諸設備ノ改修ニ着手シタルモ年内ニハ完成スルニ至ラス

一ヶ月間取扱元鑛量

金香瀨産銅亞粗鑛

一一、〇〇〇吨

一ヶ月間製品ノ種類及數量

銅精鑛

一、〇〇〇吨
五〇〇吨

本年中ニ完成シタルモノ左ノ如シ

- ロールフキーター
- ベルトコンベヤー
- ハーデンヂボールミル
- ドルクラシファイヤー
- 浮游選鑛機
- ブ
- 分 鑛 機
- バケツトエレベーター
- ドルシツクナー

一〇
一五
一
一
一六
八
二七
二
三
五

二坑道上部十米ノ所ヨリ南立入四十五米ニシテ新脈ニ逢着シ鍾巾六十種鑛況優良ナルヲ以テ鍾押探鑛ヲ續行セリ、次年度ニ於テハ特ニ上部探鑛ニ努力シ本脈ニ並走セル北鍾及南鍾開發ノ計劃ナリ

●明延鑛山 ●金銀銅鉛錫重石 兵庫縣利根郡山口村外二 三菱礦業株式会社

本山鑛床下部探鑛ノ目的ニテ昨年十月ヨリ着手セル四百尺坑ヨリ六百尺坑迄六十米ノ鑿坑(巾二米長四・五米)掘下工事ハ本年九月完成セリ

本山二百尺坑百間立入ハ十一月十一號東立入ノ繼續トシテ着手シ年末尙百間脈ニ達セス

鑿坑完成ト共ニ六百尺坑「ブラット」ヨリ東方立入ニ着手シ大仙脈ニ向ツテ掘進中ニシテ明春一月着脈ノ豫定ナリ

北六號赤紫脈ヨリノ北星立入ハ北星脈ニ至ル四百三十米ノ探鑛ニシテ明春二月着脈ノ豫定ナリ

赤紫四百尺坑北押ハ南六號ニ入りテ遠カニ富脈トナリ巾員肥大シ六十米ニ抄ル錫石ノ環狀ヲナス上鑛ニシテ「ウォルフラマイト」ヲ隨伴セス年末ノ脈勢愈々旺盛ヲ極ム、大仙脈ハ南十五號以南ハ鑛脈巾員一米乃至二米ヲ有スルモノ含錫含銅貧弱ナル白色石英ニシテ約七十米ヲ追跡セシモ遂ニ良化セス

百間脈ハ五坑南二號線附近ニテ斷層ニ出會セル儘ナリシカソノ斷層先ヲ探鑛スル目的ヲ以テ南一號ヨリ立入ヲ行ヒ掘進約十四米ニテ着鍾巾員約一米、錫二%銅二%ノ含有アリテ北十號ニ至ル約三百米ノ未開發區域ニ對シ大イニ期待シ得ルニ至レリ、南谷坑ニ於テハ昨年八月以來南谷本坑々ヨリ南西三百米ニアル松谷舊坑ノ取明ヲ開始シ約二十米ノ取明ヲ終リ、斷層ヲ突破シテ厚二米含銅一〇%ノ優良鑛層ヲ發見ス、南谷本坑十五號大斷層以東ノ探鑛ノ目的ニテ坑内外ヨリ南立入ヲ開鑿シ又同鑛層北落斷層以北ノ探索ノ爲メ地表ヨリ上總堀試鑛ヲ試ミタルモ何レモ未タ着鑛スルニ至ラス

運搬方法ノ改革トシテ前年ヨリ繼續作業中ノ明延、神子畑間三千九百三十六米ノ隧道開鑿工事ハ本年四月完成シタルヲ

ルヲ以テ二十二馬力電氣機關車一臺ヲ配置シ明延、神兒畑間延長六千三百三十六米ノ電車軌道(軌條重量十五斤)運搬ヲ開始シ從來ノ索道送鑛ヲ廢ス尙之ト關聯シテ大仙坑外選鑛場ニ三十五馬力傾斜捲揚機(電氣複胴式)ヲ据付ク

排水用トシテ六百尺坑ニ三馬力「ブランシャードンブ」ヲ据付ク、壓氣機ハ明神隧道完成ト共ニ「マリバン」WG六番五十馬力二臺ヲ大仙坑外ニ移シ「インガートン」NEI四十馬力ヲ大仙坑外ヨリ桐ノ木坑外ニ移設セリ

將來ノ計畫トシテハ大仙坑内主脈ノ探鑛ニ努ムル外六百尺坑ヨリハ明延川ノ西岸ニアル大同脈根合ニ進出ノ豫定ナリ、南谷坑ニ於テハ鑛床、周邊探鑛ノ爲メ各所ニ上總堀ヲ増設シ昨年獲得セル新鑛層ノ介在狀態ヲ極メントス、電力充實ノタメ山陽水電ヨリ購入ノ豫定ニテ目下送電線架設中ニシテ明春ヨリ購入電力豐富トナル見込ナリ

●赤金鑛山 ●銀銅 兵庫縣栗原郡紫盛村 石原久之助

前年以來繼續作業セル大仙坑第一坑道ヨリ斜面百三十尺掘下ハ鑛床ノ厚五寸乃至三尺延長百尺餘ニシテ平均品位一〇%内外ニシテ鑛況優勢ナリ

大仙坑下底探鑛ノ目的ニテ川途第三坑々ヨリ方位三十八度六百八十尺ノ位置本年九月大切坑ノ開鑿ニ着手セリ、豫定延長二百尺年末現在延長五十尺ナリ

●大和水銀鑛山 ●水銀 奈良縣宇陀郡宇太村 景山了一

一昨年末着手以來銳意探鑛ノ結果漸ク稼行ニ堪ヘキ鑛量ノ存賦ヲ認メタリ、即石灰岩中ニ鑛染狀ヲナシ細脈ニ分離シ存在スル辰砂ハ下部ニ於テ直ニ稠集シ鍾巾増大ノ傾向ヲ示ス殊ニ東延切上中段坑並ニ西延掘進ニ在リテハ鑛床著シク擴大シ鑛況優勢ナリ

斯ノ如クシテ本年度ハ専ラ探鑛準備ニノミ没頭シ從テ坑内ニ左記機械ヲ設備セリ

三馬力セントリフューガルポンプ 毎分五立方尺
 チヤムピオン型通風機 毎分一〇〇立方尺
 一〇馬力複胴式捲揚機 一

更ニ十一月ニハ選鑛場ヲ開設シ手選ノ外七馬力半「ジョウ」型碎鑛機一基ヲ設置シタリ
 尙ホ次年度ニ於テハ探鑛開始ト共ニ製鍊ヲ行ハシコトヲ計畫シ最早具體化セントスル域ニ達セリ

原動力トシテハ宇治川水力電氣株式會社ヨリ電力毎時六十馬力ヲ購入ス

鉛山鑛山 金銀銅鉛亜鉛硫化鐵 和歌山縣西牟婁郡瀬戸山町 原庄右衛門

乙姫鑛南方ニ於テ「シユラムベルゲル」式電氣探鑛ヲ行ヒタル結果有望ナルヲ確メ引續キ立入探鑛ヲ行ヒ年末延長五百二尺ニ達シ尙百五十尺ヲ探鑛スヘキ豫定ナリ、次キニ選鑛ニテハ取扱元鑛ノ品位低下シ從來ノ如ク比重選鑛ノミニテハ實收ヲ高ムルコト困難ナルニ至リタルヲ以テ左記設備ヲ整ヘ浮游選鑛ノ試驗的操業ヲ開始シタリ

「エムエス」式浮游選鑛機 三區 一

三相交流電動機 十馬力 一

岩美鑛山 銀銅 鳥取縣岩美郡小田村 日本鑛業株式會社

昨年以來開鑿セシ大盛鑛坑ハソノ後作業ヲ中止シ未タ完成ヲ見サルモ三〇米準ニテ立入ヲ行ヒシニ僅ニ三米ニテ大盛鑛ニ着床シ爾來鑛押ニ約三十米西進セシモ鑛幅平均一・三米含銅三・二%ヲ示セリ、右ハ運搬、排水ノ關係上大盛鑛坑下一番坑ト貫通セシムル目的ナリ

島山鑛體ハ其後引續キ探鑛ヲナセシニ大切坑中段準ニ於テ幅員三十米延長六十米品位銅三・二%ニ膨大セシヲ以テ更ニ二

十米上部本坑準ニ於テ探鑛中ナリ

探鑛ニ於テハ鑛岩機探鑛ヲ増加セシムル爲メニ七十五馬力「プロットマン」型壓氣機一臺ヲ増設セリ

選鑛ニ於テハ「オリバー・フイルター」ノ代リニ「フイルタープレス」二臺ヲ新設セリ將來ノ計畫トシテハ島山鑛體及相山鑛

ノ下底探鑛ノ目的ニテ相山方面ニ鑛坑開鑿ノ豫定ナリ

笹ヶ谷鑛山 銀銅亞鉛砒 鳥根縣鳥足郡細道村外一 藤野十郎

前年發見シタル鑛坑第三坑道東部安山岩脈接觸部分ノ鑛塊ハ依然トシテ優勢ヲ示スヲ以テ更ニ該安山岩ヲ突破シタルニ含銅品位三・二%ニ過キサレモ幅員七十尺餘ノ鑛塊ニ達着セリ

又前年來ノ計畫ニ基キ掘下ケタル鑛坑第三坑道西部斷層ノ際鑛塊ハ豫想ニ反スルモノアリタルヲ以テ更ニ第四坑道準ヨリ斷層面ニ沿フテ南北ノ兩部ニ向ヒ探鑛セル結果亞鉛及砒ノ夾雜ヲ免レサルモ含銅五乃至一〇%ノ一鑛塊ヲ捕捉スルコトヲ得タリ

其他第三坑道ヨリ第四坑道ニ至ル掘下ケハ漸ク完成ヲ告ケタルヲ以テ本年九月其下底準ヨリ南北ニ向ケ斷層ニ沿ヒ探鑛ヲ開始シ本年末迄百尺掘進セリ

尙來年度ニ於テハ浮游選鑛ノ設備改善、鑛坑第四坑道準ト坑内大鑛坑下底トノ連絡坑道及大鑛坑掘下リヲ完成スヘキ豫定ナリ

柵原鑛山 銅硫化鐵 岡山縣久米郡吉岡村外二 藤田鑛業株式會社

柵原大鑛體ハ既ニ從來ノ探鑛結果ニ依リ其輪廓略確定セルヲ以テ前年來外部ニ向ツテ探鑛ヲ開始シタル結果本年度新鑛體ノ東方ニ於テ頗ル優秀ナル鑛體ヲ發見スルニ至リタルノミナラス更ニ舊鑛體ノ西方ニ於テモ亦鑛體ノ伏在スル徵候ヲ

認ムルニ至リタリ
 即チ新鑛体五番坑ニ於テハ其東南端東二號附近ハ概シテ斷層及岩脈交錯シ地質上探鑛有望ナリシヲ以テ本年七月其東端ヨリ更ニ東ニ向ツテ探鑛ヲ開始シタルニ掘進約六十尺ニシテ優良ナル硫化鐵鑛体ニ當リ其レヨリ約百九十尺ノ間鑛体ヲ持續シ然後漸ク母岩ニ推移シタリ、又十月ヨリ其下部六番坑地並ニ於テ探鑛ヲ行ヒタル結果ハ掘進約八十三尺ニシテ鑛体ニ當リ其レヨリ尙約三十尺ヲ掘進シタルカ未タ鑛体中ナリ、本鑛体ハ未タ其輪廓ヲ詳ニセスト雖今日迄ノ探鑛結果ニ依レハ東西ハ六番坑地並ニ於テ百二十尺、南北ハ五番坑地並ニ於テ百五十尺又垂直ハ百尺ニ達スヘキモノアルハ略確實ナリ

前記探鑛ノ結果ニ鑑ミ新鑛体三番坑地並ニ於テ更ニ東方ニ向ヒ探鑛ヲ行ヒタルニ掘進約三十尺ニシテ磁硫鐵鑛体ニ當リ而シテ其鑛体ハ更ニ掘進スルコト約五十尺ニシテ幅二十四尺ノ粉岩々脈ノ爲一旦中絶シタレトモ其岩脈ヲ橫斷後再ヒ現ハレ引續キ探鑛中ナリ、又舊鑛体ニ於テハ三番坑地並ノ西方ハ從來相等有望視セラレツツアリタルニ拘ラス其探鑛ハ坑水ヲ多量ニ湧出セシムルニ至ルヘキ虞アリトノ理由ノモトニ躊躇セラレタリシカ本年度新ニ長孔穿鑿試鑛「デンヅア」三十三型「ドリフター」ヲ使用シ三番坑六條通リヨリ西向キ鑿孔ヲ開始シタルニ直ニ幅十五尺ノ粉岩々脈ニ當リタレトモ其レヲ距テテ硫化鐵鑛体現ハレ年未迄約五十尺ヲ掘進シタレトモ尙鑛体ヲ持續セリ
 其他特筆スヘキ探鑛ハ前年來鋭意掘進ニ努力セル充墳坑道休石坑向キ立入掘進ニシテ本年未其延長約千四百七十尺ニ達シ硫化鐵ヲ多量ニ含有セル輝綠岩現ハレ形勢次第ニ有望トナレリ
 本探鑛ハ棚原坑内最高地並充墳坑道ノ奥部ヨリ舊鑛体ヲ離レテ北四十五度西ノ方向ニ進ミ遠ク休石舊坑ニ至ル迄距離約三千尺ニ及フヘキ大探鑛ニシテ同方面ニハ嘗テ「シユラムバルゲル」式電氣探鑛ヲ行ヒタル結果有望視セラレタル地域アリ

ルヲ以テ本探鑛ノ結果ハ興味アルモノトシテ注目セラレツツアリ

次キニ事業擴張トシテ前年來鋭意開鑿中ナリシ新大堅坑「ブラツト」ヨリ吉ヶ原ニ至ル距離約二千三百尺加脊十五尺×十尺ノ大通洞坑ハ本年八月終ヲ告ケ原地表ニ貫通シ爾來專ラ開鑿跡ノ追切整理及混凝土壁工事ヲ行ヒ又既ニ前年度ニ於テ開鑿工事ノミヲ完了シタル深三百七十九尺ノ新大堅坑ハ爾來專ラ枠組準備作業ヲ行ヒツツアリタルカ本年七月其準備整ヒタルヲ以テ四番坑地並ヨリ順次上方ニ向ツテ枠組作業ヲ開始セリ、其構造ハ内徑長十三呎幅九呎ノ長方形トシ之ヲ三區劃ニ分チ二區ハ二鑛車ヲ縱列ニ積載スル「ケージ」捲用トシ他ノ區ハ人道及送風排水管等ノ敷設ニ使用スルモノナリ

前記新大堅坑及吉ヶ原大通洞坑ハ目下吉ヶ原迄延長工事中ナル私設片上鐵道ト相關聯シテ本鑛山產出鑛石ヲ本縣片上港ヘ搬出スヘキ重要運搬機關トシテ使用セラルヘキモノニシテ其工事完成ノ上ハ大堅坑ノ捲揚機械トシテ約二百五拾馬力ノ電氣捲揚機ヲ新設シ又吉ヶ原大通洞坑ニ於テハ運搬機關トシテ電力使用ニ依ル「エンドレスロープ」或ハ電氣機關車ヲ採用スヘク目下尙考究中ナリ、其他久木選鑛場ヨリ備前矢田驛間ノ玉村式單線架空索道輸送ハ之ヲ廢シ同選鑛場ヲ吉ヶ原大通洞坑外ニ移轉シ併セテ大貯鑛庫ヲ新設スヘキ豫定ナリ是等諸工事ノ全部完成スルハ昭和五年三月末ノ豫定ナリシカ其後一部工事ノ遅延ニ依リ同年末トナルヘキ豫想ナリ

尙片上港ニテハ當山產出鑛石多量ヲ秤量處理スルニ便スル爲本年七月左記設備ノ連續秤量機及試料採取場ヲ設置シタリ

連續秤量機
 取付式「ベルトコンベヤー」
 可搬式「ベルトコンベヤー」

一
 一
 一

小型捲揚機 運搬容量 毎時間 八十噸

試料採取場

「ドフヂクラツシャヤ」 四時×六時

「タロームロール」 九時×九時

「デイスクグライシダ」 六時

三相交流電動機 五馬力

其他施設改善トシテ前年末擴張工事ニ著手シタル坑水處理用沈澱池及乾泥池ハ左記ノ通り完成シタリ

沈澱池 内徑 三十五尺×五十尺×八尺

乾泥池 同 三十尺×六十尺×四尺

尙坑内ニ於ケル排水方法ハ現在ハ二段式排水法ニシテ排水能率低キヲ以テ之ヲ一段式排水方法ニ改メ以テ其能率ヲ高ムヘク六番坑底ニ唧筒室及附屬貯水池ヲ新設シ工事完成ノ上ハ八十馬力「タービン」唧筒二臺ヲ設置スヘキ計畫ナリ

江與味鑛山 銀銅硫化鐵 岡山縣御津郡江與味村 住友別子鑛山株式會社

前年度事業縮少ノ爲中止中ナリシ坑内ニ於ケル下底ノ探鑛及選鑛場ノ改造工事ヲ復活シ坑内最下底八番坑道ニ於テハ西走リ其他二箇所ノ掘下リ探鑛ヲ行ヒ目下尙繼續中又選鑛場ハ最初ノ設計通り工事ヲ進メ十月左記ノ通り設備完成セリ

單胴式スキップ捲揚機

五〇耗目移動式グリズリ

幅一米長二・三米

一

二十五馬力

一

ロールジョウクラツシャヤ

二五耗目クランク式セーキングスクリーン

五一〇耗ベルトビツキングコンバヤ

プレーキクラツシャヤ

二五耗篩

クロームロール

二段式セーキングスクリーン

ハルツジツガー

ハンコツクジツガー

ウヰルフレーターブル

カラーコーン

(フローテーター

ボ ン プ

三相交流電動機

三相交流電動機

同

(同

三六〇耗×一八〇耗

幅〇・六米長三米

長一〇・五米

二六六耗×一二七耗

幅一・二二米長二・四四米

二五〇耗×五〇〇耗

幅〇・四米長一・八米

三 區

幅六〇六耗長三・六三六耗

幅二・一二耗長五米

容量四・三立方米

未 完 成

揚 高 七 米

二 十 五 馬 力

十 馬 力

未 完 成

三相交流電動機

同 七馬力
同 五馬力
同 二馬力

本谷礦山 銀銅亞鉛砒 岡山縣久米郡大井西村外一 泉美代治

本年八月除害施設トシテ左記工事ニ著手シ年末完成セリ

溪谷利用沈澱池堤防天端幅四尺、長六十六尺、高最高七尺

同 幅六尺、長八十尺、高十三尺

清水路 幅二尺、深一尺五寸、長八十二間

礦水路 同 同 長百二十八間

普通沈澱池 面積五十坪、深四尺

三繩礦山 銅硫化鐵 德島縣三好郡三繩村外一 日本礦業株式會社

坑内外ノ作業進捗セシニ依リ五月「サリバン」會社製五十馬力空氣壓搾機一基ヲ増設セル外選鑛設備ヲ改造シ「トロンメ

ル」三聯ヲ増設ス

東山礦山 銅硫化鐵 德島縣麻植郡西尾村外三 日本礦業株式會社

廣石坑ニ於テハ第二並第五斜坑方面ノ下部富鑛部ノ開發並ニ本山廣石間(約一千米間)探鑛ニ努メ本年二月左記空氣壓搾

機ヲ設置スルト共ニ運搬量ノ増加ヲ計ル目的ヲ以テ第六斜坑、八坑準ニ五馬力單胴式電氣捲揚機一臺ヲ設置シ更ニ第二

斜坑既設ノ十馬力輕便單胴式捲揚機ヲ二十馬力單胴式電氣捲揚機ニ滑換ス

折木坑ニ於テハ五坑東部下底探鑛ヲ目的トシ十月ヨリ斜坑(鑛追ヒ)開鑿ヲ開始シ本年末十六米ヲ掘進シ鑛況良好ナリ
同第三斜坑(五坑東堀リ)ニハ輕便單胴五馬力電氣捲揚機一臺ヲ新設セリ

本年中ノ購入鑿岩機左ノ如シ

インガソルBCRW四三〇番

サリバンD T四四番

A S D 一〇番

又左記各機ヲ増設シ選鑛設備ノ擴張ヲ行ヘリ

東山方面 パケツトエレベーター

ウイルフレー十番型汰盤

廣石方面 パケツトエレベーター

トロンメル

ハルツ式ジツカー

折木方面 パケツトエレベーター

ウ井ルフレー五番型汰盤

三好礦山 銅硫化鐵 德島縣三好郡三庄村 日本礦業株式會社

本年五月粉鑛處理ノ目的ヲ以テ左記選鑛機械ヲ増設ス

ハルツ式一二區ジツカー
 ウ井ルフレ一十番型汰盤
 パケットエレベーター
 八馬力石油發動機
 半田鑛山 銅硫化鐵 德島縣美馬郡半田町外二村 日本鑛業株式會社
 坑内作業ニ機械力應用ノ爲メ本年七月坑内外ニ左ノ設備ヲナシ手掘々進中ノ斜坑及五十尺坑百尺坑東延ニ鑿岩機掘ヲ開始セリ

機 種	大サ又ハ能力	個數
ブルザーディーゼルエンジン	三五馬力(空氣壓搾機及發電機原動力)	一
デマブEVS空氣壓搾機	三七五立方米(毎分)	一
三相交流發電機	四四〇V六〇サイクル二〇KVA	一
電力輕便單胴捲揚機	五馬力	一
三聯式ブランチヤー唧筒	二・五馬力	一
インガートールBCR四三〇番型鑿岩機		一
ASD一〇番型鑿岩機		二

高越鑛山 銅硫化鐵 德島縣麻植郡三山村 共立鑛業株式會社
 最下底運搬坑道タル大通洞下四百尺ニ於テ大堅坑西南五百尺下磐層ハ鐵幅平均五尺鑛況優勢ナルヲ以テ鑛床ニ沿ヒ斜坑

ヲ開鑿シ本年中約六百尺ニ達シ引續キ掘進中ナリ
 又前記斜坑ノ途中ニ於テ大堅坑ヨリ西南八百尺ノ位置ヨリ斜掘下リヲ分岐セシメ下底ノ鑛石存在ヲ確メタルニ依リ更ニ大堅坑ヨリ西南八百五十尺ノ位置ニ於テ新ニ堅坑ヲ開鑿シ下部富鑛体ト開發ヲナス計畫ノ下ニ來年度ヨリ新堅坑開鑿ニ著手スル豫定ナリ

足尾式二〇番型	四
同 四〇番型	一
同 一一番型	一〇
同 一二番型	三

インガートールラント會社製百二十五馬力空氣壓搾機一
 久宗鑛山 銅硫化鐵 德島縣麻植郡三山村外一村 南海鑛業株式會社
 前年來ヨリ繼續掘進セル第三坑道東部切上リ探鑛ハ本年中旬上部第二坑中段東ニ貫通シ鐵幅八寸ノ鑛体走向ニ二百數十尺連互セルヲ確認セルヲ以テ更ニ同坑道ノ東方探鑛ノ爲メ現在該切上リヨリ六十餘尺延長セリ、又西部ニ於テハ本山斜坑下部ト連絡ヲ計ルヘク本年五月ヨリ第三坑道下三十尺坑ノ開鑿ヲ開始シ現在六十尺延長セリ
 淺川鑛山 銅硫化鐵 德島縣海部郡淺川村外一 三菱鑛業株式會社
 本年五月現鑛業權者ノ買收スルトコロトナリ爾來銳意坑内外ノ擴張準備中ナリ
 鑛ニ發見セル新鑛体ハ引續キ諸所ニ立入ヲ行ヒ探鑛ヲ試ミタル結果幅員最小一米最大十米平均四・五米走向延長四十二

米ナルヲ確認セリ

本年新ニ開鑿シタル延長百米ノ通洞西向立入ハ年末迄約六十米ノ掘進ヲ見又現鑛体ノ東部ニ於テ新ニ堅坑開鑿ノ目的ヲ以テ該通洞ヨリ立入掘進ヲ開始シ四十五米ヲ進メ更ニ將來増産ニ基ク運搬準備トシテ通洞ニ於ケル加脊ノ擴張ヲ企テ既ニ延長二百米ノ切續グヲ遂ゲ一方本坑ノ東部約百三十米ニ位スル戸矢坑ニ於テハ其下部探鑛ノ爲本年末立入開鑿ニ着手セリ

尙次年度ニハ前記堅坑(加脊四・五米×一・五米、延長一五〇米)ノ開鑿ト共ニ七十五馬力捲揚機ヲ新設セントシ又探鑛及探鑛ニハ専ラ機械掘リヲ採用スヘク空壓搾機及鑿岩機ノ設備計畫中ナリ

佐々連鑛山 銅硫化鐵 愛媛縣宇摩郡金砂村 岩城鑛業株式會社

本年ニ入り佐々連大切坑内第一斜坑及第二斜坑ニ於テ前者ハ四番五番坑間百十五尺ヲ後者ハ四番六番坑間百七十五尺ヲ掘下タリ

尙鑛体ノ現狀ト上部操業ノ都合上佐々連大切坑内ヨリ一大斜坑ノ必要ヲ感シ七月ヨリ之カ準備作業トシテ立入坑道ノ開鑿ニ着手セル外二番乃至六番ノ各坑道ニ於テ夫々立入又ハ切上リ掘下リヲ開始シ之カ爲メ五番坑道ニ五馬力捲揚機一基ヲ設備セリ

又一方金立坑ニ於テモ事業ノ發展ニ伴ヒ二月地表ヨリ延長六百七十尺ノ大切坑開鑿ニ着手シ既ニ四百七十尺ヲ進メタリ上記ノ各作業ニハ主トシテ鑿岩機ヲ使用シ其増加シタルモノ左ノ如シ

- インガーツルランドCCC 一 一番ストーパー
- 同 R三九番ジャツクハンマー

ナリバン

L七番ローター

二

其他坑外ニ於テハ金立大切坑口ニGW六型二十五馬力壓氣機一基ヲ設ケ本山ニ醫局ヲ開設シ又鑛ニ晝間八十一「キロワツト」購入ノ豫定ナリシヲ更ニ夜間三〇「キロワツト」ヲ増加シタル等ノ擴張ヲ見タリ

尙將來佐々連新斜坑ニ七十五馬力捲揚機ヲ設ケ、又金立大切坑ハ着頓後種押探鑛ヲ兼テ新ニ斜坑ヲ開鑿セントスル計畫アリ

金山鑛山 銅硫化鐵 愛媛縣喜多郡出海村外一 三菱鑛業株式會社

前年來引續キ操業中ナル電氣探鑛ノ結果本年三月既知鑛床ノ南方約千五百尺ノ地點ニ有望ナルモノアルヲ認メタルヲ以テ翌四月ヨリ改良上總掘試鑛機三基ヲ設ケ鋭意探鑛中ナリ

其他坑内ニ於テ新基鑛三坑道以下四坑道間ノ斜坑掘下ハ既ニ完成ヲ告ケタルヲ以テ更ニ五坑道開設ノ目的ニテ本年十月掘下ヲ開始シ年末迄三十餘尺ノ掘進ヲ見タリ

大峰鑛山 銅硫化鐵 愛媛縣西宇郡宮内村外一 大峰鑛山株式會社

既ニ尖滅シタル第四層ノ上部六尺ニ於テ本年十月新鑛床ヲ發見セリ、該鑛床ハ初メノ厚サ數寸ニ過キサリシモ漸次肥大シ遂ニ二尺四寸ニ達シ品位又含銅五%ヲ下ラス之ヲ六中南種ト稱シ引續キ探鑛中ナリ

昨年來繼續セシ第四通洞電車終點ヨリノ東北向掘進ハ本年末迄ニ二十七尺ヲ進メ、又下部十三番坑道開鑿ノ爲十二番坑ヨリノ掘下ハ傾斜二十五度延長百四十尺ヲ以テ所期ノ目的ヲ達スルコトヲ得タリ

尙右下底坑道開鑿ニ伴ヒ運搬用トシテ十二番坑道ニ七馬力半ノ捲揚機一基ヲ設ケ排水用トシテ十二番坑道五馬力ブランムジャープンプ、十三番坑道ニ三馬力「タービンポンプ」各一基ヲ、ヲ設備シ更ニ選鑛場ニハ粉鑛採收ノ目的ヲ以テ「ウ

井ルフレール」汰盤二基ヲ新設セリ

伊豫山 金銀銅硫化鐵 愛媛縣宇摩郡土居村外一 新居田重太郎

前年來ノ繼續作業タル通洞以下鑿押掘下ハ延長三百尺ニ達シ鑿況依然良好ナルヲ以テ深サ二百尺及三百尺ノ點ヨリ二番坑及三番坑ヲ開鑿シ前者ハ東延三百二十五尺後者ハ東延百尺ヲ掘進セリ、又坑外ニ於テハ精鑿ノ品位上昇ノ目的ニテ本年末機械選鑿場ヲ開設シ「ハルツ」式「デツカー」二基及「ウヰルフレールテーブル」一基ヲ設置シタリ

別子山 金銀銅硫化鐵 愛媛縣宇摩郡別子山村外二 住友別子礦山株式會社

前年度ヨリ引續キ作業中ノ東二號斜坑ノ開鑿ハ殘部百三十尺ノ切上リ並ニ鐵支柱ノ構築ヲ了シ略完成セルヲ以テ本年度ニ於テハ軌條ノ敷設機械ノ据付ケ工事ニ着手セリ

開鑿ニハ別子式「ストーバー」ヲ使用シソノ大サ七尺×一〇尺、年末現在延長千八百八十尺ナリ

本年一月ヨリ十四番坑道ノ採鑿準備ヲ兼テ運搬ニ資センカ爲メ鑿床ノ下盤約三十尺ノ位置ニ鑿床ニ併行シテ延長二千四百尺ノ下盤坑道ノ開鑿ニ着手セリ、別子式鑿岩機及「タープロ」鑿岩機ヲ使用シソノ大サ八尺×八尺年末現在延長七百五十四尺ナリ

現在箕津坑第一斜坑ハ五番坑道以下ノ運搬ヲ良好ナラシムル爲メ新ニ五番坑道東八號ヨリ九番坑道準備ニ達スル下盤斜坑ヲ開設シ容量一噸ノ複動「スキップ」ヲ運轉セントスル計畫ノ下ニ第二斜坑(大サ五尺×十尺)ノ開鑿ニ着手シ本年度内ニ於テ「シープ室」ノ切上リ、運搬坑道ノ立入、機械室、鑿石庫等ノ開鑿ヲ了シタリ

新居濱選鑿場ノ浮游選鑿尾鑿處理ハ從來索道ニ依リテ東谷堆積場ニ運搬拋棄セシモ本年八月ヨリ「パイプ」流送ニ依リテ工場附近ノ田面埋立ヲナスコトニ變更シ左記設備ヲ新設セリ

尾鑿取入槽

長二〇尺 幅一〇尺 高一〇尺

廢石流送用

廢石餘水排除用

一五〇馬力「ウヰルフレール」式「セントフューガルサンドポンプ」二
三〇馬力「ウヰルフレール」式「セントフューガルサンドポンプ」二

新居濱選鑿場元鑿運搬用ベルトコンベヤーノ西隣ニ容量一萬一千五百噸ノ貯鑿場並附屬運搬裝置ヲ増設セリ、ソノ主ナルモノ次ノ如シ

一、貯鑿場

間口七九尺、奥行二〇八尺、高五五尺鑿煉瓦張

一、「ベルトコンベヤー」及原動機ノ種類實馬力

名	稱	ベルト幅	長	サ	原動機種類	馬力	備	考
二十一號	ベルトコンベヤー	三〇吋	四六・八	誘導	三相交流機	一〇		
二十號	同	同	一六六・六	同	同	二〇	自動往復トリツパー附	
二十三號	「ドラム」式給鑿機共用	同	一七四・三	同	同	二〇		
二十四號	同	同	八七・六	同	同	一〇		

四坂島製煉所ニ於テハ昨年來昨業中ナリシ「ペタルゼン」式硫酸製造試驗設備ハソノ成績良好ナリシヲ以テ本設備ニ改メ燒結爐全瓦斯ヲ該法ニ依リテ處理スルコト、ナリ本年六月完成シ又既設燒結爐ニ隣接シテ同型、同大ノ燒結爐一基ノ増設ニ着手シ年末ニハ大部分完了セリ、前年ヨリ繼續セル含銅硫化鐵燒滓ノ濕式製煉ハ本年度ニ入りテ改良擴張ヲ行フト同時ニ浸出ニ依ル富銅液ノ電氣分解試驗裝置並ニ產出紫鑿ノ製鐵試驗設備ヲモ新設シテ一層研究ヲ進ムルコト、シ

本年二月起工シ十月完成セリ、電鍍増産ノ爲メ左ノ通設備ヲ擴張セリ

電解槽 一 一個増設大サ(内法長八尺、幅四尺、三・三尺)

發電機 一 臺増設 (一一・二五〇馬力)

反射爐一號及二號ヲ改造シ能力ヲ四十吨ニ増加セシム

ソノ結果取扱粗銅量及産出量左ノ如ク増大セリ

一ヶ月間取扱元銅量

含金銀粗銅 一五四二吨

一ヶ月間製品産出量

電氣銅 一五〇〇吨

金銀塊 二・六二五吨

四坂島製鍊所硫酸運搬ノ爲メ汽船一隻ヲ新造シ帆船四隻ヲ改造シテ配置セリ

鑛業専用軌道ヲ地方鐵道ニ變更シ十一月五日ヨリ鑛山用貨物並ニ一般荷客ノ運輸營業ヲ開始セリ

所要電力ノ増加ニ伴ヒ既設送電海底電纜ノ容量ニ不足ヲ告グルニ至リタルヲ以テ土佐吉野川水力電氣株式會社ヲシテ更

ニ前同大ノモノ一條ヲ増設セシメ既設四百「キログオルトアンペヤ」變壓機四基ヲ一千「キログオルトアンペヤ」ニ

代替ヘタリ

將來ノ計畫トシテハ本山十五番坑準ヨリ下底ノ探鑛準備トシテ十四番新斜坑ノ開鑿ニ着手スル豫定ナリ

從來坑内ノ操業ハ運搬ヲ除キテハ原則トシテ一方操業制ナリシヲ明年度ニ於テハ坑内外作業全般ニ亘リテ一方操業ニ改

善セントスルモノニシテ目下電車臺數(大型)ノ増加及十四番下盤坑道ノ開鑿ソノ他運搬系統ノ改善ニツキ計畫中ナリ
其他計畫ノ主ナルモノハ餘慶坑輕便捲揚斜坑ノ開鑿、製鍊方面ニ於ケル「ベテルゼン」式硫酸製造設備ノ増設、試料工場
設備ノ擴張、微粉炭吹込用壓搾機新設、硫酸冷却用唧筒増設及燒結爐、點火用重油貯藏槽改良工事等ナリ
基安鑛山 銅硫化鐵 愛媛縣新居郡加茂村外一 弘發殖産株式會社
從來探鑛ノミヲナシ探鑛準備中ノ處途ニ本年四月ヨリ探鑛ヲ開始シ一ヶ月精鑛十二萬貫(品位四%)ヲ産出スルニ至リ
之カ運搬用トシテ左記架空索道ヲ新設セリ

自動鐵索 延長二、三〇〇尺 積載量二五貫 一線

同 同 二、五〇〇尺 同 三〇貫 一線

同 同 二、二〇〇尺 同 三〇貫 一線

二宮式「クリップ」單線架空索道延長 一、二、六〇〇尺 一線

最大運搬量 一噸時 原動機三相交流電動機 三〇馬力 一臺

出石鑛山 銅硫化鐵 愛媛縣喜多郡大和村外三 三愛鑛業株式會社

本年二月ヨリ上神鑛床ノ開發ニ着手シ第三大切坑ニ於テ前鑛主時代ニ鑛床ニ逢着後休止狀態ニアリシヲ取明ケ續イテ鑛
押返掘リヲ行ヒ探鑛ノ結果鑛帶ノ幅員約二百尺厚平均二尺品位銅三〇%硫黃四三%ニシテ鑛況良好ナリシヲ以テ更ニ十
月ヨリ同坑道準以下ノ開鑿ノ目的ニテ傾斜三十度幅三米高一・五米豫定延長三百米ノ斜坑開鑿ニ着手シ年末迄ニ約二十
米ヲ掘進セリ、完成ノ晩ニハ七馬力半單脚捲揚機ヲ据付クル豫定ナリ

出石鑛床ニ於テハ本年七月ヨリ三番坑準ヨリ下底探鑛中ナルモ斷層ノ影響ヲ受ケテ著シク錯綜セルタメ未タ確タル端緒

ヲ得ルニ至ラス
本春電氣探鑛法實施ノ結果有望視セラレタル郷ノ峠坑西部方面ニ本年七月ヨリ三箇所上總掘試鑛ヲ開始シ目下繼續中ナリ

開鑿ニハ鑿岩機使用ノ目的ニテ上神坑外ニ「サリバンWG六型」七十五馬力壓氣機一臺出石三番坑外ニ別子式九番型二十五馬力壓氣機二臺ヲ新設シ左記鑿岩機ヲ購入セリ

- デンバーモデル七型 一
- インガールN七二型 二
- 同S四九チャックハンマー 一
- 同DCRW二三番チャックハンマー 二
- 足尾式一二番番ストーパー 一
- インガールCC一一番ストーパー 一
- 足尾式一一番ドリル 二
- タツガーホイスト 二

運搬ニ於テハ上神三番坑ト出石三番坑選鑛場トノ間ニ十二封度單線軌條ヲ新設シ上神坑外ニ鑛舎ヲ設置セリ
選鑛ニテハ出石三番坑手選鑛場ヲ粉鑛處理ノ目的ニテ機械選鑛場ニ改メ左記設備ヲ増設セリ

- 五馬力電動機 一
- 給 鑛 機 一

二 重 圓 篩
淘 汰 器 (二區劃)
手 運 帶

精鑛運搬トシテ本山ヨリ出海村海岸迄架設セル玉村式單線架空索道ハ腐朽セルヲ以テ各「ポスト」ノ再築及「ロープ」ノ新規取替ヘ等大修理ヲ施シ出海海岸ニ鑛舎三箇増築セリ
原動力トシテ伊豫鐵道電氣株式會社ヨリ電力巨「キロワット」ヲ購入セリ、除害施設トシテハ新ニ沈澱池三個、濾過池二箇ヲ増設セリ、此ノ外上神坑水ヲ出石三番坑水ト合流セシムル爲土管四百二十五間ヲ埋設セリ
將來ノ計畫トシテハ既知出石、上神、郷ノ峠ノ諸鑛床ノ分布狀態ヲ探査スルト共ニ舊坑及露頭ノ探鑛ヲ進メ明年度ヨリハ相當増産ノ豫定ナリ

白 灘 鑛 山 銅 硫 化 鐵 高知縣土佐郡大川村外ニ 日本鑛業株式會社

九番坑以下ノ探鑛及運搬ヲ目的トシ横一・八米縦二・八米ノ大サヲ以テ前年來開鑿中ナリシ九番坑第一堅坑ハ本年三月豫定ノ通り深五十米ニ達シテ工事完成シ又前記ノ目的ヲ以テ開鑿スヘキ豫定ナリシ大サ横一・五米縦四米深七十米ノ九番坑第二堅坑ハ本年一月開鑿ニ着手シ掘下用十馬力電氣單胴捲揚機ヲ設置シBCRW四三〇番鑿岩機ヲ以テ掘鑿ヲ續ケ年末其延長六十六米ニ達シタリ
尙又探鑛並ニ選鑛能力ノ増大ヲ圖リ朝谷坑及大川坑ニ「サリバン」WG六型各一臺及L七四番「ドリフター」六臺並ニ移動式五馬力電氣單胴捲揚機二臺ヲ増設シテ大ニ探鑛ヲ進メ本山選鑛場ニ左記設備ヲ増設シテ著シク片刃鑛、粒粉鑛及泥鑛ノ處理ヲ増加セリ

及九百尺坑道ニテハ何レモ百六十五米ニ達ス、而シテ幅員平均三米品位十萬分ノ一乃至一・五ナリ
二號鑛方面ニ於テハ坑口地並ヨリ下底百九十五米迄富鑛體ヲ探掘シ其以下ハ之亦悲觀ナレタルカ之ヲ八百尺地並ニテ開
坑シタル結果該富鑛部ノ直下部ハ却テ優勢ナルコト判明シ延長六十米平均幅一米餘品位上層制約〇・三米ハ萬分代ノ處
多ク平均十萬分ノ三ナリ

堅坑ハ第二堅坑ニ於テ五百尺坑道ヨリ八百尺坑道迄九十米掘下ケ第三堅坑ニ於テ八百尺坑道ヨリ九百尺坑道迄三十米掘
下ケタリ、之ニ伴ヒ八百尺九百尺坑道間ノ排水用ノ爲メ臨時ニ當山持合セノ横置型「セントリフニューガルポンプ」四十
馬力二臺及同型「タービンポンプ」五十馬力一臺ヲ九百尺地並ニ据付ケタリ

探掘ニ於テハ探掘ノ大部分ヲ「シユリンケージ」法トシ從來探掘ニ「ハンマー」ヲ使用セシヲ全部「ストーパー」ニ改
メタリ

鑿岩機ハ「インガールランド」製C A三一番「ストーパー」五臺、同製C C一一番「ストーパー」四臺、同製N七五番
「ドリフター」四臺ヲ増設セリ

●●●●● 橫峰鑛山 銅 宮崎縣東臼杵郡北方村一郡一村 三菱礦業株式會社

前年度ノ日ヶ暮五號鑛層ノ下部探掘ヲ繼續シ本年度ニ於テ七坑道中段ヲ開鑿シ常ニ脈幅〇・三米乃至一・二米品位五%乃
至六%ニテ頗ル良好ヲ示シタルモ遂ニ一大斷層ニ會セリ、該斷層ハ大正十四年度目下ノ最下層ニ位スル波歸鑛層群ヲ斷
チタルモノト同一斷層ニシテ此カ種先探掘ニ主力ヲ兼中シ八月漸ク斷層先ヲ捕エタリ、而シテ斷層先開發方法トシテ先
ツ最下部七坑道中段ヨリ前記鑛層ノ下部及日ヶ暮鑛層群ヲ捕ヘタ日下鑿岩機ニテ掘進中ニシテ既ニ波歸鑛層群ヲ捕エ
尙ホ日ヶ暮鑛層群ニ向ツテ掘進中ナリ

壓氣機及鑿岩機ハ「インガール」製X C B型百二十五馬力壓氣機一臺及「インガール」製L七四番鑿岩機九臺ヲ増
設セリ

從來熔鑛爐流鑛ハ「ゼットポンプ」ニテ鑛鑛舍ニ揚ケタルモ用水節約並ニ處理量ノ増加ヲ圖ル爲メ幅三十六時長百二十
二呎ノ「ドラツグベルト」ニ改メタリ

又探掘、選鑛並製鍊ノ研及鑛ノ運搬ニ使用セル從來ノ鐵索ハ老朽ニシテ能力不充分トナリシ爲メ機構ヲ改善シ能力増進
ヲ計リ且ツ捨場ノ將來ヲ考慮シ線路ヲ變更シ搬器ノ容量四分ノ一噸一時間運搬量三十噸線路ノ亘長二千三百三十九呎所
要馬力五十ノ玉村式單線運送索道ヲ新設シ年末工事ヲ竣成セリ

尙ホ事業擴張ニ伴ヒ既設第三發電所ヲ擴張シ出力二百「キロワット」(水力)ヲ増加セリ
而シテ本年度ハ主鑛體ノ探掘殆ト完了シ探掘ヲ開始セル爲メ増産セリ

●●●●● 見立鑛山 錫 宮崎縣西臼杵郡岩戸村 東洋鑛山株式會社

五百五十呎立入ニ於テ延長約二百六十呎平均幅五尺酸化錫一・五六%及八百尺ノ地點ニ於テ延長百八十呎平均幅三・二尺
酸化錫一・八四%ノ富鑛體ヲ確メタリ

鑿岩機ハ「クライマツクス」C「ハンマー」六臺、同「ハンマー」二臺、「バルプレスストーパー」六臺ヲ新ニ使
用シ探掘方法ハ上部酸化帶鑛床ニ充填式「スクエアセット」法ヲ採用セリ

選鑛場迄ノ輸送用トシテ「ブライヘルト」複線式架空索道七十五馬力延長五千九百三十尺運搬量一時間十五噸ヲ設置セ
リ

從來處理量一日約五十噸ノ機械選鑛場ヲ一日約二百噸處理ノ機械選鑛場ニ擴張セリ、其概要ハ架空索道ニ依リ搬入セル

粗鑛ヲ碎鑛機ニテ碎キ「ボールミル」ニ送リテ粉砕シ「スクリーン」ヲ通シテ粉鑛ハ浮游選鑛ニテ分級シ、粗鑛ハ「ボールミル」ニ返シ浮游選鑛ノ鑛滓ハ鑛滓堆積場ニ搬捨ス、再粉鑛ハ汰盤ニ依リテ精鑛、中鑛、洋鑛ノ三種ニ選別シ精鑛ハ磁力分級機ニ依テ精選乾燥セシメテ酸化錫トナシ、中鑛ハ焙燒爐ニ送リテ不純物ヲ除去シ汰盤ニテ再選精鑛トナシ前記ノ行程ヲ經テ酸化錫トナシ、鑛滓ハ水分ヲ除去シ架空索道ニテ堆積場ニ搬捨スルモノナリ、而シテ二六呎×一七呎×一三呎鋼鐵粗鑛用貯鑛舍容量四百噸一個、四〇吋×一六吋「ブレイキ」ジョウクラツシャ「一臺、一四吋×四〇吋「ベルトコンベヤー」一臺、一二吋×四〇吋同一臺、一二吋×五二吋同一臺、四二吋×二〇吋「ロール」一臺、四四吋×一五呎×一二呎破碎鑛用貯鑛舍容量四百噸一個、七呎×三呎「ハーブインジボールミル」二臺、二四吋×三六呎傾斜三〇度「ドラッグコンベヤー」一臺、四呎（六十目）「ハンマー」バイブレーターイングスクリーン」四臺、徑八呎濃密「コーン」一臺、「フオレスタター」フローテーションセル」長サ一二呎一臺、「ジエーム」スクリーン」汰盤「サンド」用一六臺、「スライム」用一二臺、八吋×四四吋「パケットエレベーター」一臺、四呎六吋×一六吋二聯式「デア」分級機一臺、一二吋×四〇吋「ベルトコンベヤー」一臺、五〇呎×一〇呎「エドワード」焙燒爐一基、一二吋×四五吋「ブレッツ」シュプレット、コンベヤー」一臺、「パケットエレベーター」(チエーン)能力一日五十五噸一臺、貯鑛舍五百立方呎一個、徑三〇吋「テーブル」給鑛機二臺、「グライディングパン」直徑五呎一臺ヲ設置セリ

春日鑛山 金銀 鹿兒島縣川邊郡枕崎町外一村 日本鑛業株式會社

前鑛業權者林鑛業株式會社ヨリ本年五月事業引繼キ以來鑛夫ヲ増員シ一部分手掘探鑛ヲ機械掘ニ變更シタル爲メ増産セリ、第三坑下中段地並及東上層ニ於テ延長四十米、幅四米合金品位十萬分ノ二・五ノ鑛床ニ會セリ、而シテ壓氣機SLM回轉式四十八馬力一臺、鑿岩機「インガートソルランド」DORW二三番「ハンマー」二臺及同CA三番「ストロバ

一 一臺ヲ新設セリ
石炭山

石狩國夕張郡夕張町 北海道炭礦汽船株式會社

天龍坑ハ坑内發展著シク稼行區域ハ深クナリタルヲ以テ同坑東斜坑口ノ北西六十尺ノ箇所本層下層中ニ東斜坑人車卸ヲ開坑シ人車捲揚機ヲ新設セリ、該卸ハ加脊一〇尺×九尺、延長一千四百十三尺、平均傾斜二十二度ナリ、捲揚機ハ從來ノ蒸汽捲揚機(二百馬力)ヲ使用ス、尙天龍坑並ニ其他各坑トモ坑内發展シテ坑内運搬力ノ増加ヲ必要トシ電氣捲揚機十二臺(一〇馬力二臺、三〇馬力一臺、三五馬力三臺、四〇馬力一臺、五〇馬力四臺、六〇馬力一臺)蒸汽捲揚機二臺(二〇馬力一臺、三〇馬力一臺)計十四臺ヲ新設又ハ増設シ且テ既設電氣捲揚機四臺ノ改設ヲ行ヒ、又最上坑ニ於テハ「チャンピオン」式扇風機一臺(風量一五、〇〇〇立方尺)ヲ増設シテ坑内通氣ノ改善ヲ行ヒタリ、坑外ニ於テモ坑内ノ發展ニ伴ヒ電氣循環機一臺(五〇馬力、延長四二〇米)ヲ新設セル外、捨石運搬用トシテ選炭場併捨場間ニ玉村式單線架空索道(五〇馬力、延長三〇九米、運搬量毎時六〇噸)一臺ヲ新設セリ

新夕張炭礦 石狩國夕張郡夕張町 北海道炭礦汽船株式會社

昭和二年八月掘進ニ着手セル松島坑左風道ハ三月完成シ新設扇風機(オーラス式、二〇〇馬力、風量二二〇、〇〇〇立方尺)ノ運轉ヲ開始セリ、新夕張炭礦ニ於テハ探炭方法ヲ全部長壁式ニ改メ六尺層、八尺層及十尺層ノ三層ヲ二回又ハ三回ニ探炭シツツアリ、依之坑内運搬力ノ増加又ハ改善ヲ必要トスルニ至リ電氣捲揚機七臺(一〇馬力一臺、一五馬力一臺、二〇馬力四臺、三五馬力一臺)ノ増設及九臺(總馬力三〇五馬力)ノ改設ヲ行ヒタリ、又若菜邊礦ニ於テモ坑内運搬用トシテ電氣捲揚機三臺(一五馬力二臺、三五馬力一臺)ノ増設及二臺(總馬力九〇馬力)ノ改設ヲ行ヒタリ

眞谷地炭礦 石狩國夕張郡夕張町 北海道炭礦汽船株式會社

坑内ノ發展ニ主力ヲ注キ坑内運搬用トシテ電氣捲揚機六臺(四〇馬力一臺、三五馬力一臺、三〇馬力二臺、一五馬力二臺)ノ増設並ニ桂坑電氣捲揚機ノ改設(三〇馬力ヲ八〇馬力ニ變更)ヲナセリ

六月榑坑ニ小松坑(四尺層)ノ開坑ヲナシ目下七百五十尺ヲ掘進セリ、坑口ヨリ約二千五百尺ノ地點ニテ堅入坑道ヲ開鑿シ榑坑ニ連絡セシムル豫定ナリ、坑外ニ於テハ坑内ノ發展ニヨリ既設五十馬力電氣捲揚機ヲ六〇馬力ニ變更シテ其ノ運搬力ノ増加ヲ計リ又選炭用及充填用唧筒一臺(タービン八五馬力)ノ増設ヲナシタリ

登川炭礦 石狩國夕張郡夕張町 北海道炭礦汽船株式會社

前年ヨリ掘進ヲ開始セル奥澤坑立入及此立入ニ連絡スヘキ奥澤坑坑ハ着々掘進ヲ進メ十一月工事完成セリ、前者ハ水平坑道ニシテ延長四千八百五十尺、後者ハ傾斜二十二度ニシテ延長一千百尺ナリ、是等ノ坑内發展ニ備フル爲メ鑿岩機用トシテ壓氣機二臺(インガールソランド會社製四〇馬力、服部製五〇馬力)、坑内電氣捲揚機三臺(一〇馬力)、電氣機關車四臺(架空線三噸車)ヲ増設セリ、尙充填用トシテ唧筒(タービン一二五馬力)一臺ヲ新設セリ

萬字炭礦 石狩國空知郡深澤村 北海道炭礦汽船株式會社

専ラ坑内ノ發展ニ努メタル結果坑内運搬用トシテ電氣捲揚機四臺(三五馬力一臺、五〇馬力二臺、六〇馬力一臺)ノ増設及一臺(六〇馬力)ノ改設ヲ行ヒ又排水用唧筒ノ改設(從來ノ八五馬力及一二馬力ノ二臺ヲ一二五馬力タービン唧筒ニ變更)及増設(タービン唧筒一二馬力一臺)ヲ行ヒタリ、坑外ニ於テモ坑内ノ發展ニヨリ電氣捲揚機一臺(一〇馬力)ヲ増設シ選炭場ニハ粉炭用トシテ吹上樋流式水洗機一臺、「エレベーター」四臺、「コンベヤー」一臺ヲ増設セリ

空知炭礦 石狩國空知郡歌志內村 北海道炭礦汽船株式會社

坑内ノ發展ハ通氣量ノ増加坑内運搬力ノ増加ヲ促シ、扇風機二臺(チャンピオン式五〇馬力風量四〇、〇〇〇立方尺及風量五〇、〇〇〇立方尺)ノ増設ヲナシ坑内通氣ノ改善ヲ行ヒ又電氣捲揚機一臺(五〇馬力)ノ増設及一臺(從來ノ三〇馬力ヲ五〇馬力ニ變更)ノ改設ヲ行ヒタリ

尙鐵夫浴場用トシテ直立型汽罐一基ヲ新設セリ

幌內炭礦 石狩國空知郡三笠山村 北海道炭礦汽船株式會社

布引堅坑及養老坑ノ坑内發展ニ努メ探炭法ハ長壁式トシテ能率増進ニ主力ヲ注キ出炭額三十五萬六千八百噸トナリ前年ニ比シ六萬九千三百噸ヲ増加セリ、此ノ發展ニヨリ坑内運搬用トシテ電氣捲揚機二臺(三五馬力)ノ増設及一臺(從來ノ三〇馬力ヲ八〇馬力ニ變更)ノ改設ヲナシ且ツ電氣機關車二臺(單線架空式四噸車)ノ増設ヲナシタリ又養老坑ニ「シロツコ」式扇風機一臺(五〇馬力四〇、〇〇〇立方尺)ヲ増設セリ、尙既設二〇〇馬力壓氣機ヲ二五〇馬力(インガールソランド會社XOB二型)ニ變更セリ

幾春別炭礦 石狩國空知郡三笠山村 北海道炭礦汽船株式會社

掘進探炭ノ能率増進ニ努メ鑿岩機用トシテ壓氣機一臺(インガールソランド製八〇馬力)ヲ増設セリ、又選炭場ニ洗炭用トシテ唧筒(タービン六〇馬力)一臺ヲ増設セリ

三菱美唄炭礦 石狩國空知郡美唄町 三菱礦業株式會社

探鑿ハ美唄川北二ノ澤上流附近ヨリ奔別越三角點附近ニ至ル間ノ露頭調査ヲ行ヒ本層ヨリ下部二千尺迄ニ存スル下層炭中將來採行ノ見込アルモノ數層ヲ確定セリ、前年三月開坑セル第二坑部内下層立入水平坑道ハ坑口ヨリ延長三百八十三間ニテ下六番層ニ着炭シ目下沿層坑道ヲ掘進探炭中ナリ

採炭掘進ニハ機械力ヲ利用スルコトニ努メ居リ本年度ニ於テハ截炭機及鑿岩機三十臺(サリバン會社製截炭機四臺、フ
ロットマン會社製同六臺、シーメンズ會社製鑿岩機一〇臺、インガールランド會社製同五臺、ムードン會社製同五臺)
ヲ増設シ、又坑内運搬用トシテ電氣捲揚機四臺(一〇〇馬力一臺、五〇馬力三臺)排水用トシテ唧筒二臺(スリースロ
ー一〇馬力)ヲ設置セリ

坑内ノ發展ニ伴ヒ通氣量増加ノ爲メ堅坑ニ「ラトウ」式扇風機一臺(三五〇馬力風量二二〇、〇〇〇立方尺)ヲ増設シ又
第三坑ニ「シロツコ」式扇風機一臺(一五〇馬力風量一五〇、〇〇〇立方尺)ヲ増設中ナリ

三、菱別炭礦 石狩國空知郡置別村 三菱礦業株式會社

三號澤卸部及六號澤卸部探礦ノ爲メ前者ハ蒸汽捲揚機ヲ設置シ後者ハ十號澤口ニ百馬力電氣捲揚機ヲ設置シテ卸掘進ヲ
開始セリ、尙前年着手セル第二坑本層左捲卸方面ノ採炭及第五坑深部探炭ハ地層ノ變動甚シキニヨリ共ニ中止セリ
採炭掘進ニハ機械力用ヒ居リシカ本年度ハ截炭機及鑿岩機十臺(サリバン會社製截炭機一臺、フロットマン會社製同二
臺、インガールランド會社製鑿岩機五臺、シーメンズ會社製同二臺)ヲ増設セリ、又坑内運搬用トシテ電氣捲揚機二
臺(二〇馬力一臺、五〇馬力一臺)ヲ設置シ且ツ第二坑既設一五〇馬力電氣捲揚機ヲ三〇〇馬力ニ改設セリ
尙排水用トシテ四十馬力「タービン」唧筒一臺ヲ新設セリ

大夕張炭礦 石狩國夕張郡夕張町 三菱礦業株式會社

加南榮坑本卸左五片ニ設置セル五十馬力電氣捲揚機一臺ヲ同右片ニ移設シ又若葉坑七片ニ設置セル排水用唧筒ヲ加南榮坑本
卸左九片ニ移設シ坑内水全部ヲ之ニヨリ直接水平「エンドレス」坑道マデ揚水シテ坑外ニ排除スルコトトセリ

大夕張新坑 石狩國夕張郡夕張町 三菱礦業株式會社

昭和二年擴張ニ着手セル諸工事が着々進捗シ居リ先ヅ大夕張炭礦新坑道洞口間約六哩ノ鐵道ハ春季完成シ六月一日ヨリ
運轉ヲ開始セリ

前年來掘進中ノ通洞坑ハ其連延、第一斜坑ヨリノ向掘ト五月貫通シ直ニ追切保坑等ヲナシ六月中旬ヨリ第一斜坑ノ運搬
坑道トナシ蓄電車ノ運轉ヲ開始セリ、本延ハ延長一、九二二米ノ掘進ヲ了セルガ一時中止シ目下其追切保坑ニ努メ居レ
リ

第一斜坑ノ採炭準備ハ着々進ミ南片斡方面ハ五年度初メヨリ採炭開始ノ豫定ナリ、又新設ノ扇風機一臺(シロツコ型一
五〇馬力風量一五萬立方尺)ハ完成シ運轉ヲ開始シ尙坑内主要捲揚機トシテ同坑外ニ三百馬力電氣捲揚機一臺ヲ新設セ
リ

第二斜坑ノ掘進ハ年末マデニ延長約六九〇米ニ達シ坑口ニ一〇馬力電氣捲揚機一臺、扇風機一臺(シロツコ型五〇馬
力風量五萬立方尺)ヲ新設セリ

本坑内ニハ保安上蓄電車及電話以外ニハ電氣ヲ動力トスル機械類ヲ使用セサル方針ニシテ採炭掘進ハ全部壓氣動ノ截炭
機及鑿岩機ヲ利用シ本年度ハ三十六臺(フロットマン會社製截炭機五臺、デンバー會社製鑿岩機六臺、インガールラ
ンド會社製同二四臺)ヲ増設シ且ツ是等機械及壓氣捲揚機用動力トシテ五百馬力電氣捲揚機一臺ヲ増設セリ、又坑内設置捲
揚機トシテ「リットルトタツガー」四臺、排水用トシテ壓氣動「スベシアル」唧筒二臺ヲ設置シ蓄電車ハ五臺ヲ新設セリ
第一斜坑口ノ北方約三百七十間西常盤澤ニ於テ露天掘ヲ行フ爲メ年初ヨリ表土除去ヲナシ秋季ヨリ出炭ヲ見ルニ至レリ
此ノ石炭輸送ノ爲メ玉村式單線架空索道(延長一・三哩運搬量最大毎時二〇〇噸)ヲ増設セリ

運炭場ハ五月竣工シ「ジシマ」式運炭機一臺、共益社式水洗機二臺ヲ運轉シ居レリ、尙鍛冶工場、仕上工場、電機修繕工場、用度品倉庫、電氣機關車庫、鑛業事務所、更衣所各一棟、鑛夫住宅三八棟（一棟八戸棟）、鑛夫合宿一棟、職員住宅三十棟（五八戸）、職員合宿一棟、鑛夫集會所一棟ヲ建設セリ、運炭場、事務所等ノ暖房用トシテ水管式汽鍋二基ヲ設置セリ

三井美唄炭礦 石狩國空知郡美唄町 三井礦山株式会社

坑外運搬ハ無極鋼索軌道ニ依ルモ出炭ノ増加ニ從ヒ其ノ運搬能力不足スルニ至レルヲ以テ是ヲ電車運搬ニ改メ且ツ排水及通氣方法ヲ改善センカ爲メ美唄町一ノ澤ニ立入水平坑道（奥澤通洞）ヲ開坑セリ、延長二千四百米ニシテ第一坑及第二坑ノ略中央點ニテ現稼行炭層（中層群五番層及三番層）ニ到着スル見込ナリ、此通洞ハ本延及連延ノ二坑道ヨリナリ中心間隔十米、大サハ本延留内高サ二・四二米幅二・六三六米、連延留内高サ二・四二米幅一・九七米ニシテ目下九百四十二米ヲ掘進セリ、上層群三番層ニ第三坑横坑ヲ開坑セリ、從來採炭及掘進共ニ手掘ナリシヲ機械掘ニ改メ且ツ切端運搬モ機械力ヲ用フルコトトナシ「サリバン」會社製炭機七臺、インガールランド會社製鑿岩機二十五臺及壓氣機三臺（サリバン會社製二臺、シカゴニューマチック會社製一臺）ヲ新設シ又坑内運搬用トシテ小型曳揚機（六・五馬力可搬式）六臺、切端運搬機チェンコンベヤー九臺ヲ新設シ尙既設蒸汽捲揚機ヲ百馬力電氣捲揚機ニ改設セリ

三井砂川炭礦 石狩國空知郡砂川町 三井礦山株式会社

坑内ノ發展ニ努メ壓氣機三臺（ブランゼ會社製一臺、インガールランド會社製二臺）、截炭機四臺（サリバン會社）、鑿岩機二十三臺（インガールランド會社製六臺、三池製作所製一七臺）、坑内運搬用トシテ電氣捲揚機八臺（二〇〇馬力一臺、六・五馬力小型七臺）ヲ増設セリ、坑内ノ發展ニ伴ヒ第三坑ニ於テハ通氣改善ノ爲メ扇風機一臺（シロコ型一・二〇馬力、風量三、〇〇〇立方尺）ヲ新設シ、又排水用トシテ唧筒八臺（電動タービン六臺、電動ブランチヤー二臺）ヲ増加セリ

茂尻炭礦 石狩國空知郡茂尻村 大倉礦業株式会社

坑内外ノ發展ニ努メ各坑トモ坑内斜坑ノ新開鑿或ハ既設斜坑ノ卸掘進ヲ行ヒ且ツ鑿岩機三臺ヲ増設シ、坑内運搬用トシテ電氣機關車二臺（架空線式四噸車）ヲ新設セリ、又排水用トシテ電動タービン唧筒三臺ヲ新設セリ

坑外ニ於テハ坑内ノ發展ニ伴ヒ從來ノ馬匹運搬ヲ電車ニ變更シ電氣機關車三臺（架空線式六噸車）ヲ新設セリ

尙鑛夫住宅三棟（一棟一〇月）、役員住宅四棟（一〇月分）、鑛夫浴場一棟（約三二坪）、社宅浴場一棟（二三坪）ヲ増築セリ

歌志内炭礦 石狩國空知郡歌志内村 住友炭礦株式会社

事業ノ發展ニ努メ壓氣機一臺（ベンシルパニヤ會社製一〇馬力）、鑿岩機七臺（デンパー會社製五臺、シートメンス會社製二臺）ヲ新設又ハ増設シテ採炭掘進ノ能率増進ヲ企テ、又第一斜坑廢水用トシテ唧筒二臺（タービン一臺、スローロー一臺）ヲ新設セリ

坑外ニ於テハ運炭場、積込場間百六十間ニ無極鋼索軌道（原動力蒸氣五〇馬力）ヲ新ニ設置シ、坑内ノ發展ニ備フル爲

彌生炭礦 石狩國空知郡三笠山村 東邦炭礦株式會社

坑内ノ發展ニ主力ヲ注キ現稼行炭層ナルニ番層及三番層ノ下層炭探鑛ノ目的ヲ以テ通洞立入坑々内ヨリ水平立入ヲ掘進シ二十七間ニテ四番層(厚サ一尺二寸)ニ着炭、尙掘進スルコト五十一間ニシテ五番層(厚サ二尺二寸強)ニ着炭シ目下同層ノ探鑛並ニ將來ノ通氣ノ目的ニテ同層内ニ昇ヲ掘進中ナリ

探炭法ハ從來柱房式ナリシヲ漸次長壁式ニ改良スルコトシ先ツ三片、四片ヲ全部長壁式トナシタリ、又探炭掘進用トシテ泉式鑿岩機三臺ヲ増設シテ能率向上ニ努ムルト共ニ局部扇風機四臺(シロツコ型風量一、五〇〇立方尺三臺、泉式風量一、〇〇〇立方尺一臺)ヲ増設シテ局部通氣ノ改善ヲ行ヘリ

春探炭礦 鐵道國鐵路市 太平洋炭礦株式會社

第一坑ハ坑内ノ發展ニ伴ヒ通氣改善ノ爲メ延長約一千尺傾斜三十度ノ斜坑開鑿ニ着手セリ、加脊ノ大サハ高七尺幅十二尺ニシテ現在ノ第一坑管卸下部(右十一片下約六千尺ノ地點)ト地表トヲ連絡セシムル目的ナリ、右斜坑及第一坑用トシテ壓氣機二臺(三池製作所製一臺、インガールランド會社製一臺)、「インガールランド」會社製鑿岩機一臺、局部扇風機一臺(シユロツター風量三、〇〇〇立方尺)ヲ増設シ、又坑内運搬用トシテ電氣捲揚機一臺ヲ第二坑ヨリ移設シ且ツ切端「コンベヤー」一臺ヲ新設セリ、尙前記新開鑿ノ斜坑排水用トシテ「ブランチャー」唧筒一臺ヲ二坑ヨリ移設セリ工場ニ「ピットシャープナー」及「ドリルスチールシャープナー」各一臺ヲ新設セリ、礦夫社宅十四棟(一棟六月)ヲ増築セリ

別保炭礦 鐵道國鐵路市 太平洋炭礦株式會社

第一坑ニ「フロットマン」會社製壓氣機一臺、切端「コンベヤー」一臺ヲ新設シ第二臺ニ切端「コンベヤー」二臺ヲ新設シ、

既設五十馬力壓氣機ヲ二十五馬力ニ變更セリ

機械運炭場ノ新設ヲナシ能力毎時三十噸ノ乾式運炭機一式ヲ増設シ且ツ「ヂツカー」式水運機一臺(能力毎時二十噸)ヲ新設セリ

雄別炭礦 鐵道國阿寒郡古平村 雄別炭礦株式會社

大祥内斜坑ノ掘進ハ着々進捗シ坑口ヨリ三百六十五間ニ達シ目下十一片磐坑道掘進中ナリ、本坑方面ノ第二斜坑ハ三百馬力電氣捲揚機一臺完成シ、卸掘進ハ百四十六間ニ達セリ、一時中止中ナリシ大曲坑ハ同坑運炭場ノ改築進捗シタルニヨリ事業ヲ再開シ又三百馬力電氣捲揚機一臺完成シタルニヨリ中切坑内ヨリ斜坑ノ掘進ヲ開始シ目下百五十二間ニ達セリ、尙大曲坑ニ五十馬力電氣捲揚機一臺ヲ新設セリ、坑内ノ發展計畫ニ伴ヒ採炭能率増進ノ爲メ「フロットマン」會社製載炭機二臺ヲ新設シ排水用トシテ「タービン」唧筒四臺、「トラック」唧筒四臺ヲ署設セリ、大祥内斜坑及本坑ハ坑内ノ發展ニ伴ヒ通氣ヲ良好ナラシムル爲メ自然通氣ヲ廢止シ「シロツコ」型扇風機各一臺(五〇馬力風量五〇、〇〇〇立方尺一臺、一〇〇馬力風量一〇〇、〇〇〇立方尺一臺)ヲ新設シ略々完成セリ

坑外ニ於テモ坑内ノ發展ニ備フル爲メ大曲坑外ニ選炭場ヲ改築シテ「チツブラー」、「フキーダー」、「ジンマースクロー」各一臺、「ベルトコンベヤー」二臺、「バンドコンベヤー」三臺ヲ設置シ、又捨石運搬用及用度品運搬用トシテ電氣捲揚機(五〇馬力及二五馬力)二臺ヲ新設セル外、大曲坑、同選炭場間ノ無極鋼索軌道ノ蒸氣力ヲ電カニ改メ、鍛冶工場ニハ諸機械修繕用トシテ蒸氣錠一基ヲ新設セリ

出炭量ハ事業ノ擴張ニ伴ヒ前年度ニ比シ約一萬噸ヲ増加セリ

尺別炭礦 鐵道國白糠郡音別村 雄別炭礦株式會社

採炭能率増進ノ爲メ從來ノ柱房式採炭法ヲ長壁式ニ改良統一シ且ツ四尺第一斜坑ヲ六月限り「ナタナイ」坑ヲ九月限り
休止シテ採炭場ヲ十二尺斜及四尺第二斜坑ノ二坑口ニ集中セリ、此ノ結果出炭量ハ前年ニ比シ約二割ヲ増加セリ、尙捲
揚機及排水唧筒動力用トシテ汽罐一基ヲ増設セリ

昭和炭礦第二坑 銅路國厚岸郡厚岸村 赤田勘三

坑内ノ發展ニ伴ヒ捲揚機及排水唧筒用トシテ汽罐一基ヲ増設セリ

茅沼炭礦 後志國古宇郡泊村 澤口汽船鐵業株式會社

炭質ノ向上ヲ計リ且ツ選炭能率増進ノ爲メ從來ノ手選場ヲ改良シテ機械選炭及水選ヲ行フ計畫ヲ樹テ選炭場設備改善中
ニシテ又本年度ヨリ初メテ動力用トシテ電力購買(一ヶ月契約高二七五〇キロワット以上)ヲ開始セリ

内郷炭礦 福島縣石城郡内郷村 磐城炭礦株式會社

(内郷方面)

第三斜坑ニアリテハ昨年來準備中ノ後退式長壁法ヲ實施シテ良好ナル成績ヲ擧ケタリ、本年中増設又ハ變更セル機械左
ノ如シ

排水設備

第三斜坑第二本線 一〇〇馬力八〇立方呎電氣タービン唧筒

二臺 増設

捲揚機

第三斜坑第二本線 「ギア」式單胴三〇馬力電氣捲揚機

一臺 新設

洗炭機

一臺 新設

ドレーバー式 容量 二五噸

一臺 新設

沈澱池

幅三〇尺 長一〇〇尺 深六尺 容積一八、〇〇〇立方尺

同

幅四二尺 長九〇尺 深五尺 同 一八、九〇〇同

同

(町田方面)

本年中増設又ハ變更シタル設備左ノ如シ

排水設備

町田二卸 二〇〇馬力 一五〇立方呎 電氣タービン唧筒

一臺 新設

二〇〇馬力 一〇〇立方呎 電氣タービン唧筒

同 同

捲揚機

町田廣畑坑「ギア」式單胴式六〇馬力 電氣捲揚機

二臺 新設

三〇馬力 電氣捲揚機

一臺 同

選炭機

町田坑 ドレーバー式洗炭機 容量二五噸

一臺 新設

沈澱池

幅三九尺 長六六尺 深六尺 容積一五、四四四立方呎

新設

(高坂方面)

高坂坑上層ニ新ニ「シーメンス」電氣ドリル三臺ヲ購入シテ機械採炭ニ依リ能率ヲ擧ケ又坑内發展ニ伴ヒ通氣ヲ補フタ
メ局部扇風機ヲ五臺増設セリ、本年中ニ増設又ハ變更シタル機械ヲ列擧スレハ左ノ如シ

電氣ドリル

シーメンス電氣ドリルE四二三型

三臺 新設

排水設備

高坂南坑 二〇〇馬力 一五〇立方尺 電氣タービン唧筒

一臺 増設

八〇馬力 一五〇立方尺 同

同 同

四〇馬力 一〇〇立方尺 同

同 同

高坂中央坑 四〇〇馬力 一〇〇立方尺 同

二臺 同

三〇馬力 三〇立方尺 同

同 同

高坂北二斜坑 一四〇馬力 一〇〇立方尺 同

一臺 同

二〇馬力 二〇立方尺 同

二臺 同

高坂坑上層坑 四〇馬力 四〇立方尺 同

一臺 同

三〇馬力 八〇立方尺 同

同 同

捲揚機

高坂坑南坑 「ギア」式單胴 五〇馬力 電氣捲揚機

一臺 増設

同北二斜坑 同 五〇馬力 同

同 同

高坂上層坑 同

六〇馬力 電氣捲揚機

同 同

北風道坑外 「ギア」式九吋 双汽筒單胴捲

三〇馬力 同

二臺 同

併捨場 「ギア」式 一五馬力 電氣捲揚機

一臺 同

扇風機

高坂坑南坑 「シロッコ」式

三〇、〇〇〇立方呎 七五馬力

一臺 増設

同 二〇、〇〇〇立方呎 四〇馬力

同 同

高坂北二斜坑 同 三〇、〇〇〇立方呎 八〇馬力

同 同

同 一〇、〇〇〇立方呎 四〇馬力

同 同

上層坑 同 二〇、〇〇〇立方呎 三五馬力

同 同

沈澱池

幅 二四尺 長 二四尺 深 三・三尺 容積 一、九〇一立方尺

増設

二一 一〇四 四・五

同 同

六〇 六六 五・〇

同 同

一一〇 三三〇 三・五

同 同

(鑿坑方面)

鑿坑ハ豫定ノ排水ヲ終リ鑿坑ノ改修ヲ行ヒ人員昇降及運搬用トシテ十二吋「ギア」式双汽筒單胴式九十五馬力捲揚機

ヲ新設シテ採炭ヲ開始セリ又洗炭場ニハ「ドレバー」式洗炭機並ニ廢水處理用沈澱池ヲ増設セリ
本年中増設又ハ變更シタル機械ヲ列舉スレハ左ノ如シ

捲揚機

綴 堅坑「ギア」式單銅

六〇馬力 電氣捲揚機

一臺 増設

同 同

三〇馬力 同

同

綴 第一斜坑 同

三〇馬力 同

同

綴 第二斜坑 同

一五馬力 同

同

同 堅坑 同

双汽笛双鼓胴二十二吋 蒸氣捲揚機

同

沈澱池

幅三五尺 長二三七尺 深六尺 容積四九、七七〇立方尺

増設

同 六七尺 同 一二五尺 同 六尺 同 五〇、二五〇同

同

汽 罐

ランカシャー汽罐

二基 増設

(住吉坑方面)

大正十二年以來開鑿中ナリシ當坑ハ本年十一月愈々著炭シ今後ノ發展ヲ期待セラル

本年中ニ増設又ハ變更シタル機械左ノ如シ

鑿岩機、壓氣機

米國サリバン會社製DP三二ライトローター

五臺 増設

獨逸製フロットマンAZ一一

一臺 同

米國サリバン會社製可搬式壓氣機 二五馬力

同

排水設備

一四〇馬力 一五〇立方尺 電氣タービン唧筒

同 増設

同 一〇〇立方尺 同

同

八〇馬力 七〇立方尺 同

同

七〇馬力 六〇立方尺 同

同

七〇馬力 五〇立方尺 同

同

四〇馬力 四〇立方尺 同

二臺 同

(平發電所)

本年中増設又ハ變更シタル機械左ノ如シ

汽 罐 三菱セクショナルボイラー

一基 増設

發電機 五〇〇〇乃至七〇〇〇「キロ」

同

三菱ユングストルームターボ發電機

同

五十嵐炭礦

福島縣石城郡内郷村 五十嵐榮次郎

當炭礦ニ於テハ新ニ本斜坑ヲ開鑿シタル結果之レカ開鑿ニ要スル鑿岩機、壓氣機、唧筒ヲ新設セリ其ノ機械ヲ舉クレハ

左ノ如シ

- 獨逸アンドリツツ會社製 二〇馬力壓氣機 一 臺
- 足尾式一番鑿岩機 三 臺
- 鴻卷唧筒二〇馬力 一 臺
- 五立方尺電氣タービン唧筒 一 臺
- 新坑單胴電氣捲揚機一五馬力 一 臺
- 新坑 單胴電氣捲揚機 二〇馬力 一 臺
- 本坑 同 二〇馬力 一 臺

好間炭礦 福島縣石城郡好間村 古河鑛業株式會社

新斜坑ニ於テハ本層炭ノ走向、傾斜、層厚、炭質等ヲ調査センカ爲メニ上層探炭跡ヨリ試錐ヲ試ミ又豫テ計畫中ノ第二新斜坑探炭區域ノ埋藏量調査ノ爲メ前年ヨリ引續キ「クレリヤス」式B型「ダイヤモンド」試錐機ヲ用ヒテ坑外五ヶ所ニ試錐ヲ爲セリ該區域ハ新斜坑探炭區域ノ北部八十萬坪ノ範圍ニシテ既ニ新斜坑西北方ヨリ北向ニ第二新斜坑ノ開鑿ニ着手セリ探炭ニアリテハ本年八月上層本卸ノ局部水没シ爲メ一時出炭減少シタルモ機械探炭ノ能率良好ニシテ前年ニ比シ一萬一千餘噸ノ増産ヲ示セリ又炭質ノ昂上ヲ計ルタメ既設洗炭場ニ更ニ處理能力毎時十噸ノ共益式水洗機一基増設セリ

第二新斜坑ハ運搬、人道二線ニシテ兩坑道間隔九十尺傾斜十六度三十分斜距離三千百尺ノ豫定ナリ之レカ開鑿ノタメ新ニ「ギア」式五十馬力單胴電氣捲揚機ヲ二臺設置セリ

湯本炭礦 福島縣石城郡湯本村 三井鑛山株式會社

右卸方面北落斷層先未探炭區域ノ開發ノタメ年末新ニ右卸ヨリ鑿岩機ニヨリ岩切掘進ニ著手セリ
從來天磐脆弱ナリシタメ保坑困難ナリシニ鑿ミ運搬坑道並ニ主要排氣道ハ炭層上部ノ硬質岩石中ニ設ケ、探炭方法ハ後退式長壁法ヨリ探炭跡ハ瀝砂充填ヲナス計畫ナリ
而シテ本年中増設又ハ變更シタル機械ヲ擧クレハ左ノ如シ

- 三池製作所製橫置式單筒五〇馬力壓氣機 一 臺 増設
- 米國「インガ」ソルランド「會社製R三九型鑿岩機 同 新設
- 二十五馬力二五立方尺電氣「タービン」唧筒(水頭二七五呎) 二 臺 増設
- 十馬力一〇立方尺「スリースロー」唧筒(水頭二〇〇呎) 三 臺 同
- 切端運搬用五馬力「チエーンコンベヤー」 二 臺 新設
- 橫置式百五〇馬力單胴電氣捲揚機 一 臺 増設
- 入山炭礦 福島縣石城郡湯本町 入山探炭株式會社

第五坑ニ於テハ南卸方面ノ發展ニ伴ヒ通氣困難トナリタルタメ南卸右三曲片風道ニ「シロツコ」型十三萬立方呎ノ局部扇風機一臺ヲ据付著シク同方面ノ通氣ヲ改善シ又壓氣機、鑿岩機、截炭機ヲ増設シテ人力ノ機械化ヲ計リ排水方面ニ在リテハ排氣竪坑ニ鑄鐵製十二吋排水管一筋ヲ設置スル等大イニ坑内設備ノ充實ヲ計レリ
本年中機械ノ増設又ハ變更シタルモノ左ノ如シ

- 日立製五〇馬力 壓氣機 二 臺 増設
- ホルマン式鑿岩機 五 臺 同

米國製サリバン式CLE二型截炭機 一臺 同
 ローラー式カッタービットシャープナー 一臺 新設
 單胴式三〇馬力電氣捲揚機 二臺 増設
 單胴式七五馬力電氣捲揚機 一臺 増設

●●●●● 勿來炭礦 福島縣石城郡勿來町 大日本炭礦株式會社
 當炭礦ニアリテハ本卸左部斷層先未探掘區域ノ開發ノタメ本年新ニ本線右四坑道下ヨリ鑿岩機ヲ使用シ岩切中ナリ之レ
 カ爲メ新ニ左記鑿岩機並ニ壓氣機ヲ購入セリ

獨逸プロットマン會社製三四馬力壓氣機 一臺
 フロットマンハンマードリルAG型 三臺
 ホルマンハントハンマードリルHW型 二臺

●●●●● 大倉無煙炭礦 茨城縣多賀郡南中郷村 大倉鑛業株式會社
 第二坑ニ於テ石炭増産ノ目的ノ爲三百五十馬力單胴式蒸汽捲揚機ヲ設置シ切羽運搬機トシテハ「スクレーパーコンベ
 ヤー」三臺ヲ採用シ切羽面ノ延長ヲ七十三米乃至九十米ニ改メ且ツ排水系統整理ノ爲メ七十五馬力ノ「タービン」唧筒
 (揚程百八十二米)三臺ヲ設置セリ
 第四坑ニ於テハ坑内ノ發展ニ伴ヒ從來ノ六十五馬力双汽筒單胴蒸汽捲揚機ヲ二百五十馬力双汽筒單胴蒸汽捲揚機ニ變更
 スルト共ニ其ノ運轉用トシテ外裝多管式汽罐(徑一・九八一米、長四・八七七米)二基ヲ増設シ尙同坑々外ニ容量毎分百
 三十九立方米ノ「シロッコ式」扇風機一臺ヲ新設セリ

●●●●● 重内炭礦 茨城縣多賀郡原町外一 磐城炭礦株式會社
 第四坑ノ坑内發展ニ伴ヒ右九坑道ニ八十馬力單胴式電氣捲揚機一臺ヲ設置シ第二坑ノ排水設備全部ヲ同坑ニ移轉シ坑内
 水ヲ集注シテ排水費ノ節減ヲ計レリ
 又坑内保坑費ヲ輕減スル爲メ探炭切羽ヲ集注スヘク從來ノ單獨探炭ヲ共同探炭ニ、常一審制ヲ交替制ニ改メツツアリ
 ●●●●● 高萩炭礦 茨城縣多賀郡松岡町外二 大日本炭礦株式會社
 舊第一坑下部大斷層以下探掘ノ爲メ第四坑々口ノ北東百六十五米ノ地點ヨリ第五坑ヲ開鑿シ年末掘進延長百六十五米ニ
 達シ明年八月着炭ノ豫定ナリ
 又本年度ニ於テ左記捲揚機ヲ設置セリ

設置場所	種類	機式	馬力	臺數
第四坑	電氣捲揚機	單胴式	一〇〇	一
柳澤坑	同	同	一〇	一
第五坑	同	同	三〇	一

●●●●● 松江炭礦 島根縣八東郡法吉村 石原長次
 前年六月ヨリ開始シタル鑿坑掘下ケハ本年末二百二十四尺ニ達シソノ間四層ニ達著シ層厚三尺餘ニ達スルモノアルモ炭
 質概シテ粗惡ナリ
 捲揚並ニ排水施設トシテ左記設備ヲナセリ

捲揚機 單胴片捲式 七五馬力 一臺

タービン唧筒一〇馬力
二馬力

二 臺(内一臺豫備)
二 臺(同)

東見初炭礦 山口縣宇部市 藤本開作

本年度ハ各主要坑道延長四百五十一間其他支線坑道延長千二百二十間合計千六百七十一間ノ新規掘進ヲ爲シ以テ採炭増加ニ努メタリ

排水量ハ前年ニ比シ約十立方尺ヲ増加シテ百六十立方尺トナリタルヲ以テ坪下蒸氣唧筒ヲ電化セシムヘク更ニ電氣「タービン」唧筒二百馬力二臺ヲ増設シ以テ四百五十立方尺ヲ排水シ得ルノ設備トナシタリ、而シテ大派中段ニハ百二十馬力一臺ヲ増設シ、從來ノ五十馬力ヲ撤去シテ百馬力ト取替ヘ、西大通左斜口ニ第二段ヲ設ケ二十五馬力、十馬力、五馬力各一臺ヲ据付ケ西大通眞卸及左右兩斜卸ノ中段ヲ唧筒座トシ眞卸左右三號ノ會合點中段唧筒座ニ百二十馬力二臺、五十馬力一臺、左三號斜右八片中段ニ五十馬力、三十馬力各一臺設置セリ、尙ホ萬一ノ場合隣鑛區ヨリノ出水ヲ憂慮シ之カ應急施設トシテ左三號斜二號目貫内ニ大中段ヲ設ケ二百馬力「タービン」唧筒二臺ヲ常備シ坪下唧筒座ニ直接排水セシムルノ裝置トシ既ニ唧筒及排水用管八百間ヲ購入シ唧筒座モ既ニ煉瓦工事ヲ完成シタリ、現在排水管設備中ニシテ明年二月頃ニハ完成ノ豫定ナリ、前記排水設備中坪下唧筒座ノ二百馬力「タービン」唧筒二臺ノ増設モ此ノ排水ニ伴フ豫備的行爲ナリ

坑内運搬量増加ノ爲メ西大通ノ中間左十六片口ニ五十馬力「エンドレス」一臺ヲ据付ケ以テ西大通幹線ノ中繼卷トシ又西大通右斜右十三片卸口ニ二十五馬力電氣「コース」捲一臺ヲ設置セリ

通氣施設トシテハ坑口ニ豫備主要扇風機「シロツコ」式排氣量一分間二十萬立方尺一臺ヲ増設シ以テ風量ノ増加ヲナシ

坑内ニ於テハ五段右一號斜右三十九片下排氣坑道内ニ「シロツコ」式三萬立方尺一臺、右二號斜一號目貫口排氣坑道ニ「シロツコ」式一萬立方尺一臺ヲ据付ケ坑内通氣ノ改善ヲナセリ
出炭漸増ニ伴ヒ選炭機増設ノ必要ヲ感シ從來ノ選炭機ニ併列シテ能力一日七百五十噸ノ「ジンマー」式選炭機一臺ヲ増設シ精選ニ努メタリ

尙ホ將來ノ計畫トシテハ明年上期ヨリ一重石炭及二タ段炭ノ採掘ヲ目的トシテ一重炭ハ大派層右六片附近ヨリ切上ケ坑道ニ依リ、二タ段炭ハ從來ノ左一號斜口(現在ハ廢坑)ヨリ切下ケ坑道開鑿ノ豫定ナリ、着炭ノ上ハ是等異性炭ノ採掘ヲ見ルヘキヲ以テ之カ選炭用トシテ更ニ選炭機一臺増設ノ豫定ナリ

沖見初炭礦 山口縣宇部市 大倉礦業株式會社

九月ヨリ鑛區ノ探鑛不充分ナル部分ニ對シ試鑛五本ヲ實施中ナルモ未タ着炭スルニ至ラス、南卸ニ於テ新タニ採掘面積ヲ増加セリ、又大通下部ハ本卸ノ掘進ト共ニ採掘區域増加セリ、採掘方法ニ付テハ前年度來種々研究中ナリシカ途ニ長壁式採炭法ヲ採用スルコトトナシ現場ニ應ジテ三十間乃至百間ノ拂面ヲ作成中ナリ
坑内排水設備トシテ三番坑ニ日立製二百馬力「タービンポンプ」一臺、三番坑ニ安川製百馬力一臺及安川製移動式五十馬力一臺ヲ増設セリ、坑内ノ運搬ニハ安川製坑内十五馬力電氣捲揚機(テール捲)十臺ヲ増設シ坑内通氣ニハ左大通左大通左二號排氣ニ排氣量一分間三萬立方尺「シロツコ」式扇風機一臺ヲ新設セリ
本年度ハ坑内漸ク整理シ採炭計畫稍其緒ニ就キタルノ觀アリテ約二割ノ出炭増加ヲ見タリ

新沖山炭礦 山口縣厚狭郡小野田町外一村 渡邊祐策

大正六年現鑛區ノ一部分ニ二個ノ豎坑(本坑ト稱ス)ヲ開鑿シ一重石炭ヲ採掘セルコトアリ、之ヲ五段炭層迄掘下シ同

層ノ稼行ニ利用セント欲シ昭和三年十月工事ニ着手シ同年末迄ニ入氣運搬及排氣人道ノ兩堅坑共ニ着炭セシメ其坑底ノ施設ヲ了シ主要坑道ノ掘進片磐ノ發展等本年度ニ於テ着々進行セリ、本坑ノ操業着手ト同時ニ海面埋築地ノ東北端ニ新ニ二個ノ堅坑(新坑ト稱ス)ヲ開鑿シ昭和三年末ニ同層ニ着炭シ爾來兩大通シ坑道ノ掘進ト片磐ノ發展ニ努メ是又相當出炭ヲ見ルニ至レリ、而シテ本坑堅坑深度二百七十尺新坑堅坑深度百三十尺ナリ

採掘方法ハ炭層ノ傾斜ノ方向ニ向テ運搬、入氣及排氣ノ主要大通坑道ヲ開鑿シ其左右ニ十八間乃至二十間内外ノ間隔ヲ置キ片磐坑道ヲ附シ殘柱式又ハ長壁式ニ依リ採炭ス

現在ニ於テハ本坑ト新坑トハ坑内ニ於テ相連絡セス獨立ノ操業ニシテ從テ排水施設モ自ラ別箇ノ系統ヲ有ス、而シテ左記唧筒ヲ新設セリ

坑名	坪下ポンプ	中段ポンプ	先延ポンプ	排水量
本坑	電氣タービン十五馬力二	(スワイスロー)十五馬力一	(スワイスロー)五馬力二	毎分十五立方尺
	(電氣タービン)同	同	三馬力一	
新坑	同	三十馬力二	同	毎分三十立方尺
		同	三馬力一	

坑内産出ノ石炭雜石ハ一旦堅坑底ニ蒐集ナレ坑外捲揚機ニ依リ搬出ス、本坑堅坑ニ蒸氣捲揚機運搬用トシテ汽笛徑十六吋、人道用トシテ十吋各一臺、新坑堅坑ニ電氣捲揚機百五十馬力一臺ヲ設置シ坑内ハ新舊兩坑内共運搬ニ電氣動力ヲ使用ス、其方式ハ主要坑道ハ「エンドレス」、片磐又ハ炭層ノ起伏ニ依リ局部的ニ隨時隨所ニ電氣捲揚機ヲ施設シ主要坑道ノ補助設備トナセリ、而シテ本坑主要運搬機三十馬力「エンドレス」一臺、補助運搬機「コース」捲十五馬力一臺、十馬力一臺、七馬力半二臺、新坑補助運搬機「コース」捲十五馬力一臺、十馬力一臺ヲ設置セリ、尙ホ新坑主要運搬機ハ目下計畫中ナリ

動力ハ蒸氣及電氣ヲ併用ス、而シテ電氣ハ山口縣營ノモノヨリ供給ヲ受クルモノニシテ變電所ヲ設置シ、蒸氣ハ「ランカシャー」式汽罐徑七尺長サ三十尺ノモノ三基ヲ新設シ主トシテ坑外堅坑捲及坑外「エンドレス」機運轉用ニ供シ其他暖房浴場用ニ供ス

高田炭礦 福岡縣船屋郡勢門村外一村 明治炭業株式會社

高田坑ニ於テハ五尺層採掘ノ目的ヲ以テ第二電五尺捲卸及第五電五尺捲卸ノ掘鑿ニ着手シ延長百四十間ニ及ヘリ、又右部採掘ノ目的ヲ以テ第七電捲卸ヲ掘鑿スル爲メ之カ連絡運搬坑道ノ開鑿ニ着手セリ、而シテ六月中本卸六片ニ据付ノ三十馬力壓氣機ヲ撤回シテ「インガール」會社製六十馬力壓氣機ト據替ヘ能率増進ヲ計レリ

久原坑ニ於テハ第一電捲卸ノ掘進ヲ續行スルト共ニ新ニ四片磐ノ採炭ヲ開始シ第二電捲卸ニ於テハ高田第一坑及久原第一坑ヲ橫斷シテ走ル深達七百尺ノ斷層先ノ炭層ノ位置ヲ確定セン爲メ其卸詰ヨリ傾斜三十度ヲ保チツツ探鑿坑道掘進中ニシテ第三電モ掘進ヲ續ケ、第四電捲卸ハ前記大斷層ニ平行シテ右斜卸掘進ヲナシ、第五電捲卸モ第一電捲卸ノ探掘跡ニ掘進シテ將來ノ發展ヲ期セリ、而シテ大斷層先ノ探掘ヲ急ク關係上第二電卸詰ニ「インガール」會社製三十馬力電動壓氣機一臺ヲ増設シ工程ノ増進ヲ計レリ、而シテ採炭方法ハ前進式長壁法ヲ採用シ從來ノ曲片間隔距離ヲ短縮シ切端運搬ヲ容易ナラシメタリ

排水設備ニ付テハ高田坑ハ第四電捲卸ニ三十馬力「タービンポンプ」一臺、第六電ニ二十馬力二臺ヲ据付ケ久原坑ハ第一電中段ニ二十馬力一臺、第三電中段ニ八十馬力一臺、第四電ニ八十馬力一臺ヲ新設シテ排水ニ備ヘ坑内運搬ニ付テハ高田坑第一斜水平運搬坑道延長三百間ニ對シテハ從來ノ馬匹運搬ヲ廢シテ二十馬力單線式電氣「エンドレス」ヲ新設シテ運搬力ノ増加ヲ計リ、久原坑ニ於テハ礦車百五十兩ヲ増設シテ運搬ノ圓滑ヲ計リ、通氣設備ハ久原坑第五電ニ「シロ

ツコ」式十馬力排氣量一分間一萬立方呎ノ扇風機一臺ヲ新設シ選炭ニ於テハ直徑八呎幅三呎ノ選水車二個ヲ設置シ水洗機排出水ヨリ更ニ微粉炭ノ分離ヲ計レリ

昭●和●炭●礦 ● 福岡縣船屋郡宇美町 中島德松

第三坑舟石層右斜坑卸坑道詰ヨリ切下リ勝田群層中ノ最下層タル猪ノ五尺層ヲ探鑛スヘク掘進中ナリ

八月第三坑捲卸坑道ニ併行シ五間ヲ隔テタル位置ニ新斜坑(昭和本坑)開鑿ニ着手セリ、該斜坑ハ卸幅十一尺高七尺豫定總延長千百間ノ内延長七十間ニテ明年四月末着炭ノ豫定ナリ、本坑ハ昭和六年度ヨリ探炭稼行ニ着手スル計畫ニシテ本炭礦中ノ最主要坑タリ

主トシテ坑道掘進ニ使用シ一部採炭ニ使用スル爲メ一坑左五目拔ニ壓氣機日立製作所製五十馬力一臺ヲ新設セリ、又鑿岩機「デンバー」二臺増設、「アトラス」BOB一〇型六臺、同BOB八型一臺、「フロットマン」二臺、「サリバン」三臺、「ビツク」一臺、「ムードン」一臺、「フロットマン」二臺、「アトラス」一臺新設セリ、但シ「ビツク」ハ主トシテ採炭邊シ掘ニ試用中ナリ

坑内排水ニハ一坑ニ「タービン」唧筒三十五馬力一臺及「ピストン」唧筒三馬力一臺ヲ新設、三坑ニ「タービン」唧筒三十五馬力、十馬力各一臺、「トラック」唧筒七馬力半一臺、「ピストン」唧筒三馬力一臺ヲ増設、本坑ニ「ピストン」唧筒三馬力一臺ヲ新設セリ

坑内運搬ニハ三坑ノ百馬力電氣捲ヲ撤廢シ汽笛徑十六吋双汽笛單胴式蒸氣捲揚機ニ變更シ又本坑ニ八吋双汽笛複胴式蒸氣捲揚機一臺新設セリ

坑外運搬ハ第三坑ヨリノ出炭ヲ馬力ニ依リ一坑選炭機ニ送炭スルモノナルカ目下之ニ「エンドレス」設備中ナリ

通風設備ニ於テハ一坑右六片一卸ニ扇風機排氣量一分間一萬立方呎「キャベル」式一臺ヲ新設掘進用トシテ同坑左九片ニ千五百立方呎「シロツコ」式一臺及左八片ニ同千五百立方呎泉式一臺増設セリ、三坑々口ニ五萬立方呎「ダブルインレツトシロツコ」式一臺、同坑左斜左二片ニ掘進用トシテ千五百立方呎「シロツコ」式一臺増設セリ

汽●爐●ハ●三●坑●々●口●附●近●ニ●捲●揚●機●履●房●浴●場●等●ノ●用●途●ノ●爲●メ●「ランカシャー」式汽爐徑七呎長三十呎二臺ヲ新設セリ

高●松●炭●礦 ● 福岡縣遠賀郡水巻村外二町 三好製炭株式會社

三「ヘダ」三尺層及四「ヘダ」五尺層ノ探掘區域ノ増大ヲ計ルト共ニ三「ヘダ」三尺層左部三片、四片、五片眞卸ニ於テ六十尺乃至百七十尺ノ向フ上リ斷層ニ遭遇シタルモ三片、四片、五片ノ各曲片ハ全部六十餘尺下層ノ四「ヘダ」五尺層ニ着炭探掘シツツアリ、一方眞卸ハ同シタ四「ヘダ」五尺層ニ着炭ノ目的ヲ以テ切上リ掘鑿ヲ急キ明年三月中ニハ着炭ノ豫定ニシテ之カ着炭ノ豫ハ三「ヘダ」三尺層ニモ切上ル豫定ナリ、四「ヘダ」五尺層ハ北零片着炭點ヨリ三百五十尺ノ位置ニ十月ヨリ第二眞卸ヲ掘進ス、延長六百間ナリ、尙ホ第一眞卸、第二眞卸ノ中間ニ大風道卸ヲ取明ケ三「ヘダ」三尺層左一片ニ通セシメ兩卸ノ總排氣ニ備フ

運搬系統改善ノ爲メ昭和三年十一月ヨリ着手ノ四「ヘダ」五尺層北零片ヨリ三「ヘダ」三尺層左一片捲立ニ通セシメ三尺部全部ノ運搬ヲ行フ坑道ハ掘鑿完成セシモ諸般ノ設備整ハサル爲メ未タ之カ實施ニハ至ラサルモ明年九月迄ニハ實施ノ豫定ナリ

「コールドリル」ハ前年度ヨリ使用中ノモノニ泉式半馬力一臺、昭和萬能式半馬力一臺増設、「ロツクドリル」ハ「インガン」ノルランド」會社製R三九號二臺及「ムードン」會社製BPE型一臺新設使用ス、壓氣機ハ「サリバンマシーナリー」

會社製WJ三「アングルコンバウンド」型百二十馬力一臺、「インガートンランド」製橫置式單第二十馬力一臺ヲ坑内ニ新設シ主トシテ岩石掘鑿ニ使用ス、載炭機ハ手持品「メーバーアソドコウルソン」會社製「バー」型二十馬力一臺、C L E 二型底脈長壁式「コールカッター」三十馬力二臺、前者ハ四「ヘダ」五尺層ニ、後者ハ三「ヘダ」三尺層ニ新設使用中ナリ、兩層共前記ノ「コールカッター」及「ゴールドリ」ヲ使用シ採炭能率ノ増進ヲ計レリ

前年ヨリ工事ニ掛リタル排氣卸ヨリ左ニ向ヒテ上層舊坑ヲ取明ケ唧筒座工事ノ處本年二月工事完成高松二坑ニ設置セル唧筒ヲ全部之ニ移シ排水ニ使用ス

本年四月ヨリ人車昇降用トシテ十八時橫置式双汽箱複胴式捲揚機ノ新設ヲ終リ使用中ナリ

礦害除去設備トシテ沈澱槽ヲ新設長十五間幅九間高四尺五寸ノ「コンタリート」製ニシテ水洗面ノ全部ヲ注キ沈澱セシメ十間角ノ沈澱池ヲ二個新設シテ一部ヲ之ニ注キ再洗用ニ使用シ一部ハ放流ス

捲揚機用トシテ還炭機橫ニ「ランカシャー」式徑七呎長三十呎汽罐三基、同徑八呎七吋長二十八呎二吋一基増設セリ

本年九月ヨリ婦女子ノ深夜業廢止シタルト還炭機ノ故障ノ場合ヲ考慮シ出炭ヲ一時貯炭槽ニ入ルル爲メ「ワレン」型棧橋ノ終點ニ鐵製「ボケット」容量五百噸ヲ新設セリ、又礦業所従業員一同ノ飲料水トシテ坑口ヨリ東南部約百五十間ノ谷間ニ鑿泉ノ自然湧出ヲ發見シ同所ニ長十五間幅十間深六尺ノ溜池ヲ掘リ高所ニ圓形煉瓦製ノ貯水槽ヲ新設「タービンポンプ」ニヨリ揚水シ四時鐵管ニテ現在一部ニ配水共同栓ヲ以テ使用セシム、全部工事完成ハ明年六月迄ノ豫定ナリ

●●●●●
豆田炭礦 福岡縣高郡上穂波村外一村 株式會社藤生商店

七坑ニ於テ卸延長四十五間深百尺ヲ掘進セリ、明年三月坑口ヨリ八十間ニシテ着炭ノ豫定ナリ

新五尺坑々内石炭鑿孔用ニ昭和式半馬力「コールドリル」一臺ヲ増設シ切羽運搬用トシテ金桶四十間ヲ新五尺坑上層ノ片磐拂ニ十月ヨリ使用開始セリ

坑内排水ニハ新五尺坑ニ五十馬力「タービンポンプ」一臺増設、第七坑ニ五馬力「デットンポンプ」一臺新設セリ

坑内運搬ニハ出雲坑々口ニ單胴式電氣捲揚機百馬力一臺、第七坑々口ニ同式電氣捲揚機二百馬力一臺ヲ新設セリ、坑外運搬ニ於テハ新五尺坑、七坑間硬捲用汽箱徑十吋蒸氣捲揚機一臺ヲ新設シ又五坑七坑間「エンドレス」捲ヲ三百間延長セリ

鶴田坑ハ豫定ノ採掘ヲ終リタルヲ以テ六月中旬廢止シ之ニ伴ヒテ五十馬力「タービン」唧筒三臺、汽箱徑九吋蒸氣捲揚機一臺、縱置式汽罐徑五呎長十呎四臺ヲ撤廢セルモ出雲坑ニ於テ採掘區域擴大セル爲メ増産セリ

●●●●●
忠隈炭礦 福岡縣高郡忠隈村外一村 住友九州炭礦株式會社

前年ヨリ工事中ノ第七坑左右大坑警坑道(主要運搬坑道)ノ中右大坑警坑道ハ本年中ニ百間ヲ、左大坑警坑道ハ百二十五間ヲ掘進シ明年中ニハ兩坑道共第二本卸坑道ノ豫定位置迄掘鑿スル豫定ナリ、第七坑右第一本卸ハ本年一月落差百二十尺ノ斷層掘進終了後引續キ掘鑿ヲ急キ現在ニテハ第七坑出炭ノ大部ハ此處ヨリ出炭ス、本年四月第七坑左第一本卸坑道ノ掘進ヲ開始シ卸口ヨリ三十六間ニテ落差百四十尺ノ豫想斷層ニ達着年末着炭セリ、明年度ニハ採炭區域擴張セララルヲ以テ右第一本卸ト相俟ツテ漸次増産ノ計畫ナリ、第五坑ハ本卸坑道ノ掘進並ニ左九延方面ノ發展ニヨリ出炭増加シツツアリ、第一坑、第三坑又卸ハ共ニ採掘終了ニ近ツケリ、第四坑ハ各片警坑道ニ於ケル採掘終了シタルヲ以テ目下本卸坑道退却中ナリ

鑿岩機「デンパーウオーハンマーモデル」九五番二十臺ヲ増設セリ
探掘ニ就テハ第三坑浦田八尺本卸坑道ノ掘鑿ハ從來手掘ナリシヲ本年十月ヨリ機械掘ニ變更セリ、尙ホ明年早々同坑八尺層ニモ機械掘採用ノ豫定ナリ

坑内排水ニ於テハ第六坑本卸ニ電氣「タービン」唧筒六十馬力一臺、第三坑第一卸右十一延ニ同六十馬力二臺、第七坑右本卸及第七坑左一卸ニ電氣「トラツク」唧筒五馬力一臺宛ヲ増設セリ

坑内運搬ニ於テハ第七坑々底ニ主要運搬用瓦斯爆發防止式蓄電池機關車二十馬力一臺、第五坑左七延ニ單胴式電氣捲揚機百馬力一臺、第七坑左六卸ニ同六十馬力一臺（第五坑左七延ヨリ移轉）、第七坑左一卸ニ同二百馬力一臺、第七坑本卸ニ「スキップ」捲揚用「イルグナー」式複胴電氣捲揚機五百三十馬力一臺、第七坑々内ニ「ハンドコンベヤー」二馬力二臺、同坑内ニ「クリーパー」一臺、同坑内ニ橫轉式「チツブラー」二臺、同坑内ニ水平往復式「フキイダー」二臺（「クリーパー」）、「チツブラー」）、「フキイダー」合計五十馬力）ヲ設置セリ、尙ホ第七坑「スキップ」捲揚用トシテ高サ六十四呎鐵骨製橋一基ヲ新設セリ

第七坑運炭用トシテ同坑々口ニ水平往復式「フキイダー」一臺、「セーキングスクリーン」一臺（以上計十五馬力）及「ベルトコンベヤー」三十馬力一臺ヲ設置セリ

通風ニ於テハ第五坑外既設ノ「チャンピオン」式扇風機ヲ撤廢シ之ニ代フルニ排氣量一分間十萬立方呎百二十馬力電動機直結「シロッコ」式扇風機一臺設置セリ、又第七坑主要扇風機トシテ排氣量一分間十五萬立方呎二百馬力電動機直結「ラトール」式扇風機一臺増設セリ

選炭ニ於テハ選炭場ニ「ベルト」式「ピツキングテーブル」幅四呎七吋長五十四呎九吋一個、同幅四呎十一吋長四十七

呎六吋一個、能力一時間五十噸「バウム」式水洗機一個ヲ設置セリ

其他鑛夫ノ衛生狀態改善ノ目的ニテ病院ノ増設（建坪五五五坪）ヲナセリ、又鑛夫住宅五棟（各種建坪四〇・五坪）及坑夫風呂（建坪二八坪）ヲ新設セリ

尙ホ第七坑々口附近壓氣機室ニ「ブラウンボベリー」會社製二百六十馬力「ロータリー」壓氣機一臺増設ノ計畫ニテ本年十二月基礎工事ニ着手シ明年二月竣工ノ豫定ナリ

二 瀨炭礦 福岡縣嘉穂郡瀨田村外二町二村 南工者

高雄礦第二坑後牟田坑ニ「インガールソルランド」製橫置型百馬力壓氣機一臺新設、日立製作所製橫置型五十五馬力一臺増設、高雄二坑本坑ニ「フロットマン」製橫置型二百馬力二臺増設、新五尺坑ニ日立製作所製橫置型五十馬力一臺増設、高雄二坑ニ「フロットマン」製AZ一一番岩機二十臺、同製AZ一六番五臺、同製DB一ニ番壓氣機三十臺、「ムードン」製P三番壓氣機十臺ヲ、潤野坑ニ「インガールソルランド」製BBR一三〇番岩機二臺、「フロットマン」製小型「コールドリル」五臺、同製「オーガードリル」二十臺ヲ何レモ採用トシテ増設セリ

排水ハ高尾礦第二坑ニ電氣「タービンポンプ」六十馬力二臺、五十馬力三臺、中央礦潤野坑ニ百七十馬力三臺、百馬力二臺ヲ設置セリ

坑内運搬ニ於テハ高雄第二坑ニ六十馬力電氣捲揚機一臺、中央本坑ニ三十馬力電氣「エンドレス」一臺新設セリ
坑外運搬ニ於テハ高雄第二坑ニ三十五馬力可逆式電氣「エンドレス」一臺、三十馬力一臺、中央本坑ニ六十馬力一臺新設セリ

通氣ニ於テハ高尾礦第二坑末高坑坑外ニ「シロツコ」型千八百立方厘米扇風機一臺増設セリ
尙ホ中央礦本坑ニ九水受電用三百「キロボルトアンペヤ」誘導調整器一臺新設セリ

平山炭礦 福岡縣嘉穂郡桂川村外一村 平山炭礦株式會社

本年度ハ採炭區域擴張及舊坑取明ノ爲メ續産額ハ前年ニ比シ約六割増加セリ

現在稼行中ノ桂川三尺層ノ下部集九八尺層(樋口新坑ノ深部)ノ位置深サ及炭質ヲ究ムル目的ニテ樋口坑本卸坑口ノ肩四
十間ノ個所ニ徑二吋以上ノ「ロープボーリング」ヲ施行中ニシテ地表ヨリ二百尺ヲ掘鑿シ更ニ百八十尺ニテ目的炭層ニ
着炭ノ豫定ナリ

五月樋口新坑(舊四坑)斜坑取明ケニ着手シ九月本卸延長七十三間深度二百四十尺ニテ完了セリ

坑内外諸設備ニシテ新設又ハ増設セルモノヲ舉クレハ集九八尺坑ニ坑外「インガソルランド」横置式壓氣機五十馬力
一臺、坑通掘鑿及切羽用トシテ「デンバー」式九五番鑿岩機十二臺、「ランカシャー」式汽罐徑七尺長三十尺二臺、集九
八尺坑並ニ同五尺坑ニ坑外下綱式電氣「エンドレス」二十馬力一臺、集九五尺坑ニ「シロツコ」式扇風機排氣量一分間
四萬立方呎一臺、平山第一坑ニ坑外「インガソルランド」横置式二段壓搾壓氣機七十五馬力一臺、坑道掘鑿用トシテ
「インガソルランド」十二番鑿岩機三馬力三臺、「デンバー」九五番同三馬力二臺、坑内「タービン」唧筒百三十馬力
二臺、坑内運搬用横置式複胴蒸氣捲揚機汽筒徑十八吋一臺、「ランカシャー」式汽罐徑七尺長二十一尺一臺等、樋口新
坑ニ坑内排水用「タービン」唧筒八十五馬力一臺、同四十馬力一臺、坑内運搬用横置式複胴蒸氣捲揚機汽筒徑十四吋一
臺等ナリ

尙ホ右ノ外集九五尺及八尺坑ニ爆發瓦斯微量發生セシ爲メ坑内全部ニ安全燈ヲ使用セシメ危害ヲ豫防シ又勞役者ノ保護

ヲ目的トシテ兒童ノ補育所ヲ設置セリ
下山田炭礦 福岡縣嘉穂郡山田町 古河礦業株式會社

二坑及三坑ノ人車人道設備ヲ完全セシムル爲前年ヨリ着手セル第三坑運搬卸三百五十間ノ複線改修、百八十間ノ單線坑
道改修、百四十五間ノ二三坑連結坑道開鑿及四十三間ノ人車坑口ヨリ第三坑第一「ストラセ」迄ノ人車人道專用坑道ノ開
鑿ハ本年十一月ヲ以テ完成セリ、而シテ三坑外ニ三百馬力單胴式電氣捲揚機一臺新設工事ニ着手シ明年初メ之カ完成ヲ
俟テ人車人道開通ノ豫定ナリ

第二坑増産ノ目的ヲ以テ間三尺層ノ開發ヲ計畫シ杉谷五尺層左二十五片ヨリ幅五尺層ニ連絡セル坑道内間三尺層着炭
點ヨリ間三尺層運搬斜坑道ノ開鑿ヲ九月ヨリ着手シ本年末迄ニ約百二十間掘進シ引續キ鑛區境界ニ達セシムル豫定ナリ
坑道ノ幅十三尺高八尺ニシテ三十間乃至四十間ノ間隔ニ片磐坑道ヲ設置セリ

採炭及開鑿穿孔用トシテ二坑二十六片ニ壓氣機「サリベン」WG六型百馬力一臺、新一坑六目拔ニ同「インガソルラン
ド」七十五馬力一臺ヲ増設シ二坑及新一坑ニ鑿岩機尾尾式十一番二十三臺、同式二十番八臺ヲ増加セリ

新一坑内軌條ニ付テハ捲卸坑道三十封度片磐二十封度軌距三十吋、炭車ニ付テハ「ボールベアリング」付鐵製炭車容量
三十二才ニ改善工事實施中ニシテ明年一月中ニ完成ノ豫定ナリ

坑外運搬ノ軌條ハ主要運搬線路ハ軌條三十封度軌距三十吋硬捨用線路ハ軌條二十封度軌距二十吋ニ改善工事實施中ニシ
テ明年一月中ニ完成ノ豫定ナリ

選炭ニ於テハ再洗用トシテ能力一時間五噸共益社式水洗機一臺ヲ増設セルノミナラス下山田驛構内ニ「ジンマト」式選
炭機能力一時間六十噸二臺、「バウム」式水洗機能力一時間五十噸二臺、再選機共益社式水洗機能力一時間三十噸一臺、「コ

尙ホ電力ハ九州水力電氣會社ヨリ供給ヲ受ケ大隈變電所ヨリ下田古河西部鑛業所變電所内五十「キロボルトアンペア」

三臺、七十「キロボルトアンペア」三臺ヲ新設シ同所ヨリ送電シ配電使用ス

芳雄炭礦 福岡縣直轄郡鑛村外一町一村 株式會社廣布商店

三井三池製作所製MDE一型電氣「オーガー」二臺新設シ主トシテ山内坑二尺層ニ用ヒ三尺尺無層ニモ試用セリ

上三緒坑上層卸用坑口十四吋蒸氣捲揚機一臺及坑内二百馬力電氣捲揚機一臺ヲ廢止シ新ニ坑口ニ十六吋蒸氣捲揚機ヲ設

置シ一段捲トセリ、又同坑三尺層ニ二百馬力電氣捲揚機ヲ設置シ上層右部運搬機トスヘク從來上層設置ノモノヲ移轉セ

シメ其工事ニ着手シ明年二月上旬竣工ノ豫定ナリ

上三緒坑第一坑下層(二尺層)發展ノ爲從來ノ坑口ニ設置セル扇風機ヲ廢シ之ニ代フルニ上下兩卸ノ排氣ヲナス爲「シ

ロッコ」式扇風機排氣量一分間十八萬立方呎一臺(原動機十八吋兩汽蒸汽機)ヲ設置セリ

再々洗ノ目的ヲ以テ共益社式水洗機能力一時間三十五噸三臺山内坑ニ増設セリ、又上三緒坑ニ於テ水洗選炭擴張ノ爲石

炭破砕用トシテ容量十五噸「シングルロールクラッシュヤー」一臺ヲ新設中ナリ

方城炭礦 福岡縣田川郡方城村外二町 三峯鑛業株式會社

金田斜坑先大斷層深探炭ヲ二十九卸右斜卸掘進及黒木卸、右二十八片「クローズスカット」掘進ヲ以テス、而シテ該方面

探炭ノ目的ノ一部ヲ達ス、黒木卸ハ從來新黒木卸、十三片「エンドレス」坑道、十卸ノ三重要坑道アリ、二十八片水平

坑道迄至リソレ以下ノ探掘ヲナシ居リシヲ本年度中ニ新黒木卸ヨリ二十八片迄一ツノ捲卸ニ切替ヘタリ

「フロットマン」單筒橫置式百五十馬力壓氣機一臺ヲ福區左三片ニ新設シ且ツ「サリバン」CLE十二番「チエーンコー

ルカッター」三十馬力二臺「デンバーウオー」九十五番三臺及「コリネ」LA十番「ビツクハンマー」十四臺ヲ新ニ購

入シ掘進及探炭ニ使用ス

探掘ニ於テハ棉跡ニ坑内出硬ヲ完全ニ充填スル事ニ努メタリ、坑内硬不足ノ時ハ坑外ヨリ選炭硬ヲ搬入ス

排水設備トシテハ黒木十八片並ニ同二十八片ニ三臺造船所製四十馬力「タービンポンプ」各一臺宛及左第一卸並黒木十

四卸ニ同所製二十馬力「タービンポンプ」各一臺宛新設セリ

坑内運搬ニ於テハ新黒木卸ニ二百馬力單胴式電氣捲揚機一臺新設セリ、又「アイコッフ」式「セーカーコンベヤー」福區

ニ三臺左一卸ニ三臺計六臺ヲ新設シ切羽運搬ヲナセリ

通風ニ於テハ一般風道ノ手入ヲ充分行ヒタルタメ通氣狀態可成良好トナリタリ、且ツ黒木卸ノ排氣ノ一部ハ二十九卸ニ

出スコトトシタルタメ一層通氣良好トナリタリ

尙ホ「エヂソン」F型電氣安全燈六百五十個新ニ購入使用セリ、又社宅給水貯水槽一個新設セリ

赤池炭礦 福岡縣田川郡上野村外一町二村 明治鑛業株式會社

第三坑内ニ「ニューマチックドリル」用トシテ從來六十馬力「インガールランド」製壓氣機二臺使用中ノ處供給不足ノ

爲メ瑞西製二百六十馬力「ロータリー」二段壓縮型壓氣機ヲ新設同時ニ六十馬力二臺ハ不用トナリシ爲メ其内一臺ハ第二

坑内ニ他ノ一臺ハ發電所ニ讓渡セリ、鑿岩機ハ三坑ニ「デンバーロツクドリル」會社製「ウオー」九五番四臺増設、二

坑ニ「フロットマン」會社製AJ十一番二臺新設、一坑ニ「シーメンズ」會社製「オーガードドリル」四分ノ三馬力二臺増

設、三坑ヨリ二坑ニ同二臺讓渡セリ

排水設備ハ坑内坑道ノ掘進ニ伴ヒ八十馬力「タービンポンプ」三臺、八馬力及七馬力「デートン」唧筒各一臺新設セリ

坑内運搬ノ第一坑内坑底捲汽筒徑十四吋蒸氣捲揚機ヲ撤去シ單胴式電氣捲揚機百五十馬力ヲ新設、第一坑右斜右一片第

二電卸ニ同五十馬力ヲ新設、第二坑右一片電卸ニ同五十馬力新設、第二坑右四片電卸ニ同二十五馬力新設、三坑内主要捲揚汽筒徑二十吋單胴式蒸氣捲揚機ヲ三百五十馬力電氣捲揚機ニ改造、三坑内坑底水平「エンドレス」捲一臺ノ處ヲ容量不足ニヨリ尙ホ同單胴式二十馬力二臺増設、三坑内第一採炭卸ハ出炭増加ト共ニ五十馬力捲揚機ニテハ不足ナリシ爲メ八十馬力單胴式電氣捲揚機ニ變更、三坑内第一水平坑道第二採炭卸、第三採炭卸及第二水平坑道第一採炭卸ノ三箇所ニ五十馬力單胴式電氣捲揚機一臺新設セリ

坑外運搬ニ於テハ材料運搬用トシテ從來使用シタル汽筒徑十吋蒸氣捲揚機ヲ撤廢シ其跡ニ三十馬力單胴式電氣捲揚機ヲ新設、選炭機貯炭場内ニ棧橋捲揚用トシテ十五馬力單胴式電氣捲揚機ヲ新設セリ

通氣設備ニ於テハ二坑内主要扇風機ハ從來蒸氣原動機ヲ使用セシ處今回一臺ノ豫備原動機ヲ中止シ調帶傳導ニヨリ七十馬力電動機ヲ新設セリ、又局部扇風機四千立方呎級ノモノ一坑ニ於テ一臺、三坑ニ於テ六臺増設セリ

選炭機ニ於ケル水洗機ノ改造ニ伴ヒ商品炭用ノ「ボケツト」トシテ洗粉炭「ボケツト」容量千二十噸及洗中塊「ボケツト」容量六百噸ヲ増設セリ

●●●●● 井島炭礦株式會社

現在稼行中ノ第三坑卸先ニ上投約三百尺餘ノ斷層アル事ヲ確メタルニヨリ該斷層先區域ヲ探掘シ同方面ノ擴張ヲ計ルト共ニ現在ニ於ケル第三坑出炭ノ自然減量ヲ補フ計畫ヲ以テ現在ノ東坑口ヨリ東方約千間ヲ距リ新ニ第四坑開鑿ニ七月着手セリ、該坑ハ總長五百三十間ヲ以テ前記斷層區域ニ於テ着炭スルモノニシテ中心距離二十間ヲ存スル上風坑下風坑ノ兩坑道ヲ開鑿ス、而シテ兩坑道共傾斜十一度大ナ數幅十四尺高九尺ノ「アーチ」型坑道ナリ、着手後年末迄ニ二百五十間ヲ開鑿シ明年八月末ニ着炭ノ豫定ナリ、又第四坑ヨリ現在第三坑選炭場ニ通スル坑外運炭線路約一千間布設計畫ヲ定

メ目下用地買収中ニシテ明年八月中ニ全部竣工ノ豫定ナリ

壓氣機「インガソルランド」ER一型百馬力一臺、同七十五馬力一臺「プロットマン」MG七七型六十馬力一臺ヲ新設シ鑿岩機「インガソルランド」R三九番「ジャックハンマー」十二臺、尾尾式二十番六臺「シカゴニューマツタツ」リットツツルジャイアント」十臺「プロットマン」ピツタハンマー」C七番六臺ヲ増加セリ

探掘切羽運搬ノ努力ヲ減スヘク薄層ナル一部ニ本年末ヨリ「リンクチエーン」フエースコンベヤー」二臺ヲ使用シ成績稍認ムヘキニヨリ漸次増設中ナリ

排水ハ東坑本卸斷層部炭層掘進ニ伴ヒ約百立方呎内外ノ増水アリ、尙ホ不時増水ヲ慮リ同卸底ニ百十馬力電氣「タービ

ン」唧筒四臺ヲ増設シ同時ニ八吋ノ排水管三條ヲ途中千二百間増設セリ

坑内運搬ニ於テハ西坑右十片卸ニ使用中ノ六十馬力電氣捲揚機ヲ百二十馬力ニ變更セリ、又東坑本卸右九片下網式「エ

ンドレス」ヲ約七十間延長セリ

●●●●● 九州炭礦株式會社

淺浦坑ニ於テハ淺浦西堅坑昨年末六十三米ヨリ掘鑿ヲ繼續シ本年末百五十米ニ達シ内百三十五米迄「コンクリート」プロ

ツク」築壁工事ヲ完成シ殘部五十米ハ明年五月末完成ノ豫定ナリ、東部主要運搬坑道トシテ大延「エンドレス」坑道開

鑿延長中ノ處百米ニシテ東一坑道ト連絡シ得タレハ今後東部全部ノ出炭ハ同「エンドレス」ニ據リ搬出スル事ニ變更ス

長崎造船所製電力五十馬力橫式壓氣機一臺ヲ増設シ坑内各卸ニ日立製作所製單胴式電氣捲揚機二十馬力三臺、同十馬力

三臺ヲ増設シ排水ノ爲電力五馬力「トラツクポンプ」二臺ヲ購入セリ

●●●●● 三井物産株式會社

蠟浦坑ニ於テハ蠟浦斜坑兩卸補強「コンクリート」工事及六十封度「レール」枠工事ハ上風坑ニ於テ七百十米、下風坑

●●●●● 三井物産株式會社

ニ於テ六百九十米完成セリ、尙ホ東一坑道三百二十米、西一坑道九十米、西十四卸百四十六米掘進シ得タリ、坑内運搬ハ淺浦坑ト同様ノ捲揚機二十馬力十馬力各二臺ヲ増設シ壓氣機及坑内排水唧筒ハ淺浦坑ト同様ノモノヲ同數増設及購入セリ、主要扇風機「シヒタルマンクレーメル」製「ラト」式電力二百馬力排氣量二十五立方呎一臺ヲ据付竣工セリ、尙ホ嶺浦坑出炭専用運炭場新設計畫中ニシテ其設備及能力ハ選炭機「ジシマー」式能力一時間粗炭合計百三十噸三臺、水洗機「バウム」式能力一時間各三十六噸四臺、再洗機共益社式能力一時間五十噸一臺ニシテ明年四月末完成竣工ノ豫定ナリ、又坑内運搬用トシテ日本輸送會社製重量五噸蓄電池機關車四基購入計畫中ナリ

福浦坑ニ於テ増設工事中ナリシ「バブコックエンドウイルコック」加熱面積五千五百平方呎給炭機付一臺本年一月完成セリ

右ノ他鑿岩機足尾製作所製一〇番十二臺、「ガードナーデンバー」九三番七臺、「インガートンランド」BAR三三番十臺、「サリバンマシーナリー」社製L八番一臺計三十臺、「コールビック」プロットマン」社製O A型二臺、「タロース」製六臺「ムードン」社製P二A型一臺、同P三A型十一臺計二十臺、「オーガードリル」社製四臺、小型昭和万能八臺計十二臺ヲ買入レタリ、東邦電力株式會社ト買電契約成立シ電力二千「キロワット」受電ノ爲メ工事ニ着手セリ又石炭船舶積込設備トシテ下崎第二「ベルトコンベヤー」能力一時間二百五十噸一臺増設中ナリ

高島炭礦 長崎縣四波作郡高島村外一村海面 三菱鑛業株式會社

二子坑ニ就テ計畫中ノ探鑛三ツアルモ現今繼續實施中ノモノハ一ツニシテ之ヲ當坑ノ西南深部探鑛ト稱ス、本探鑛ハ當坑最深部ノ探鑛ニシテ海面下約二千尺ヲ西南ニ向ヒ掘進中ノモノナリ、前年中ハ異常ナル破綻帶ニ遭ヒ一進一退ノ狀態ナリシカ本年中銳意其進捗ニ努メシ結果百九十間ヲ進出スルヲ得タリ、然レトモ尙ホ破綻部ヲ脱出セザルモノノ如ク僅

カニ當坑深部地層ノ錯綜並ニ走向ノ狀況ヲ窺フニ足ルノミニシテ末タ具體的計畫ヲ施スヘキ材料ヲ見出サザルヲ遺憾トス

鑛島坑ニ於テハ第四坑内本年一月出水ノタメ同深部斷層先ノ探鑛ヲ一時中止スルノ己ムナキニ至リシモ年末ニ至リ諸設備ヲ整ヘテ再ヒ八片ヨリ上八尺層探炭「タロースカット」及第一連卸九片以下ノ掘進ニ着手セリ

二子坑ニ於テ一區盤砥層第一昇ハ軟質無煙炭探掘ヲ目的トシテ前年末其開鑿ニ着手シタルモ豫期ニ反シ有煙炭ナリシニヨリ其儘繼續シ更ニ將來ノ無煙炭富給ノ關係上磐砥層中ノ同炭探掘ノ目的ヲ以テ本年十一月ヨリ卸掘進ヲ開始セリ、其平均勾配二十五度卸掘進豫定三百間ナリ

鑛島坑ニ於テハ第四坑第一連卸ハ本年末深サ千七百三十尺ニ達シ明年中ニ深サ二千尺ノ位置迄掘進スル豫定ナリ、同坑第一卸ハ本年末捲立及捲揚造ヲ完成シ明年早々二百馬力捲揚機ヲ設置シテ卸掘進ノ豫定ナリ、掘進間數ハ約百八十間ニシテ昭和六年末終了スヘシ、同坑右卸ハ一月浸水以來一時掘進ヲ中止セシモ復舊後工事ヲ始メ年末五片ノ位置迄進行セリ、此間數二百八十間ニシテ昭和六年末ニハ豫定ノ位置ニ達スル見込ナリ、同坑左卸ハ年末豫定通り六片位置ニ達シ其以下ハ位置關係ヨリ捲卸ヲ右折セシメ八片ノ位置迄掘進スル豫定ナリ、此ノ間數百間ニシテ明年中ニハ完成スヘシ、同排氣卸ハ本年七月開始シ年末貫通ス、引續キ排氣卸ト上部風道トノ連絡堅坑ヲ掘進シ明年三月末完成ノ豫定ナリ、第三坑砥先一丈層殘炭柱探掘ノ豫定ニテ目下舊砥先五尺條軌卸ヲ取明ケ中ナリ、明年三月末ニハ一部出炭スル豫定ナリ

二子坑ニ於テ鑿岩機米國「デンバーロックドリル」會社「ウオー」九五番五臺、米國「インガートンランド」會社BAR四三〇番四臺、獨國「フロットマン」會社AZ十一番一臺、佛國「ムードン」製「コールビック」五臺、鑛島坑ニ於テ「インガートン」三百馬力壓氣機一臺、鑿岩機米國「デンバーロックドリル」會社「ウオー」九五番七臺、

米國「インガートンランド」會社BCR四三〇番一臺、佛國「ムードン」會社三一一番「コールビクタ」三臺ヲ増設セリ

坑内排水ハ端島坑第四層坑ニ十吋鐵管ヲ架設シ同坑底仰筒座ヲ擴張シテ三百八十馬力「タービン」仰筒一臺ヲ増設シ三臺運轉シ得ルニ至レリ、之カ爲メ各坑ノ排水系統獨立シ兩坑内排水設備完成セリ

坑内運搬ハ二子坑ニ於テハ十八尺層第二卸ノ發展ニ伴ヒ之カ搬出用トシテ百五十馬力單胴式電氣捲揚機一臺新設セリ、端島坑ニ於テハ第三坑抵前五尺條軌卸ノ百馬力捲ヲ二百馬力捲ニ據替ヘ引續キ片磐ヨリ「クロスカット」ヲ掘進シテ各炭層ニ連絡セシメ同十二條軌卸用百馬力捲ヲモ撤廢セリ

通氣ニ於テハ二子坑ニ於テ掘進個所ノ増加ニ伴ヒ「オードナンス」式排氣量四千立方呎二臺、「シーメンスシュロツタ」式排氣量五千立方呎一臺ノ局部扇風機ヲ増設セリ、端島坑ニ於テ第三坑口ニ扇風機「シロツコ」式排氣量十七立方呎一臺及局部扇風機「シーメンスシュロツタ」式排氣量五千立方呎二臺ヲ増設セリ、尙ホ年末第三坑ヲ排氣坑トスル豫定ニテ風塔建設、風道切替工事等ニ從事シ明年三月末完成ノ豫定ナリ

選炭ニ於テハ二子坑ニ共益社式水洗機公稱能力一時間五十噸一臺ヲ増設セリ

其他端島坑ニ於テ「ウルフ」C型電氣「ランプ」百五十個ヲ増加シ大部分「クレマー」式安全燈ヲ回「キャップランプ」ニ取替ヘ目下「エチソン」E型電氣「ランプ」二百個「ウルフ」C型電氣「ランプ」八百五十個、「ウルフ」油燈(豫備)百九十九個、「クレマー」式油燈四百四十六個ヲ使用シツツアリ

鹿町炭礦 長崎縣北松浦郡鹿町村 南工舎

鹿町本層調査ノ爲メ平田「ダイヤモンド」試錐(本坑第十四號)ヲ前年ニ引續キ行ヒ本年終了セリ、此ノ深度二百二十

七米餘ナリ

本坑新區域採掘ノ目的ニテ前年開鑿ニ着手セシ第二坑運搬坑道延長四百九十三米餘本年三月竣工シタルヲ以テ漸次新區域ノ採掘ヲナシツツ逐次進展セントス、之ニ伴フ第二坑排氣坑道延長百九十五米餘ニテ開鑿完成ス、尙ホ新坑道排氣坑モ延長百六十二米餘ニテ竣工セリ

加勢坑第一坑第二坑ノ隣區ニ於テ作業中ナリシ大加勢炭坑ヲ製鐵所ニ讓受ケ加勢坑第三坑ト名ツケ本年七月ヨリ一般作業ニ着手セリ、同坑ハ從來完全ナル排氣口ナリシニヨリ作業ニ着手スルヤ直ニ從來ノ本卸ニ併行シ排氣坑ヲ掘鑿シ坑外ヨリ左三曲迄幅一・八一八米高サ一・八一八米ノ加勢延長五百二十米完成ス

排水設備ハ加勢坑第三坑ニ讓受當時ノ設備電氣「タービンポンプ」百馬力、七十五馬力、六十馬力各一臺、「エバンスポンプ」汽笛徑四百五耗二臺、四百六耗一臺アリ

坑内運搬ニ於テ本坑ニ三十馬力電氣「エンドレス」一臺、六十馬力可逆式電氣「エンドレス」一臺、二十馬力單胴式電氣捲揚機一臺、加勢坑ニ六十馬力單胴式電氣捲揚機一臺、三十馬力電氣「エンドレス」一臺ヲ設置セル外加勢坑第三坑ニ汽笛徑三百四耗蒸氣捲揚機一臺讓受當時ノ設備アリ

坑外運搬ハ加勢坑海岸石炭函積用運搬機「ネルソンフオードンローダー」一臺ノ原動機タル石油發動機(二十五馬力)ヲ電動機(三十馬力)ニ變更シテ能率ヲ増進セリ、尙ホ加勢第三坑選炭場ヨリ海岸積場間汽笛徑二百五十四耗蒸氣「エンドレス」一臺讓受當時ノ設備アリ

通氣ハ加勢坑ニ「シロツコ」式扇風機排氣量一分間百四十立方米一臺第二坑排氣坑口ニ新設セリ
選炭設備ニ於テハ本坑ニ「フンボルト」式水洗機能力一時間三十五噸一臺、加勢坑一坑、二坑選炭場ニ「バウム」式水

洗機能力一時間五十噸一臺、第三坑選炭場ニ「センチユリ」式水洗機三臺（内一臺能力一時間十五噸再洗炭用、二臺ニテ一時間三十噸洗炭用）ヲ設置セリ、之ニ伴ヒ加勢一坑、二坑水洗機用トシテ沈澱炭回收ノ爲能力一時間二噸「ポインテッドボックス」一臺ヲ新設シ洗炭用水循環使用装置一分間二・八立方メートル増設セリ

住友大瀨炭礦 長崎縣北松浦郡山口村外二村 住友九州炭礦株式會社

第三坑發展ニ伴ヒ同坑ニ斷層掘進並ニ切羽截炭用トシテ日立製作所製橫置型壓氣機五十馬力一臺、斷層掘進用トシテ「デンプー」會社製「ウオーハニマー」九五番四臺、切羽截炭用トシテ「ムードン」製三八A型「ビツクハンマー」二臺（「ビツクハンマー」ハ試用中）ヲ新設シ同坑々内排水ノ爲メ同坑右十五片ニ二十馬力「タービンポンプ」二臺ヲ増設セリ

坑外水洗機場ニハ水洗機給水豫備トシテ二十馬力「セントリフューガルポンプ」一臺及水洗微粉礦尾排却用トシテ汽笛徑十四吋「ワシントンポンプ」一臺ヲ新設セリ

現在塊炭ハ汽船沖積セルヲ汽船岸壁横付積込ニヨリ積込費用ヲ節約センカ爲メニ貯炭場海面六百八十立坪埋立工事ニ前年八月着手シ明年中ニ竣工ノ豫定ナリ

住友芳野浦炭礦 長崎縣北松浦郡中里村外一村 住友九州炭礦株式會社

坑内外ノ設備ヲ改善セル爲メ出炭増加セリ、即チ坑内排水ニ於テ「デートントラックポンプ」七馬力半二臺増設、坑外運搬ニ於テ馬車運搬ヲ改メ下綱式電氣「エンドレス」五十馬力一臺、軌條重量十二封度軌條延長約四百二十間ヲ新設、通氣ニ於テ自然通氣ヲ改メ「シロッコ」式扇風機排氣量一分間十萬立方呎百馬力一臺ヲ坑外ニ新設セル外從來ノ鑛夫浴場ハ腐朽セルニ付浴場一棟（木造平家瓦葺）、鑛夫住宅不足ニ付住宅五棟（四十三戸木造瓦葺平家建）ヲ新築セリ

尙ホ坑外斜坑電氣捲揚機三百馬力一臺設置ニ着手明年三月竣工ノ豫定、又選炭場ニハ「バウム」式洗炭機能力一時間三十噸及十五噸各一臺ヲ新設ニ着手明年一月竣工ノ豫定ナリ

石●(ハ) 油 山
石狩鐵山 石狩國石狩郡石狩町 日本石油株式會社

年々事業ノ發展ニ努メ本年度開坑ノ油井數ハ「ロータリー」式二十九坑ニシテ内二十六坑成功シ、二坑ハ引繼キ掘進中、一坑ハ油量ナク廢坑トセリ、又前年ヨリ引繼キ掘進シ居リシ油井數ハ「ロータリー」式二坑、綱式二坑ナルカ内綱式一坑ハ不成功ニ終レル外三坑ハ成功シ採油中ナリ

原油ヨリ採收ノ揮發油ノ増産ヲ計ル爲メ「トツピング」裝置ノ改良ヲ企テ從來使用中ノ蒸溜釜ト冷却裝置トノ間ニ「エパボレーター」一基、「デフレグメター」一基及原油引出用トシテ「タービン」唧筒一臺ヲ新設セリ、又天然瓦斯噴出量増加ノ爲メ從來ノ「コンプレッサー」(六吋×一二吋高壓一二吋×一二吋低壓) シリンダー能力三〇〇、〇〇〇立方呎ノ高壓「シリンダー」ヲ廢シテ低壓「シリンダー」(一二吋×一二吋)ヲ加ヘ處理能力ヲ六〇〇、〇〇〇立方呎ニ増加シタリ

厚真鐵山 釧路國厚真郡厚真村 日本石油株式會社

事業ノ擴張ニ努メ本年度ニ於ケル油井ノ狀況ハ成功井「ロータリー」七坑、綱式十一坑、上總式三坑計二十一坑、廢坑井綱式一坑ニシテ成功井ノ増加ニヨリ採油量ハ前年ニ比シ約一千六百噸ヲ増加セリ、尙振老方面ニ於ケル上總掘ハ全部輕便綱式ニ變更シテ能率増進ヲ計リ輕舞方面ニ於テハ採油費ヲ低減スル爲メ齒車式「エキセントリック」三段ポンピング「パワー」一基ヲ新設セリ

事業ノ發展ニヨリ輕舞山上ニ輕便軌道（延長四五〇間）ヲ敷設シ、又揮發油採收量ヲ増加セシムル爲メ「ヒード」エキス

ニ終リ廣坑準備中ナリ

整井

前年ヨリ繼續掘整井一坑、同掘下井一坑、本年新着手掘整井四坑ノ中成功井四坑、不成功井一坑、掘整未了井一坑ナリ

成功井一覽表

坑井番號	著手年月日	掘止年月日	掘止深度	成功當時日産量
長嶺ロ式五二	三・一一・二八	四・二・一七	一、七六六・〇	一六・六
同	四・三・二一	四・六・六	一、七三三・〇	二二・四
入和田ロ式三〇	四・六・一七	四・八・三	一、六七六・五	九四・〇
同	三・一〇・六	四・一二・二七	一、八一五・〇	一四・八

「ガスリフトプラント」

茶ノ木「ガスリフトプラント」ニ六月一二、七種×三〇・五種横置單筒複動式瓦斯壓搾機（原動機七十五馬力電動機）ヲ設置セリ

送油線ノ新設

當山産出ノ揮發原料油ヲ柏崎製油所へ直送スル爲長嶺、「ガソリンプラント」、高町間ニ延長七千三百七十三米ノ五十一耗送油線ヲ布設シ既設高町、柏崎製油所間ノ送油線ト連結セシムル工事ハ三月下旬著手、六月下旬竣工セリ
續害除去設備

五月腐朽セル瀧谷送油所、宮川海岸間十二種排水線（延長二千九百米）ヲ一五・二種管ニ布設替セリ
附屬柏崎製油所

(イ) 揮發油蒸溜釜ノ設置 原油蒸溜ヨリ得タル揮發油原料ヲ精洗シタル後間接及直接蒸汽ノ熱ヲ以テ再蒸溜シテ揮發油ヲ採收スル左記設備ハ昨年ヨリ工事中ナリシカ一月完成セリ、其ノ處理能力一ヶ月四千八百七十三箱強ナリ

横置圓筒型蒸溜釜（張込容量一三五箱）

直立圓筒型デフレグメーター（内徑〇・七六二米、長三・二七七米）

同 空氣冷却器（内徑〇・七六二米、長一・二一九米）

長方形冷却槽（幅一・六六一米、深一・六二六米、長七・一六三米）

(ロ) 「アスファルト」製造装置ノ新設 五月原油蒸溜後ノ釜殘滓タル軟「ビッチ」ヲ原料トスル左記「アスファルト」製造装置ヲ新設セリ、其ノ製造能力一ヶ月三百噸ナリ

横置圓筒型ビッチブローケー（直徑一・八二九米、全長六・〇九六米）

同 アスファルトクーラー（直徑二・七四三米、全長七・三九五米）

直立圓筒型注ギ足シ釜（内筒直徑一・〇九二米、内筒深〇・九一四米、外筒直徑一・二五六米）

每分五・六立方米ロータリーコムプレッサー（一五馬力電）

鐵骨波板荷造場（開口一・〇九〇九米、奥行一四・五四五米）

(ハ) 過熱蒸汽蒸溜装置ノ設置 原油ヲ過熱蒸汽ヲ以テ蒸溜セル溜出油及釜殘油ノ品質並ニ原油蒸溜量ニ對スル熱効率ヲ考查研究スル目的ヲ以テ左記設備ヲ一月起工六月完成セリ

横置圓筒型蒸溜釜(直徑〇・九一四米、長三・〇四八米、)

獨立式蒸氣過熱器(ドラム厚五・〇〇〇、ドラム長二・一七〇米)

長方形冷却槽(長三・〇四八米、幅一・八二九米)

直立圓筒型レザーパー(直徑〇・七六二米、長一・二一九米)

同 セパレーター(直徑〇・五八四米、高一・二一九米)

ファン(口徑二五〇耗)

(ニ) 揮發油回收装置ノ増設 長嶺及高町「ガソリンプラント」ニテ採收セル天然揮發油ヲ五十一耗鐵管線ヲ以テ當製油所へ輸送スル際受入槽ニ於テ氣化スル揮發油瓦斯ヨリ揮發油ヲ回收スル爲七月左記装置ヲ増設セリ、其ノ處理能力一日二千八百三十一立方メートルナリ

八、四九四・五立方メートル二段式壓搾機(汽筒徑二・七七米及二・五〇四米、衝程)

三相交流誘導電動機(七五馬力、七・五馬力、五馬力各一)

廻轉式唧筒(所要馬力七・五及五馬力)

吸収塔(直徑〇・九一四米、高八・八三九米、容量五四箱)

受入槽(直徑三・六五七米、高九・三九八米、容量九〇二箱)

蒸發槽(直徑一・三七二米、高四・八七七米、容量七二箱)

分離槽(容量一・七箱二個、一・四箱及〇・九箱各一個)

掃攘器(直徑〇・九一四米、高二・四三八米、容量一四・四箱)

冷却塔(横三・六三六米、縦一・七二七米、高三・六三六米)

(ホ) 硫酸復製装置ノ設置 石油半製品ノ硫酸洗滌ニ因リ生スル廢硫酸ヨリ硫酸ヲ復製スル爲三月起工シタル硫酸復製装置ハ七月竣工シタルカ廢硫酸處理能力一ヶ月約三百五十箱ニシテ設備ノ大要ハ左ノ如シ

復製爐(幅九八・二〇〇、長一五七・六〇〇、深二二・二〇〇、鉛板製鍋一五個)

アリロン製ブランチヤーポンプ(九・二〇〇×二・一七〇、容量毎時)

アリロン製風車(容量毎分四五・三立方メートル、所要馬力三)

電動機(三相交流密閉式三馬力及三相交流開放型五馬力)

直立圓筒型槽(鐵板製内部鉛板張及鉛板製)

角型冷却槽(九一・四四〇×九一・四四〇×一〇六・七〇〇)

(ハ) 原油蒸溜釜ノ増設 八月原油蒸溜釜二基(直徑各三・八一米、胴長九・四二三米及八・九六六米、容量各九〇三箱)及長方形冷却槽(長一〇・六三〇米、幅五・九三二米、深二・四五一米ノモノヲ仲仕切ニテ二個トス)一個ヲ増設セ

(ヘ) 製蠟装置ノ新設 原油蒸溜ノ際分取シタル含蠟重油ヨリ石蠟ヲ製出スル爲六月製蠟装置ノ新設ニ着手シ九月之ヲ完成セリ、一ヶ月處理量千疋(製品量三百六十箱)ニシテ其ノ設備ノ大要左ノ如シ

起寒装置

アンモニア壓縮機(グイムキ式横置複動ボストン型)

ウォーターガスターラー(復管内冷式)

- アンモニアレシーバー(横置圓筒型、直径二五・四脚) 一
- アンモニアコンデンサー(復管内冷式) 一
- リクイドインゼクシヨクター(直立圓筒型直径四〇・六脚) 一
- ブラインクター(横置圓筒多管式、直径〇・六〇九米、長四・八七七米) 一
- 冷却装置 一
- チリングマシン(カーボンテール式) 一
- 壓縮装置 一
- プレッスマシン(直径一・二一九米ノ「プレート」二七〇枚ヲ有ス) 二
- 發汗装置 二
- スウエツチングパン(幅二・四三八米、長七・九七五米、深〇・二二〇米乃至〇・三五六米ノ長方形船底型ノ四個ヲ重キ一組トセルモノ) 二
- 仕上装置 三
- 硬蠟濾過槽 一
- 型詰器(横置冷却式、プレート數五〇) 一
- 原動機 四
- 三相交流誘導電動機(五〇馬力二、一〇馬力一、五馬力一)
- 唧筒、鐵槽類 一八
- 唧筒(大小各種)

鐵槽(大小各種)

四一

(ト)(ナ) 汽罐ノ増設 製油設備ノ擴張ニ伴ヒ七月外装多管式汽罐(直径一・八二九米、長四・七七五米)一基ヲ増設セリ

禮拜油槽所ノ廢止 十二月三十日當所附屬禮拜油槽所ヲ廢止セリ

高町鑛山 新潟縣刈羽郡刈羽村外二 日本石油株式會社

新油層ノ發見ト其ノ採油 新興油田トシテ引續キロ式掘鑿方法ニヨリ増産方針ノ下ニ全力ヲ傾倒シタルニ掘鑿井全部成功シ就中高町ロ式二十二號、割町ロ式十四號ノ兩井ノ如キ成功當時日産前者ハ三百箱、後者ハ百八十箱ノ出油ヲ見タリ

本年中ノ掘鑿深度ハ前年同様千二百米前後ナリシモ高町ロ式二十號井ハ深度九百六米ニテ試油セルニ日産九十箱ノ出油アリタリ、依テ淺層油探究ノ目的ヲ以テ高町及割町ニ綱式各一坑(豫定深度八百米)ヲ開坑スル豫定ナリ

鑿井 前年ヨリ繼續掘鑿井三坑、本年新着手掘鑿井三十二坑、同掘下井一坑ノ中成功井三十二坑(掘下井一坑ヲ含ム)掘鑿未了井四坑ナリ

成功井一覽表

坑井番號	著手年月日	掘止年月日	掘止深度	成功當時日産量
高町ロ式一三	三、一二、三〇	四、二、五	一、一九五・五	八七・〇
同 二二	同	四、二、一〇	一、一八〇・〇	三〇二・〇
同 二三	四、一、二二	四、二、二二	同	一五〇・〇

スルト同時ニ單獨汽力「ブリング」ヲ廢シ「モーターウインチ」ヲ設置シ以テ採油並ニ「ロッド」、「チューピング」揚ケ
 作業ヲ有利ニ導クコトヲ得タリ
 兩施設ノ概要左ノ如シ

名	稱	種	類	原	動	機	起	工	年	月	日	竣	工	年	月	日
高町第一	ポンピング	ナ	シ	七	五	馬力電動機	四、	四、	一	五		四、	一	一、	三	〇
割	町	同	同	同	同	同	四、	四、	二	〇		同	同	同	同	同
高町第一	モーターウインチ	同	同	同	同	同	四、	四、	一	五		同	同	同	同	同
割	町	同	同	同	同	同	四、	四、	二	〇		同	同	同	同	同

「ガスリフトプラント」ノ新設

九月下旬高町及割町ノ兩所ニ「ガスリフトプラント」ヲ新設シ一二・七種×三〇・五種橫置單筒複動式瓦斯壓搾機（原動機七十五馬力電動機）ヲ設置セリ

「ガンリンプラント」ノ擴張

既設一萬四千五百七十七・五立方メートル瓦斯壓搾機二臺ノ全能力ヲ以テシテ尙且ツ處理シ得サル良質瓦斯ヲ有利ニ處理センカ爲其ノ能力ヲ倍加セントスル左記設備ハ五月二十日起工十月二十七日竣工セリ
 四五・七種×四五・七種一段壓搾直結型壓搾機 一
 二一・六種×四五・七種同 一
 四六・七種×六六種橫置式四サイクル瓦斯機關（一二五馬力） 二

尙將來二萬八千三百五十五立方メートル低壓々搾機一臺ヲ増設スル豫定ナリ

鑛害除去設備

從來鑛水ハ一五・二種鐵管ニ依リ結石川ニ放流シタルカ之ヲ荒濱海岸ニ設置ノ五・四五五米×一〇・九米（深七・八七九米）三段濾過池ニ導キ濾過放出セントシ一月二十日二〇・四種鐵管二千六百五十米ノ延長工事ニ着手シ九月十日竣工セリ

附屬修繕工場ノ擴張

事業ノ發展ニ伴ヒ十月西山修繕工場ヨリ四分の一噸直立單筒「スチームハンマー」、二百五十「アムベア」シ「シート」式電弧銲接機其ノ他ノ設備ヲ轉設セリ

刈羽鑛山 新潟縣刈羽郡刈羽村外一 中野興業株式會社

鑛井

前年度ノ成功ニ鑑ミ新ニ「ロータリー」式掘鑿機械二臺ヲ購入シ從來ノモノト合シ七臺ヲ以テ常時二乃至三坑ノ掘鑿計畫ヲ樹テ全力ヲ傾注シテ事業ノ發展ニ努メタル結果本年新着手掘鑿井二十三坑ノ中左記二十坑ノ成功井ヲ得タリ

成功井一覽表

坑	井	番	號	着	手	年	月	日	掘	止	年	月	日	掘	止	深	度	成	功	當	時	日	產	量
ロ	式	七		四、	一、	七			四、	二、	二	八				一、	一八	一・〇				三	〇〇・〇	
同	同	八		四、	二、	八			四、	三、	一	六				一、	一七	八・二				二	一六・六	
同	同	九		四、	三、	二	三		四、	四、	二	四				一、	一七	二・七				三	二五・〇	

二五馬力瓦斯機關

各種鐵槽類

六、二二九・三立方真空唧筒

唧筒

冷却塔(開口一三・六三七米、奥行一八・

一八二米、高六・〇六一米)

安田鑛山(試登二〇二〇號)

新潟縣刈羽郡田尻村外二

日本石油株式會社

五月二十一日開坑ニ着手セルロ式六號井ハ深度八百十五米及八百二十五米ニ油氣アリ、九百三十六米ニテ停掘試油中ナ

リ

安田鑛山(試登九九九五號)

新潟縣刈羽郡田尻村外一

日本石油株式會社

ロ式五號井ハ深度七百五十七米ニテ試油、出油ナク更ニ九百五十七米迄掘進シ尙出油ナキヲ以テ四月五日廢坑シタルモ

十二月十日商工省試掘補助井トシテ網式一號井(豫定深度千百米)ヲ開坑シ年末深度百五十米ニ達セリ

右坑井掘鑿ノ爲十一月夜焚多管式汽罐(直徑一・四七三米、長三・六三三米)一基ヲ設置セリ

出雲縣鑛山 新潟縣三島郡出雲崎町外一

代表者日本石油株式會社

昨年十二月二十日開坑ニ着手セル網式一號井(商工省試掘補助井)ハ豫定深度八百米ノ處年末迄ニ五百二十三米ヲ掘進

セリ

新津鑛山 新潟縣中津郡新津町外五

日本石油株式會社

新油層ノ發見ト其ノ採油

(イ) 朝日方面第三層油ノ探究 大正十五年網式百六十六號井ノ成功以來極力朝日方面所謂第三層油ノ開發ニ努メツツアリシカ本年度ニ於テロ式二十三號及二十四號兩井ノ成功ヲ見タリ、即チロ式二十三號井ハ深度六百三十五米ニテ掘止メ當時日産五七・二噸、其ノ後產油減退ノ爲七三五・五米迄掘進ヲ行ヒ現在三〇・二噸ノ日產ヲ維持シロ式二十四號井ハ深度七百八十三米ニテ掘止メ當時六二・五噸ノ日產額アリタリ

(ロ) 小口方面所謂ザク層ノ掘鑿 小口方面ノ深層油ヲ探究セシカ爲ノ崩壞性頁岩層(ザク層)ノ突破ニ就テハロ式百七號井ニ於テ之カ目的ノ達成ヲ期シ種々手段(油掘リニ次キ「巴拉イト」重液ヲ使用シ其ノ使用量昨年八月ヨリ本年四月迄ニ實ニ八十一噸ニ及ヘリ)ヲ盡シタル結果六百二十米以下押出シ甚シカリシモ辛フシテ七百四十五米迄掘進シ得タルニ猶押上ケ甚シキト挿入管屈曲セラレ夫レ以下進行不能ニ陥リ又ロ式八十三號井ニ於テハ徹底的ニザク層ヲ掘進シ行ヒタル後掘進ノ能否ヲ試驗シタルモ是亦六百二十米迄達シタルニ二一・九種及一六・八種管共屈曲セラレ掘進不能トナリ遂ニ七月十四日限リ休止シ目下善後策講究中ナリ

鑿井

前年ヨリ繼續掘鑿井七坑(内掘下井二)、本年新著手掘鑿井十一坑、同掘下井二坑ノ中成功井八坑(内掘下井一)、不成功井五坑(内掘下井一)、掘鑿未了井七坑(内掘下井二)ナリ

高壓配電線路延長工事

二月自社高壓配電線路ノ終端熊澤ヨリ柄目木迄千六百米ノ電路延長工事ヲ完成シ從來電氣會社ヨリ直接定額制ニ依リ供給ヲ受ケツツアリタル柄目木方面開發用電力ヲ同方面ヲ一括シテ從量制ニ改メ經費ノ節減ヲ計レリ

汽罐ノ増設

坑井掘鑿用トシテ九月外焚多管式汽罐(直徑一・五二四米、長四・四七〇米)一基ヲ増設セリ
附屬新製油所

四月外焚多管式汽罐(直徑一・八二九米、長四・四九六米)一基ヲ増設セル外特記スヘキ事項ナシ
柄目木鑛山 新潟縣中蒲原郡新津町 明治石油株式會社

昨年十月深度一三一六・四米ニ於テ當時日産三二・五箱ノ産油ヲ得タル柄目木ロ式一號井ノ成功ニ鑑ミ此ノ方面ノ發展ヲ
期スル爲本年柄目木ロ式二號、三號及瀧谷ロ式二號井ノ三坑ヲ選定開坑セリ

右三坑ハ何レモ日本石油株式會社稼行ノ共同井ニシテ柄目木ロ式一號井ノ一三二六・四米ニ相當スル位層ニ於テハ油氣
僅少採收スルニ足ルモノナキ爲以下追掘シタルニ柄目木ロ式二號井ハ千五百四十八米ニテ相當ノ「シヨイング」ヲ認メ
タルヲ以テ之カ試油ヲ爲スヘク遮水中ナリ、他ノ二坑モ近ク同位層迄追掘ノ豫定ナリ

東山鑛山 新潟縣古志郡坂町外三 日本石油株式會社

桂澤網式百五十一號井カ深度三八六・五米ニ於テ多量ノ瓦斯ヲ噴出シタルニ鑑ミ同方面ニ於テ更ニ深掘シテ新油層ヲ探
究スヘク百五十一號井ノ南方約百二十米ノ位置ニ開坑セル網式二百五十號井ハ三百六十七米及四百二十六米ニ瓦斯、七
百八十三米ニ瓦斯及油氣アリ結局深度千二百五十二米ニ達シタルモ豫期ノ出油ヲ見ナリシヲ以テ十二月十四日限リ停掘
シ上層油ノ試験ヲ爲スヘク之カ準備中ナリ

大面鑛山 新潟縣南蒲原郡大面村 日本石油株式會社

新油層ノ發見ト其ノ採油

大面方面(探登六七三號)ノ深層油探究ノ目的ヲ以テ追掘ニ著手シタルロ式三十六號井ハ昨年七月着手以來鋭意掘進

中ナリシカ千二百二十米ニ油氣、千四百四米ニ瓦斯、千四百二十五米ニ油氣アリタルモ孰レモ微量ニシテ採收スルニ足
ラス更ニ千七百三十一米迄掘進シタルモ出油ナキヲ以テ遂ニ廢坑ノ已ムナキニ至レリ

鑿井

探登八五七號鑛區内千米前後ノ油層開發ハ本年ニ入り愈々北東ニ進展セリ、即チ前年ヨリ繼續掘鑿井四坑(内掘下井
一)本年新著手掘鑿井十四坑、同掘下井一坑ノ中成功井十三坑、不成功井一坑(掘下井)、掘鑿未了井五坑(内掘下井
一)ナリ

成功井一覽表

坑井番號	著手年月日	掘止年月日	掘止深度	成功當時日産量
ロ式 四九	三、九、二二	四、三、一一	九一三・〇	二〇・〇
同 五三	三、一二、一三	四、三、二一	九七三・〇	三六・六
同 五二	三、一二、一三	四、四、二一	一、〇〇七・〇	二九・〇
同 五一	三、一二、一三	四、四、二一	一、〇〇七・〇	七〇・〇
同 五四	四、一、一四	四、二、二二	一、〇〇〇・〇	三・八
同 五七	四、二、二二	四、二、二二	一、〇〇〇・〇	二〇三・〇
同 五六	四、三、二二	四、二、二二	一、〇七〇・〇	一一三・三
同 五八	四、四、二二	四、二、二二	一、〇五〇・〇	一一三・三
同 五九	四、四、二二	四、二、二二	一、〇四五・〇	二一・三
同 六一	四、七、一二	四、一、一六	一、〇七〇・〇	二一六・五
同 六〇	四、八、一五	四、一、一六	一、〇七〇・〇	一九・一
同 六〇	四、八、一五	四、一、一六	一、〇五〇・〇	二七・六